

福岡県食料・農業・農村の動向

— 平成25年度 農業白書 —

福 岡 県

福岡県食料・農業・農村の動向

— 平成25年度 農業白書 —

福 岡 県

目 次

.....	1
.....	5
.....	7
(1) 県産農産物のブランド化を戦略的に展開	11
(2) 県独自品種の開発	13
(3) 品質維持、安定生産による供給力向上への取組	14
(4) 消費者の認知度向上対策は対象を明確化	15
(1) 県産農産物は市場流通を基本に直接取引も強化	16
(2) 消費者への直接販売	17
(3) 県産農産物の輸出を拡大	18
(1) 新規就農者の拡大・育成	19
(2) 女性農業者の経営参画	20
(3) 園芸農業での雇用労働の導入	21
(4) 水田農業は法人化で経営を安定	22
(5) 水田農業を支える集落機能を維持	24
(1) 「ふくおかの農業応援団」づくり	25
(2) 農産物の安全・安心の確保	27
(3) 環境に配慮した農業生産	29
(1) 女性農業者の社会参画	30
(2) 地域資源を活用した6次産業化の取組	31
(3) 「点」から「面」への視点による中山間地域の振興	32
(4) 鳥獣被害の防止と獣肉の有効活用に向けて	34
(1) 計画的な予防措置で農村の防災機能を強化	35
(2) 気候変動に強い農業生産の推進	36
(3) 農業生産現場でのエネルギー自給力向上	37
○ 平成24年7月梅雨前線豪雨災害からの復旧	38
○ 平成25年度に表彰行事で受賞された方々	41

(1) 米	42
(2) 麦、大豆	43
(3) 生産体制	44
(1) 野菜	45
(2) 果樹	46
(3) 花き・花木	47
(4) 茶	48
(1) 乳用牛、肉用牛	49
(2) 豚、鶏	50
(3) 飼料作物、畜産環境	51
1 福岡農林事務所管内	52
2 朝倉農林事務所管内	53
3 八幡農林事務所管内	54
4 飯塚農林事務所管内	55
5 筑後農林事務所管内	56
6 行橋農林事務所管内	57



水田農業の競争力強化に向け、国の施策見直しに迅速に対応

県では、本県水田農業の持続的発展を図るため、国の施策見直しに的確に対応します。具体的には、米・麦・大豆を組み合わせた経営に加え、排水条件が悪い地域では、飼料用米の作付を推進します。また、新たに制度化された農地中間管理機構を活用し、担い手への農地集積を加速していきます。

国は、以下の4つの改革を行うこととし、この4つの改革を、農業を足腰の強い産業としていくための政策（産業政策）と農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための政策（地域政策）とに位置付け、車の両輪として構造改革を進め、「強い農林水産業」を創り上げることとしています。

I 農地中間管理機構の創設	
II 米政策の見直し	農業者の経営判断で需要に応じた作物を選択
III 経営所得安定対策の見直し	
IV 日本型直接支払制度の創設	

各都道府県知事は、以下の事業を行うことを目的とする一般社団法人又は一般財団法人を、農地中間管理機構として、都道府県に一つ指定することができます。

- ・受け手を公募し、貸付先決定ルールに則し、貸付相手を選定、まとまりのある形で農地を貸付け
- ・受け手に貸付けるまで、借受農地を管理

※出し手が農地を機構に10年以上提供した場合に、協力金を交付

- ・機構に対し、全ての自作地を10年以上貸付ける経営転換・リタイアする農業者に交付（0.5ha以下：300,000円／戸、0.5ha超2.0ha以下：500,000円／戸、2.0ha超：700,000円）
- ・機構の借受農地に隣接する農地を10年以上貸付ける農業者に交付（20,000円／10a）

- ・農地を買入れ、規模拡大を目指す農業者へ農地を売渡し

米の生産調整については、5年後（平成30年産）を目途に行政による米の生産数量目標の配分を廃止し、農業者の経営判断で需要に応じた作物を選択します。

平成25年産：15,000円/10a → ①平成26～29年産：7,500円/10a
 ②平成30年産から廃止

平成25年産：80,000円/10a → 平成26年産以降：55,000～105,000円/10a
 ※収量に応じた単価。なお、飼料用米・米粉用米以外は、交付単価の変更なし

25

- 産地戦略枠の創設
 地域の特色ある魅力的な製品の産地づくりに向けた取組を支援
 具体的には、①所得増加につながる作物生産、②低コスト化につながる作物生産、
 ③付加価値の高い作物生産、を行う取組を支援
- 飼料用米等の多収性専用品種の取組に対する12,000円/10aの追加配分 等
 ※交付要件として、水田フル活用ビジョンの作成が必要

「農地・水保全管理支払交付金」を見直し、農地、水路、農道などの地域資源の保全活動を支援する以下の制度を創設。

- 農地維持支払（創設）：農地法面の草刈り等の基礎的な保全活動を支援
 ※農業者のみの活動組織でも実施可能
- 資源向上支払（組替）：水路・農道の軽微な補修等の共同活動を支援
 ※平成25年度までと同様、地域住民の参加が必要
- 活動計画及び協定の期間 5年間
- 活動の手順 ①活動組織の設立 → ②活動計画書の策定 → ③協定の締結
 → ④申請書類の提出 → ⑤活動の実施 → ⑥活動の記録・報告

【旧：農地・水保全管理支払交付金】			【新：多面的機能支払交付金】		
区分	交付単価（円/10a）		区分	交付単価（円/10a）	
①共同活動支援	田	4,400	(1)農地維持支払	田	3,000
	畑	2,800		畑	2,000
②向上活動支援	田	4,400	(2)資源向上支払 (共同活動)	田	2,400
	畑	2,000		畑	1,440
			(3)資源向上支払 (長寿命化)	田	4,400
				畑	2,000

26

27

（農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律）

本県の対応方針と取組

国の施策見直しに的確に対応できるよう、以下の取組を行い、本県水田農業の持続的発展を図ります。

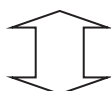
知事が（公財）福岡県農業振興推進機構を農地中間管理機構に指定し、「農地中間管理事業」を実施します。

- ・農地中間管理事業を推進する上で、関係機関・団体の連携を強化することが必要なため、県段階で推進会議を設置しました。
- ・農林事務所単位でも地域推進会議を設置し、市町村、J A等と連携し農家への推進を図るほか、事業推進上の課題の収集、課題解決への支援を実施します。

福岡県農地中間管理事業推進会議

構成：県、農地中間管理機構、農業会議、J A福岡中央会、土地改良事業団体連合会
(役割) 農地中間管理事業の推進、関係事業との調整、市町村等との連携支援

- ・県全体の事業進捗状況等の把握
- ・事業推進上の助言 等



- ・地域の事業進捗状況報告 等

地域農地中間管理事業推進会議（6農林事務所毎に設置）

構成：農林事務所、普及指導センター、市町村、農業委員会、J A、農地中間管理機構
(役割) 農家への事業周知、事業の活用を働きかけ

- ・農地集積がより一層進むよう、県では、国庫事業の対象とならない3年以上の貸し付けに対して、県単独事業で協力金を交付します。

農地集積交付金：3年以上の農地の出し手に対する交付金

3年以上6年未満の貸付け：15,000円/10a

6年以上の貸付け：30,000円/10a

- ・市町村が「人・農地プラン」を策定する際に、農地集積が円滑に進むよう、普及指導センター等がプランの作成・見直しを支援。

※人・農地プラン：地域農業の中心となる経営体を明確化し、その経営体への農地集積を進めるための計画

- ・担い手への農地集積の先進事例を作り、その取組を周辺地域へ波及させるため、モデルとなる重点推進地区を20か所設置し、集落段階の話し合いなど、農地中間管理機構へ提供される農地確保のための取組を支援します。



食育・地産地消を県民運動として展開

本県農林水産業が持続的に発展するためには、競争力の強化はもとより、本県農林水産業に対する県民の積極的な支持が不可欠です。

このため、県では、食と食を支える農林水産業の重要性について理解を深めてもらう「食育」や、県内の豊かな食材を県内で消費する「地産地消」の取組を進めてきました。

今後、更にこれらの取組を拡げ、県民がもっと幅広く、日常的に参加する「食育・地産地消県民運動」として展開していきます。

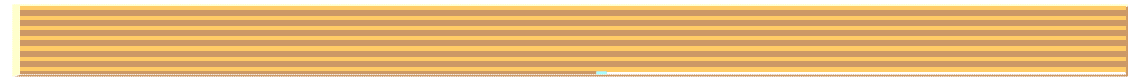
幅広い関係団体が参画した県民会議を設立

県では、平成 25 年 6 月に、保健医療介護、農林水産、教育分野の関係機関だけでなく、経済界、マスコミなど幅広い団体で構成する「食育・地産地消ふくおか県民会議」を設立しました。

この県民会議を推進母体として、県民スローガン「いただきます！福岡のおいしい幸せ」のもと、県民運動を展開します。

※ 県民運動ロゴマーク

県民スローガン『いただきます！福岡のおいしい幸せ』を表現しており、啓発グッズや構成団体の広報紙等で統一的に使用



県では、本県農林水産物が豊富な 11 月を「食育・地産地消月間」と定め、取組初年度である平成 25 年度は、県民運動と月間の周知・広報に努めました。

具体的には、県民スローガン及びロゴマークを作成し、県広報はもとより、県民会議構成団体の広報誌等に掲載するなど、幅広く県民に対して周知・広報を図りました。

また、月間において、県内の飲食店 64 店舗で、県産農林水産物を使った料理を提供する地産地消フェアや、市町村、学校、企業による食育講演会や収穫祭など、県民参加型のイベントを開催するとともに、それらの周知を図るため、イベントの内容をまとめたガイドブックを作成し、小学校や医療機関などに配布しました。

さらに、11 月 16 日、17 日に、天神中央公園で開催された福岡県農林水産まつりの会場において、ふくおかの農業応援の店（10 店舗）が地産地消ランチを提供するとともに、アクロス福岡において、「食育・地産地消県民大会」を開催し、多くの県民に県民運動を P R しました。

平成 26 年度も引き続き、県民運動と月間の周知・広報に努めるとともに、県民会議構成団体による、様々な新しい取組を支援することで、県民運動のさらなる拡大を図ります。

学校給食や子ども達を対象とした取組を強化

子どもの頃から、県産米の美味しさに親しんでもらうため、県民会議では、学校給食に「夢つくし」、「元気つくし」の導入を促進する奨励金を交付しています。

その結果、米飯学校給食実施校すべてが、県産米を使用し、このうち 96% の 1,005 校で「夢つくし」が 3,832 t 使用されています。

また、農林水産物の旬情報や朝ごはんの重要性を掲載したカレンダー「よくわかる！ふくおかの農林水産業」を作成し、県内全小学校に、配布しました。

さらに、平成 26 年度からは、子ども達に甘柿生産日本一である本県の柿に親しんでもらうとともに、食に対する理解を深めてもらうため、生産者の協力による調理実習での柿の皮むき体験の場を増やしていきます。

食育・地産地消ポータルサイトやフェイスブックで情報を発信

食育・地産地消に関わる様々な情報をまとめた食育・地産地消ポータルサイトを構築しました。

このサイトは、福岡県の農林水産物や直売所の情報など、多くの情報を一元的に提供することで、県民運動の促進を図るものです。

また、これまでの一方的な情報提供だけでなく、双方向性を持った SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）の一つであるフェイスブックを活用し、県民等を巻き込みながら、福岡県総ぐるみでの県民運動を展開します。

県民の健康で豊かな生活の実現と 本県農林水産業の発展を目指します！

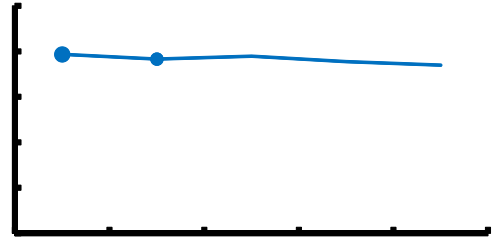
第1章 福岡県農業の動き

1 米の収穫量は前年産に比べやや減少

・米の収穫量は、登熟期の高温や、トビイロウンカによる被害の影響で、前年産比2%、3,300 t減少し、185,400 tとなりました。

・麦の収穫量は、生育期の低温・多雨の影響で穂数は少なかったが、登熟が良好であったため、前年産比1%、600 t増加し、67,600 tでした。

・大豆は適期に播種ができたものの、生育期の乾燥により収穫量が平年より減少し、13,000 tとなりました。



2 野菜の生産量は前年並、果樹は減少

・野菜の生産量は、108,000 tで前年度並、果樹は、35,000 tで前年度比4%減少、花きは、286,200 千本で前年並でした。

・いちごは、出荷量12,000 tと前年度並でした。

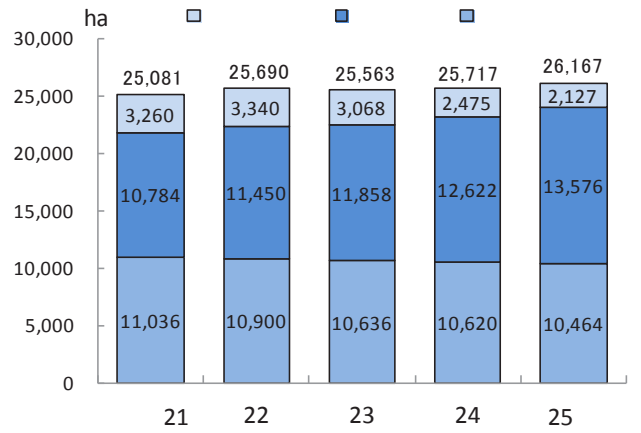
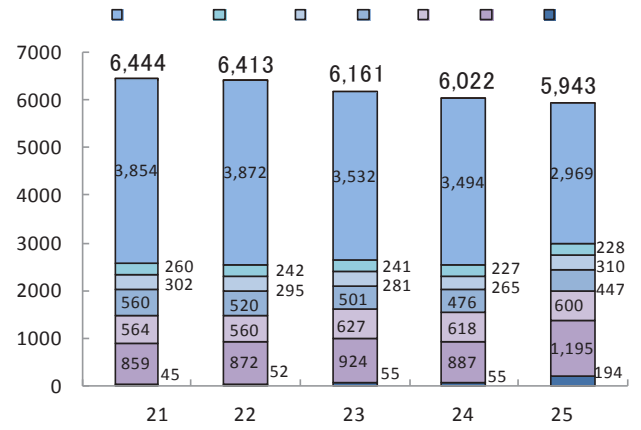
・かきは生理落果や小玉果の影響で、10,300 tと前年度比3,600 t減少しました。温州みかんは、10,000 tで前年度比640 t増加しました。

3 畜産の飼養頭羽数はほぼ前年並

・乳用牛の飼養頭数は前年並の15,800 頭、肉用牛も、前年並の24,600 頭でした。養豚でも飼養頭数は前年並の79,200 頭となりました。

・養鶏の飼養羽数は、採卵鶏が前年比5%減の2,843 千羽、肉用鶏は、「はかた地どり」が10 千羽増加したものの、前年並の1,395 千羽となりました。

4 認定農



6 福岡県農業の主要指標

□	□□□□□			□ %	□□	□□□□
	%	3.) 6 5 .	/) 2 / 4) 6 1 5 % /) 1 4 3) 4 1 2	/ 2	. 5	/ - - -
	%	1 .) 4 / 4	.) 3 0 .) / - 3	/ 3	. 5	
	%	. -) 1 . 3	0 2 6) 4 / -	/ 6	. 2	
	%	/ 2 -	/ / .			
	%	6) - - 1	0 5 5) 5 5 0	/ 0	. 5	
	%	/ /) 0 - 4	5 5 /) 3 - 0	/ 2	. 3	
	%	/ -) / 2 1	5 6 3) 4 1 /	/ 0	. 3	
	%	3 5) - 6 .	/) 3 - 2) 4 0 3	/ 3	. 5	/ - - -
	%	1 6 6	1 6 6			
3 2	%	2 5 /	3 . 3			
	%	2 .) 0 0 /	/) - 2 .) 1 0 4	/ 2	. 3	
	%	5 2) / - -	1) 2 0 4) - - - % 0) 0 5 3) - - -	. 6	. 2	/ 2
	%	3 4) 0 - -	/) 1 3 2) - - - % /) / 1 .) - - -	/ 4	. 1	
	%	. 4) 6 - -	/) - 4 /) - - -	- 6	/ 1	
	%	4 6 -	2 1 0 % 3 3 /		. 1	
	%	. 0 4 2	. 4 6 2 % . 0 3 4		/ .	
	%	/) / 3 2	5 3) . - 1	/ 3	. 1	/ 1
	%	1 4 .	/ -) 0 2 .	/ 0	. 2	
	%	0 1	1 2 3	4 2	1	
	%	/ .	3 4 0	0 -	1	
	%	4 4 0	/ .) 5 6 3	0 2	6	
	%	/ 1 5	4) 1 4 .	0 0	6	
	%	. 5 4	0) 1 2 .	2 1	/	
	%	5 3	5 . 2	. - 3	.	
	%	0 4	.) 6 3 /	. 6	. 0	
	%	0 4 5	/ 3) 2 0 .	. 1	/ 0	
	%	. 2) 5 - -	.) 1 / 0) - - -	. .	. 1	/ 2
	%	/ 1) 3 - -	/) 3 1 /) - - -	- 6	/ 4	
	%	4 6) / - -	6) 3 5 2) - - -	- 5	/ 4	
	%	/) 5 1 0	. 0 2) - 5 2	/ .	/ .	
	%	.) 0 6 2	. 0 .) 3 / 1	. .	. 6	

7 福岡県農業の全国的地位

	1								
	4)5.-	.66)6--	3.)1--	.2)6--	.1)---	.0)---	5)11-	3	4
	/36)2--	/							
	/.)---	661)3--	204)---	34)3--	23)1--	2.)2--	0/)6--	5	4
	/.)-/--	/							
	.1)6--	5.)4--	20.)6--	2-)/--	/6)3--	/2)1--	/)---	4	3
	04)2--	0							
	2)4/-	.3)3--	04)2--	/3)0--	.3)/--	4)/4-	2)1.-	.2	.1
	2)---	1							
	1.2	.1)4--	1)3.-	0)16-	/)62-	.)/0-	242	5	5
	2)4/-	/							
	131	.30)/--	/2)6--	.5)---	/)---	.-)3--	.-)2--	5	.1
	/)20-	/							
	//2	1)/--	.3)---	1)0--	/)46-	/)21-	.)3--	6	.1
	/)-4-	2							
	.21	0.)6--	1)4--	0)6.-	/)15-	/)06-	/).0-	4	4
	3.-	0							
	20	0/)6--	.0)4--	4)/--	0)12-	/)36-	4.-	6	.1
	0)6/-	2							
	.02	036)5--	5-)1--	1-)3--	/3)/--	/1)---	.4)4--	0	2
	.)3-	0							
	//	.)0)6--	0-)2--	/1)---	.3)---	5)63-	3)30-	.1	.1
	/.)6--	0							
	.)61-	/20)5--	20)6--	0-)---	/2)---	.6)0--	.3)3--	6	.1
	/)/1-	/							
	/61	/6)5--	4)1--	2)1.-	0)23-	.)62-	.)62-	.0	.5
	.)-31	1							
	.04	.1)2--	/)2.2	/)/51	.)2..	.)03/	.)003	.0	6
	2)/0-	1							
	/65	.)262)---	125)2--	/4)/6--	.5)2--	.3)2--	4-)0--	3	4
	/)4.3	/							
	/15	54-)0--	024)0--	54)4--	30)4--	3.)0--	1.)0--	6	.1
	6/	/							
	.2	.3.)4--	3.)1--	/3)0--	.3)0--	.0)1--	./)1--	.3	.3
	1-6	0							
	//	/54)4--	2-)2--	/1)1--	.5)6--	.4)3--	.0)4--	2	4
	.24	.							
	.3	.6)4--	0).3-	0).2-	.)42-	.)35-	.)24-	.1	.3
	102	0							
	05	.-)6--	.1)---	.-)3--	6)/5-	2)63-	2)4/-	6	6
	//2	0							
	/1	.4)---	0)60-	.)4.-	.)35-	6/6	6.5	.1	.1
	□	.							
		5.2	53	25	15	11	1/	.1	.1
		2							
		20)5--	/)1--	.4)/--	0)06-	0)01-	.)52-	0	0
		5.5	/						
		.4	0)10-	0)04-	3.			/	/
	/2	/2	/2	/2	/1	/1	/1	/1	/1
	/1	/1	/0	/0	/1	/1	/1	/1	/1
	/1	/1	/0	/0	/1	/1	/1	/1	/1
	/2	/2	/2	/2	/1	/1	/1	/1	/1

第2章 施策の展開方向

1 ブランド化を通じた県産農産物の競争力強化

本県では、品種開発の加速、品質維持・安定生産による供給力の向上、対象を明確化した認知度向上対策など、ブランド化を戦略的に展開しています。

これまで、「あまおう」や「夢つくし」など全国に誇れる農産物のブランド化を展開してきました。平成25年度は、ラーメン用小麦「ラー麦」、いちじく「とよみつひめ」、「博多和牛」、「はかた地どり」などのブランド確立に向け、積極的に取組を進めました。

(1) 県産農産物のブランド化を戦略的に展開

(ブランド化推進品目の生産量は拡大)

- ・ブランド化を進めている品目の生産量について、生産拡大に取り組んだ結果、前年産と比較すると、「元気つくし」は110%の20,400t、「ラー麦」は105%の2,720t、「とよみつひめ」は101%の375tと拡大しました。
- ・畜産では、「博多和牛」の出荷頭数が106%の3,738頭、「はかた地どり」の出荷羽数は103%の41万羽となっています。
- ・各品目ともに、生産量は増加傾向であり、引き続き、ブランド確立に向けて、さらなる生産拡大に取り組めます。

		18,600		110%
		6		
				101%
				106%
				103%

(「ラー麦」使用ラーメン店は122店舗に拡大)

- ・平成25年11月16日から9日間、県内63軒の屋台で「ラー麦」ラーメンを提供しました。今回は、福岡市の屋台だけでなく、新たに久留米市の屋台を加えて実施しました。
- ・また、県内の「ラー麦」使用ラーメン店が約100店舗参加して、11月16日から12月31日にかけて、抽選で県産農産物を贈呈するPRキャンペーンを実施しました。
- ・11月17日には、福岡県農林水産まつりのステージイベントにおいて、小川知事の参加のもと、キャンペーンのPRセレモニーを行いました。
- ・平成25年度の「ラー麦」使用店舗数は前年度から14増えて、県内122店舗に拡大しました。
- ・今後も消費者のみならず、ラーメン店や製麺業者における認知度を高め、「ラー麦」の利用促進と消費拡大を図ります。

PR

(「とよみつひめ」の県内における認知度は**54%**)

- ・「とよみつひめ」については、天神地区にフルーツステーションを設置し、カットフルーツやタルトのPR・販売を実施しました。オープニングセレモニーでは、知事も出席し、試食品を配布するなど、積極的にPRしました。
- ・また、女性向けファッション雑誌で果実の特長や機能性、レシピの紹介を行いました。
- ・これらの取組の結果、県が実施したアンケートでは、県内における認知度は54%と、消費者に順調に浸透してきています。
- ・今後も、果実消費量が少ない若い世代をターゲットに、外食産業などと連携し、認知度向上対策を積極的に展開します。

(「博多和牛」使用店舗数は**120**店舗に拡大)

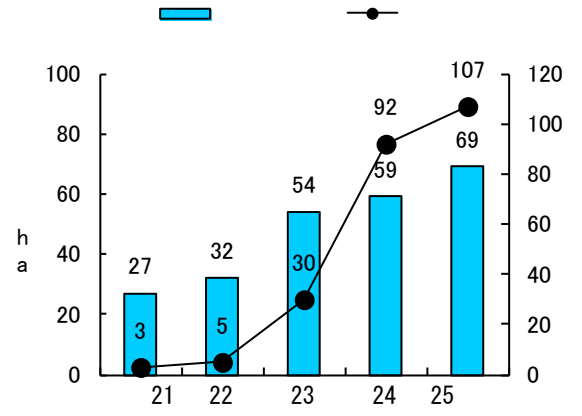
- ・平成25年8月のヤフオクドームフェアを皮切りに、博多和牛キャンペーンを実施し、メインイベントとして、11月23日に福岡市西区のマリノアシティ福岡で「博多和牛まつり」を開催しました。
- ・博多和牛の焼肉や牛汁を生産者が販売し、クイズ大会など、楽しみながら学べる企画も行いました。
- ・これらの取組の結果、「博多和牛」使用店舗数は前年度から6店舗増えて120店舗に拡大しています。県が実施したアンケートでは、県内における認知度は22%となっており、認知度を向上させるよう、今後も、イベントの実施等、対策を強化します。

(「はかた地どり」のPRを強化)

- ・「はかた地どり」のPRのため、平成25年11月16～17日の2日間、福岡県農林水産まつり会場において、九州地鶏まつりを開催しました。
- ・熊本県や宮崎県の地鶏と共同出展することで話題性が高まり、会場は多くの来客で賑わいました。
- ・また、筑紫野市において、農商工関係団体等と連携し、「めしあがれ！ちくしの食フェスタ」を開催し、「はかた地どり」を使った地元の郷土料理「白おこわ」と、新メニュー「筑紫野風からあげ」の試食品を提供し、好評を博しました。
- ・今後も、PR効果の高いイベントを積極的に展開し、県内での消費拡大を進めます。

(2) 県

(3) 品質維持、安定生産による供給力向上への取組
(高い品質基準の「北原 早生」)



(4) 消費者の認知

2 多様な流通・消費に対応した生産・販売

流通・消費の変化に対応するため、市場流通を基本にしつつ、県産農産物の直接取引や直接販売、海外への輸出を進めています。

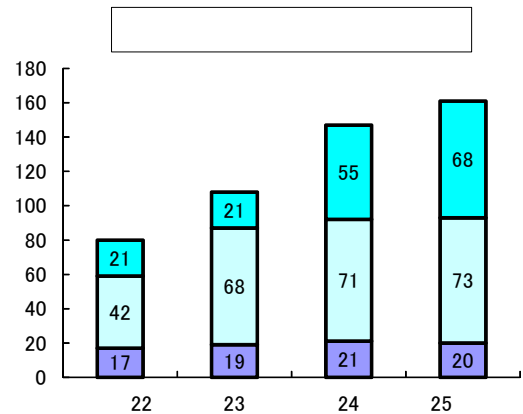
本県でブランド化を進めているいちじく「とよみつひめ」は、パッケージセンターの整備を進めており、直接取引が拡大しています。

(1) 県産農産物は市場流通を基本に直接取引も強化 (農業生産法人の直接取引が拡大)

・スーパーや外食産業の需要に対応し、JAや直売所、農業生産法人の直接取引が増加しています。

・特に鮮度を売りにした小売業者との直接取引や、加工業者との連携による商品開発・販売を行う法人が大幅に増加し、直接取引を行う農業生産法人は、前年度から13増加して68法人となりました。

・今後も、直接取引の推進により多様な販売チャンネルに対応した農業経営の実現を図ります。



(パッケージセンターの整備で直接取引を拡大)

・直接取引の拡大には、青果物を取引先の要望に合わせ、様々な荷姿で出荷できるパッケージセンターの整備が必要です。県では、多様なニーズに対応した販売力強化のための施設整備を支援しています。

・平成24年度から25年度にかけて、JA筑前あさくらでいちじくのパッケージセンターが増設されました。これにより、生協等との直接取引が拡大しました。

・パッケージセンターの活用により、荷造作業の外注化を進め、荷造作業にかかる労働力を栽培管理に充てることで、品質の向上を図っています。

JA

(2) 消費者への直接販売

(魅力ある直売所づくりに向けて)

- ・農産物直売所は、新鮮で安全・安心な農産物を提供することで、消費者から高い評価を受けています。平成 26 年 3 月現在、農産物直売所の総数は 194 か所で、年間の来客者数は、2,800 万人を超えていますが、高齢化による出荷者の減少や、量販店の直売コーナーとの競合など、共通の課題を抱えています。
- ・今後も、直売所が地産地消の拠点として発展していくためには、共通課題の解決に向けた情報の共有化や直売所間の協力体制の構築、地域の多様なニーズに応じた直接取引などの新たな販路開拓を進めていくことが必要です。

(直接取引を行う直売所が増加)

- ・地元企業の社員食堂や福祉施設等と直接取引を行っている直売所は、73 か所で、前年度に比べ 2 か所増えました。
- ・県では、地元産の農林水産物を求める飲食店や病院・福祉施設等と直売所とのマッチングを支援しました。また、直接取引の拡大に関するセミナーを開催するなど、直売所関係者の販路拡大に対する意識向上に努めました。
- ・平成 26 年度は、インターネットを使って受発注するシステムの運用を開始します。

26

相手先	直売所 (延べ数)
学校給食（保育所含む）	61
外食・食品産業	8
地元企業の社員食堂	6
飲食店（旅館等を含む）	22
病院等福祉施設	21

(福岡県直売所連絡協議会を設立)

- ・県内の直売所が、相互交流や情報交換・連携により、直売所と地域農業の活性化を図ることを目的に、「福岡県直売所連絡協議会」を平成 26 年 2 月に設立しました。
- ・今後は、飲食店や学校等との直接取引、出張販売の優良事例等に関する情報提供や、直売所間の商材融通など、消費者に求められる直売所づくりを支援していきます。

◎直売所による出張販売が増加

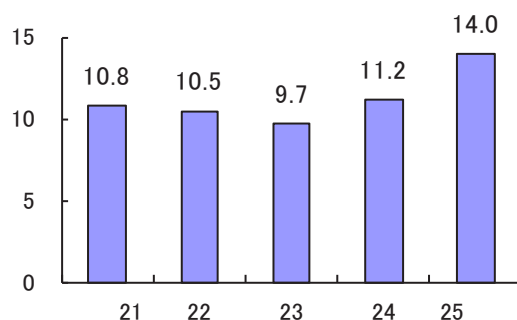
- ・「四季菜の市やっぱあ〜岡垣」(岡垣町)では、買い物に来られない方のため、地域の関係団体や町と連携し、出張販売を開始しました。
- また、「道の駅たちばな」(八女市)では、病院が配送用の車両を準備するなど、直売所と病院が連携して病院食への食材の提供を行っています。
- ・これらの取組を拡大することにより、地産地消の拠点として地域に根ざした直売所づくりを推進し、ファン拡大を目指しています。

(3) 県産農産物の輸出を拡大

(輸出額が前年度に比べ約3割増加)

・農産物輸出額は、14億2千万円で、前年度に比べ約3割、2億8千5百万円増加しました。

・これは、販売促進フェア等の実施や平成24年度からの円安が継続したことにより、本県最大の輸出先である香港を中心に果実・野菜の輸出が増加したこと、また、タイ向け「博多和牛」や欧州向け「八女茶」の取引が増加したこと等によるものです。



(台湾や香港で、県産農産物のトップセールスを展開)

・県産農産物の輸出拡大のために、台湾や香港で、知事によるトップセールスを行いました。

・特に台湾では、いちご「あまおう」が輸出10周年を迎えたことを受け、全国農業協同組合連合会福岡県本部と協力し、現地百貨店で記念イベントを開催しました。

・イベントでは、知事が来場した台湾の消費者一人ひとりに、「あまおう」を手渡し、その美味しさ・品質の高さをPRしました。

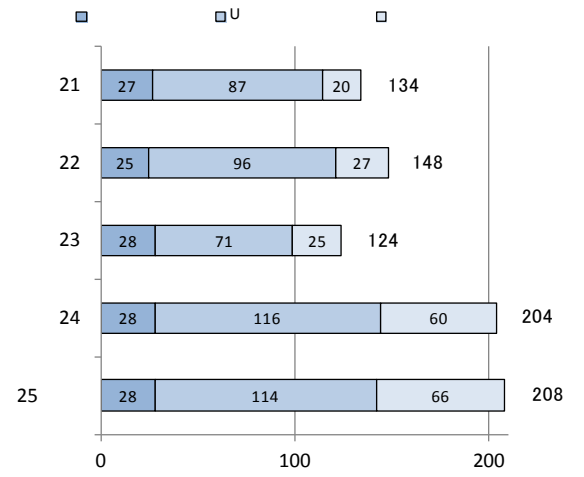
・今後も、県産品の現地でのPRや販売促進に取り組み、輸出拡大につなげていきます。

(「オール九州」で初の取組を展開)

・香港では、九州農業成長産業化連携協議会（事務局：(一社)九州経済連合会等）の主催により、九州各県の農水産業団体や食品企業等が一堂に会する初めての商談会「オール九州農水産物トレードフェア in 香港」が開催されました。

・本県からは、10団体・14企業が、いちご「あまおう」や農産・水産加工品、花き等を出展し、その品質の高さが来場した香港のバイヤーの目にとまり、取引開始につながりました。

in



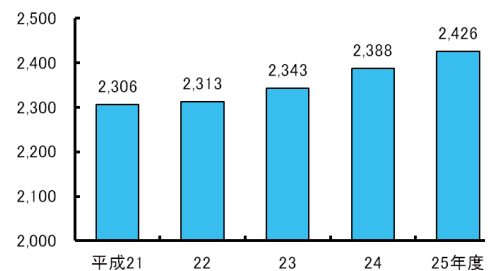
(2) 女性農業者の経営参画

(女性の負担軽減のため「あんしんの広場」等を導入)

- ・女性農業者は、農作業以外にも家事・育児・介護等の負担が大きいことから、この負担を軽減することが課題です。
- ・このため、高齢者を預かる「あんしんの広場」と、農繁期に作業者を派遣する「営農ヘルパー制度」の導入を進め、平成26年度までに全農協で導入予定です。
- ・「あんしんの広場」では、高齢者が体操や工作など楽しみながら充実した時間を過ごせ、女性農業者からは時間にゆとりが出来るかと喜ばれています。また、「営農ヘルパー制度」は、イチゴやトマト、キクなどの収穫や管理作業で活用されています。

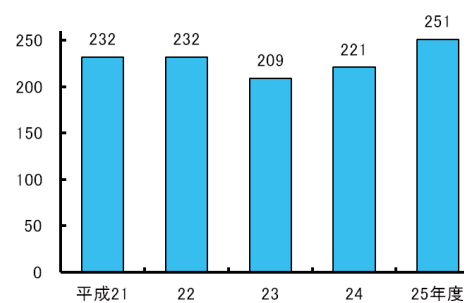
(家族経営協定は前年度比38件増の2,426件)

- ・家族経営協定の締結数は2,426件で、前年度より38件増加しました。
- ・これは、農業経営改善計画の見直しの際、普及指導センターによる指導等により、家族経営協定を締結する農家が増えているためです。



(女性の新規起業は39件)

- ・女性農業者による起業数は251件で、新規の起業数は39件でした。
- ・県では、新商品開発に対する支援や、販売ノウハウを学ぶためのアドバイザーを派遣するなど、女性農業者の新規起業を推進しています。



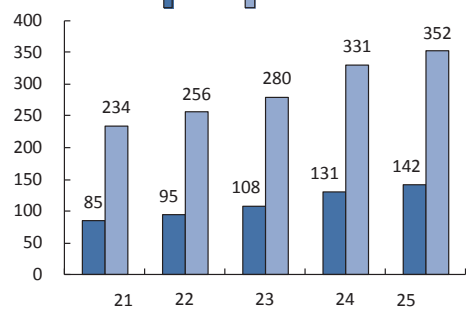
○ 「女性の視点を活かした経営発展講座」で楽しく経営者マインドを磨く

- ・女性の経営参画を進めるため、交流を通じて異業種の経営ノウハウや消費者ニーズの捉え方などを学ぶ講座や新商品を開発する過程の体験を通して、マーケティングの手法を学ぶ講座を開催しました。
- ・受講生からは、「いろいろな業種の人と話ができて有意義だった。」「マーケティングについて、よくわかったので、これから実践してみたい。」など意欲ある声が多く聞かれました。
- ・この講座を受けて、新たにえのきクッキーなどの新商品が開発されました。
- ・今後も女性農業者の経営参画に繋がる取組を進めます。

(4) 水田農業は法人化で経営を安定

(法人化した集落営農組織は前年度に比べ、11 増の 142 法人)

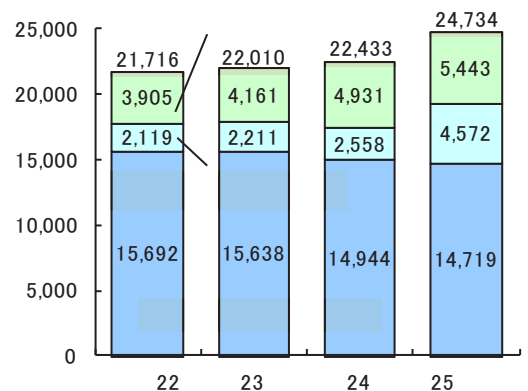
- ・法人化した集落営農組織数は、農業経営アドバイザーの派遣や高性能農業機械の導入支援により、前年度に比べ 11 増の 142 法人となりました。また、大規模農家(10ha 以上の個別経営体)は、21 増の 352 経営体となり、うち法人化した大規模農家は 3 増の 22 経営体となりました。
- ・経営基盤強化交付金の活用により、米・麦・大豆の作付拡大や経営の複合化等に取り組んだ結果、同交付金を活用した経営体の 40%で、所得が増加しています。
- ・県では、今後も園芸作物の導入や販路拡大等による経営発展の取組を支援し、担い手の経営基盤を強化していきます。



()	
	40%
	38%
	8%
	11%

(担い手への集積面積は本県水田面積の 49%)

- ・大規模農家と集落営農組織の集積面積(受託面積を含む)は 24,734ha となり、集積率は、本県の水田面積*の 49%で前年度と比較して 4 ポイント増加しました。
- ・そのうち、大規模農家の集積面積は 5,443ha、法人化した集落営農組織の集積面積は 4,572ha で、それぞれ担い手の集積面積全体の 22%、18%を占めています。
- ・大規模農家や法人化した集落営農組織への集積が進むよう、農地中間管理機構を活用した農地の貸借を促進する取組を行っていきます。



* 水田面積 : 土地利用型作物(米、麦、大豆)が生産されている水田の面積で約 50,000ha。

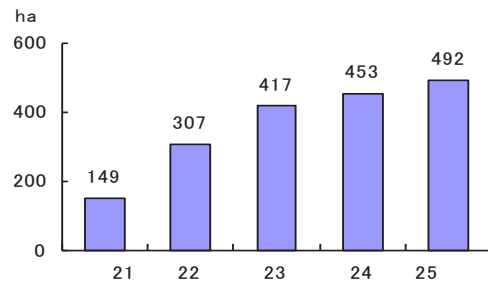
○雇用者の役員登用により、持続性のある法人経営に取り組む

はるさん農園株式会社(代表者 鬼木 晴人 氏)

- ・水稲 18ha、麦 20ha、タマネギ 0.7ha の大規模経営を行う、福岡市のはるさん農園株式会社は、2名の常時雇用により労働力を確保しながら、「地域の農地の保全と有効活用」を基本に農地集積を進め、経営規模の拡大を図っています。
- ・経営の持続性を重視し、法人化を契機に、雇用者を役員に登用して、後継者の育成に努めています。
- ・労働力と農業機械の作業能力を勘案した効率的な生産体系を構築しながら、生産基盤を固めた上で、さらなる経営発展の取組を行っていききたいとの意向です。

(ほ場整備面積は 39ha 増加)

- ・平成 25 年度は久留米市、朝倉市などでほ場 39ha を整備しました。
- ・ほ場の整備により、麦、大豆、野菜などの導入とともに、担い手への農地の集積も進んでいます。

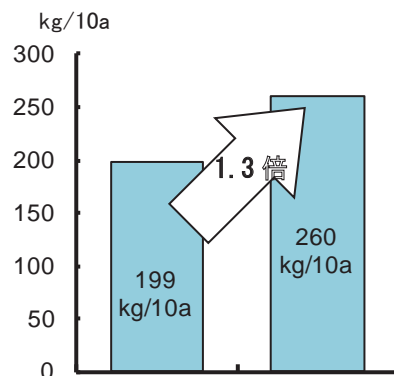


(ほ場整備を契機に法人への農地集積が進む)

- ・築上町の宇留津地区では、平成 23 年 11 月に『農事組合法人 築上農園うるつ』を設立し、地区全体の 32ha で大規模経営を展開しています。
- ・暗渠排水を施工することで、麦、大豆はもとより、なたねやブロッコリーの作付けにも取り組んでいます。

(暗渠排水の整備で大豆の収量が 1.3 倍に増加)

- ・ほ場整備済みの農地の湿害を軽減し、麦・大豆の品質の向上や収量を安定させるため、国庫の定額補助を活用して、暗渠排水の整備を促進しています。
- ・平成 24 年度は 1,337ha、平成 25 年度は北九州市、柳川市、大川市などで 832ha を整備しました。
- ・平成 24 年度に暗渠排水を 180ha 整備した城島地区(久留米市)では、大豆の収量が整備前の 1.3 倍に増加しました。



(農業集落排水施設の長寿命化に向けた取組が進む)

- ・農業集落排水施設は、昭和 59 年度から整備が始まり、これまで 65 地区で供用開始され、整備人口は 50,386 人と、農村地域の生活環境の改善に大きく寄与しています。
- ・今後は、施設の設置後 20 年を超える地区が急速に増加することから、計画的に老朽化対策を講じることが必要です。
- ・県では、施設の長寿命化を図るため、機能診断に基づき、ポンプ施設の部分更新など機能強化対策に取り組んでいます。
- ・平成 25 年度は、6 地区の機能診断を実施し、また、機能強化対策を 4 地区で実施しました。

(5) 水田農業を支える集落機能を維持
(農地・水保全管理支払制度の共同活動地区数)

4 県民とともにつくる「ふくおかの農業」

県では、「応援団」づくりで、県産農林水産物への県民の広範な支持を拡大するとともに、安全・安心の確保で、県産農林水産物の信頼の向上を図っています。また、環境に配慮した農業生産も拡大を進めています。

(1) 「ふくおかの農業応援団」づくり

(応援団の枠組みを広げ、新たに企業や団体が仲間入り)

・平成23年9月に創設した「ふくおかの農業応援団」(「応援ファミリー」と「応援の店」)の枠組をさらに拡大し、県産農林水産物の消費拡大につながる取組や、農山漁村地域で社会貢献活動を実施する企業・NPO法人等を「ふくおかの農業応援団体」として登録することとしました。

・社員食堂で地産地消メニューを提供する企業や、梅雨前線豪雨の被災地域で復興支援ボランティアを行っているNPO法人など、「応援団体」の登録数は50団体となりました。企業や団体も一体となった「ふくおかの応援団」づくりを推進し、更なる地産地消の拡大を図っていきます。

(応援

（「元気つくし」の学校給食への導入を開始）

- ・子どもの頃から美味しいお米の味を覚えてもらうため、学校給食へ県産米導入を推進しており、平成25年度からは「夢つくし」に加え、「元気つくし」の導入を開始しました。
- ・平成26年1月には、田川市の小学校で、知事と児童が、「元気つくし」、「福岡のり」、「小松菜」など、地元産や県産農林水産物を使った学校給食を楽しみました。

（小・中学校等の給食へ県産果実を導入）

- ・子どもの頃から旬の美味しい県産果実に親しんでもらうため、平成23年度から、学校給食へ県産果実の導入を進めており、平成25年度は、小・中学校など1,423校へ柿やなし、ぶどうを提供しました。
- ・今後は、カットフルーツ※にした柿の導入や、調理実習での柿の皮むき体験など、地産地消や食育に取り組む機会を増やしていきます。

※ カットフルーツ：既に皮がむかれていて、食べやすい大きさにカットされている果物。

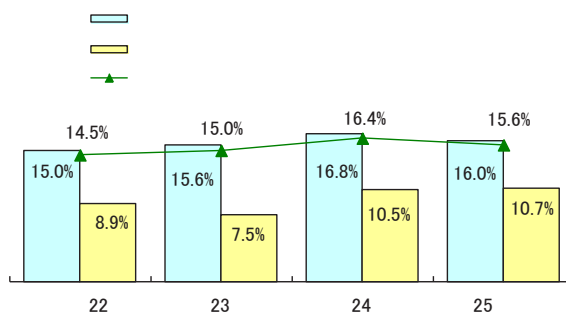
25	
	9 6
:	

（学校給食での地元産青果物※¹の利用は15.6%）

- ・学校給食、農業等の関係者が協議会を設置し、生産状況の情報提供やメニューの検討等を行い、直売所からの地元産青果物の利用を進めています。
- ・野菜の利用率※²は減ったものの、柿やなしの利用が増加したことから、地元産青果物の利用率は15.6%となりました。
- ・地元産青果物の一層の利用が期待されます。

※¹ 地元産青果物：当該市町村内または農協区域内で生産されている野菜、果実。

※² 利用率：重量ベースでの利用率。



○県産果実の導入に合わせ、小学校にDVDを配布

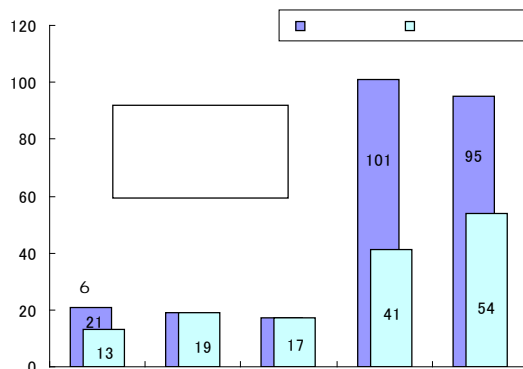
- ・地産地消や県産果実に対する興味や関心を深めてもらうため、柿、なしを提供した小学校すべてに教材DVDを配布しました。
- ・提供した柿を食べた小学生からは「柿ってこんなにあまいんだ」、「柿は苦手だったけど、おいしくて好きになれた」などの感想が寄せられ、県産果実に親しみを持ってもらうことができました。

DVD

(2) 農産物の安全・安心の確保

(麦・大豆の全ての産地がGAPを実践)

- ・県では、適正な農作業の実施を推進するため、GAP*実践産地等の拡大に取り組んでいます。
- ・平成 25 年度にGAPを実践した産地数は 144 であり、実践率は57%となりました。
- ・作物別では、麦、大豆は全ての産地がGAPを実践していますが、米及び果樹では、実践率が約 6 割、野菜産地は約 4 割となっています。
- ・今後、関係機関とともに、米、野菜及び果樹におけるGAP実践産地の拡大に取り組めます。



Good Agricultural Practice

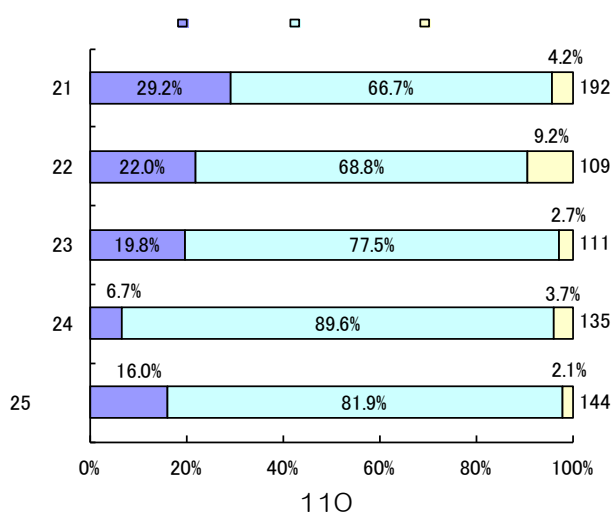
(青年農業者グループのGAP実践を支援)

- ・県では、GAPを実践する産地や農業経営者を拡大するため、GAP指導者の育成を目的とした研修会を開催しています。
- ・研修を受講した普及指導員が、青年農業者グループのGAP実践を支援し、青年農業者は農薬保管状況の改善などに自ら取り組みました。
- ・GAPの実践により、農産物の安全確保だけでなく、経営改善などが図られることから、引き続き、GAPを実践する産地等を支援します。

(食品表示の適正化を推進)

- ・県では、食品表示の適正化を推進するため、食品小売店舗や直売所に対する巡回調査・指導を実施するとともに、農産物を加工する生産者や食品製造業者等を対象とした説明会を開催しています。
- ・「食品表示 110 番」*の受付件数は 144 件で、その内訳は、不適正表示等に関する情報提供 16.0%、食品表示に関する業者等からの問い合わせ 81.9%で、前年度に比べ情報提供の割合が増加しています。

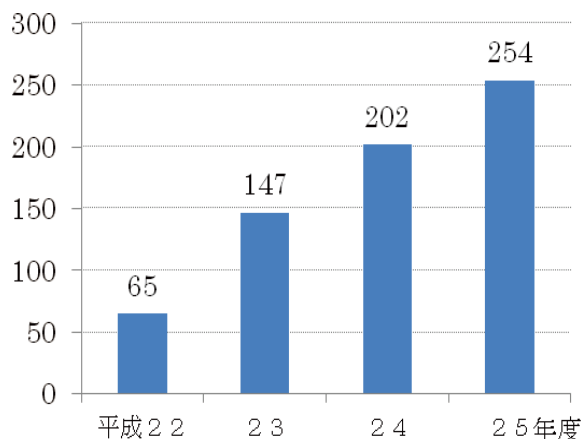
これは、平成 25 年 10 月以降に発生した食材の不当表示問題を受け、消費者からの情報提供が増加したことによるものです。



(伝染病に対応可能な獣医師は 254 人に拡大)

・口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝染病が発生した際に、迅速な初動防疫を行うためには、対応可能な獣医師を確保することが必要です。

・これらの獣医師数は、平成 22 年度までは、県職員獣医師の 65 人でしたが、(公社)福岡県獣医師会との協定締結後、県域や地域で研修会を開催したことにより、平成 23 年度は 147 人、平成 24 年度は 202 人、平成 25 年度は 254 人と増加し、初動防疫体制の整備が進みました。



(口蹄疫を想定した防疫演習に 213 人が参加)

・口蹄疫などの特定家畜伝染病が発生した場合、初動防疫を迅速・的確に行うためには、関係者による日頃からの訓練が大切です。

・平成 25 年度は、酪農場での口蹄疫の発生を想定し、通報から農場での防疫措置完了までの防疫演習を、九州大学伊都キャンパスで実施しました。

・気温 7℃以下、強風という悪条件のなか、国、県、県警察、市町村、関係団体、民間獣医師等 213 人が参加者し、官民一体となって初動防疫体制を確認しました。

26 2 13

(鳥インフルエンザのモニタリング検査を県内 42 か所で実施)

・鳥インフルエンザの発生を未然に防ぐには、モニタリング検査が有効です。平成 25 年度は、特定家畜伝染病防疫指針により、県内 12 か所の養鶏場で、毎月 1 回の定期モニタリング検査を、加えて、渡り鳥のシーズンである 10～5 月は、30 か所の養鶏場で強化モニタリング検査を実施しました。

・この結果、鳥インフルエンザウイルスが侵入していないことが確認できました。

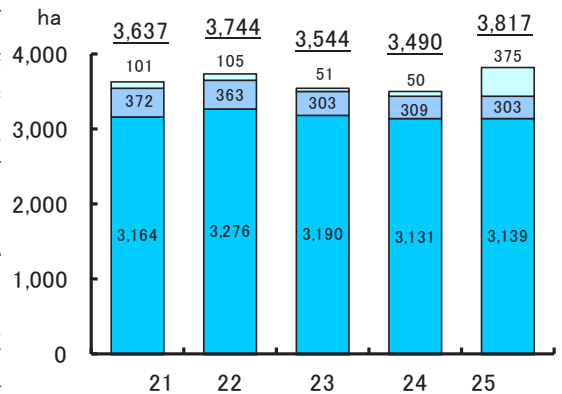
・今後も、養鶏農家が遵守すべき飼養衛生管理基準の遵守の徹底とあわせ、科学的な検査を実施することで、発生予防とまん延防止に努めていきます。

(3) 環境に配慮した農業生産

(減農薬・減化学肥料栽培面積は 327ha 増加)

・減農薬・減化学肥料栽培*面積は 3,817ha で、前年度から 327ha 増加しました。これは、環境保全型農業直接支援対策の取組を推進したことや、新たな病害虫等に対応して農薬や化学肥料の使用基準を見直したためです。

・平成 26 年度は、福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証制度を刷新し、PR 強化と販路拡大に取り組むとともに、水稻・大豆での組織的な取組の推進や先進技術を活用することにより、減農薬・減化学肥料栽培面積の拡大を図ります。

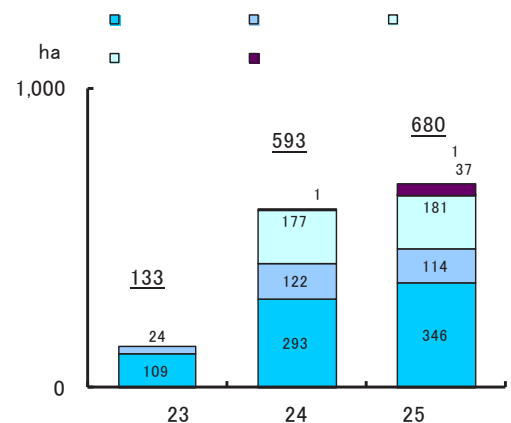


(環境保全型農業直接支援対策の取組面積は順調に拡大)

・環境保全型農業直接支援対策は、交付金により、農薬と化学肥料を 5 割以上低減する取組とセットで、カバークロープ*の作付けなど、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動への取組を支援する制度です。

・この取組面積は、前年度から 87ha 増加して 680ha となりました。その内容は、堆肥の施用やカバークロープ栽培との組み合わせが、大半となっています。

・今後も、市町村と連携し、本制度を活用して減農薬・減化学肥料栽培の拡大を図ります。



◎地域の特徴に応じて環境保全型農業直接支援対策を活用

・環境保全型農業直接支援対策では、地域の環境や農業の実態を勘案し、県毎に支援対象の営農活動が認められる特認取組があります。

・平成 25 年度は、大豆の省耕起播種が地球温暖化防止に効果がある営農活動として認定され、37ha で取り組まれました。

・野菜では、これまでにいちごなど 3 品目で土着天敵と生物農薬を利用した総合的病害虫防除技術 (IPM) が認定されていますが、平成 26 年度からは新たにナス (施設) の IPM 技術が追加され、環境に優しい農業の拡大が期待されます。

5 女性の活躍、地域資源の活用による農業・農村の活性化

県では、女性農業者の地域での社会参画を促進するとともに、地域資源を活用した6次産業化の取組を進めています。

また、組織的な取組の拡大で中山間地域の振興を図るとともに、鳥獣被害対策の強化を図っています。

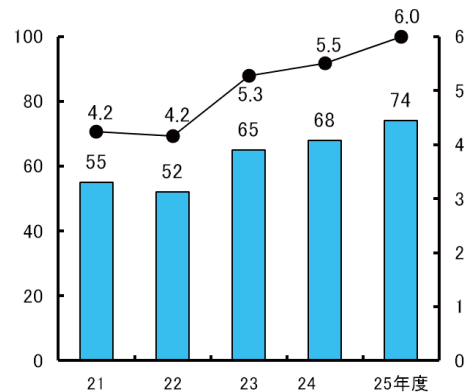
(1) 女性農業者の社会参画

(女性農業委員は前年度より6人増の74人)

・女性農業委員は、前年度より6人増の74人で、農業委員 1,228 人に占める女性委員の割合は6%となっています。

・県では、女性農業者等に対し、農業委員会の役割や業務についての啓発に取り組みました。

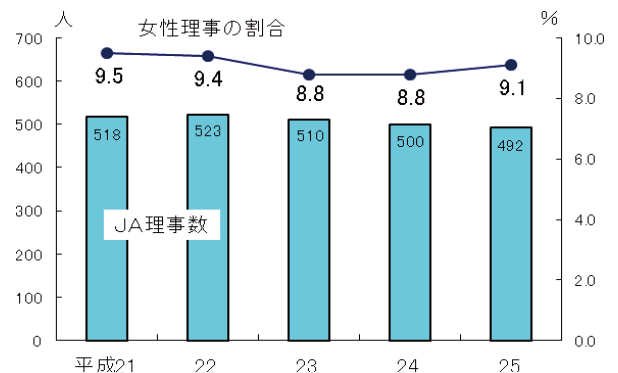
・今後も、市町村や関係団体に対し、女性農業者の委員への登用を働きかけます。



(JAの女性理事は45人で前年より1人増)

・県内のJAでは、理事 492 人のうち、女性が9.1%の45人と前年度より1人増加しました。

・JA運営の議論の場に、より多くの女性農業者の意見が反映されるよう、今後も、関係団体と連携し、JA役員への女性登用を推進します。



◎女性農業者の活躍を全国に発信 ～農林水産大臣賞をW受賞～

・県内の女性農業者が、女性起業のモデルとして高く評価され、国の表彰で農林水産大臣賞を受賞しました。

()

地元産食材を中心としたレストランを女性農業者3人で経営し、地元から女性13人を雇用するなど、地域振興へも貢献しています。

自家米や地元食材を使ったモチやおにぎり等を製造し、直接販売を実施しています。

(2) 地域資源を活用した6次産業化の取組

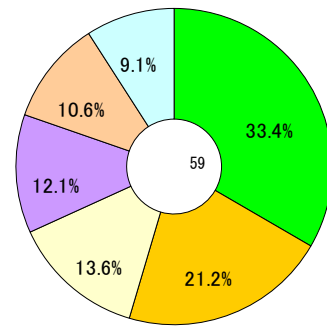
(6次産業化の取組を支援し、15商品が販売開始)

・県では、平成24年度から地元農林水産物を使った商品開発を支援しており、平成25年度は、農林漁業者と商工業者が連携した新たな取組が7件、農林漁業者自らの取組が7件あり、平成24年度からの合計は、それぞれ16件、15件と商品開発が進んでいます。

・平成25年度に開発された新商品は、赤しそドリンクやゆずこんにゃく等です。また、野菜スープやごぼうハーブ茶等、15商品が販売を開始しました。

・「六次産業化法」に基づき平成23年度から始まった事業計画の認定数は、平成25年度に12件増加し、59件となりました。品目別では野菜や果実を使った取組が多くを占めています。

・平成25年12月には、「ふくおか6次産業化・農商工連携サポートセンター」を設置し、6次産業化プランナーの派遣や研修会の開催など、6次産業化の取組を総合的に支援しています。



100
JA

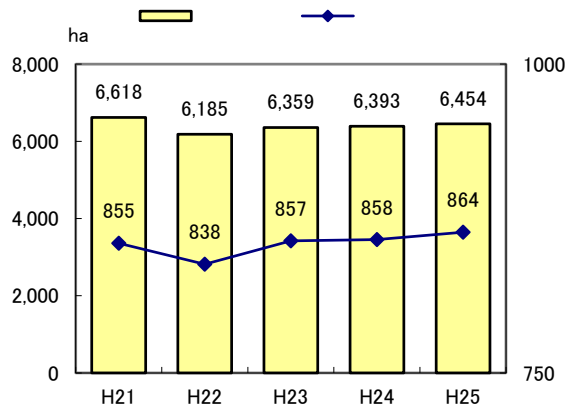
(6次産業化商品の試)

(3) 「点」から「面」への視点による中山間地域の振興

(直接支払制度の取組面積は 6,454ha)

・中山間地域等直接支払制度は県内 30 市町村で取り生まれ、集落協定は前年度より 2 協定増の 641 協定、取組面積は 61ha 増の 6,454ha となりました。

・協定を締結することで水路・農道の管理等の共同活動が活発となり、耕作放棄地の発生防止、多面的機能の向上が図られています。



	21	22	23	24	25
	30	30	30	30	30
	688	623	628	632	634
	9	7	7	7	7
	697	630	635	639	641
	11,881	10,456	10,571	10,771	11,271

(農山村と都市で 12 の協定を構築)

・農山村地域は、高齢化の進行により、地域の住民だけでは集落活動などの維持が困難な地域もあり、都市と農村の日常的な交流関係の構築が必要です。

・このため、平成 25 年度から、農山村地域と都市の企業などが協同して行う、農作業や里山保全などの共助活動に向けた取組への支援を開始しました。

・県では、八女市黒木町の笠原地域、うきは市の新川、田籠地域、築上町の上城井地域をモデル地域として選定し、都市団体との 12 の協定締結を支援しました。今後、各モデル地域では、棚田の手入れや、地域農林産物の定期購入などの共助活動に取り組むことで、お互いの「絆」を深め、地域の活性化を進めていきます。

・引き続き新たな地域組織づくりを支援するとともに、モデル事業を通じて得られた成果を事例集としてまとめるなど、農山村地域の活性化に取り組んでいきます。

モデル事業の地域組織

都市部の応援団体

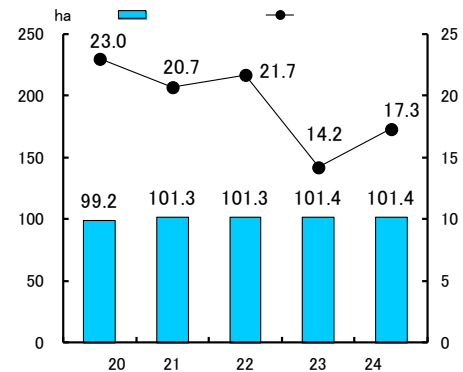
- ①九州電力(株)・九州大学
- ②(一社)九州スポーツコミュニティ
- ③(一社)中小企業事業推進機構
- ④SCSK(株)九州支店
- ⑤(株)本間組九州支店
- ⑥(株)高崎総合コンサルタント
- ⑦(株)技術開発コンサルタント
- ⑧KDDI(株)九州総支社
- ⑨

(ハゼの植栽で中山間地域を活性化)

・平成24年度から、粗放的な栽培が可能で、高齢者でも取り組みやすい「ハゼ」の植栽を支援しています。

・「ハゼ」は、本県の地域特産物であり、「ハゼ実」からとれる「木ろう」は全国1位の生産量です。「木ろう」は和蝋燭の原料として有名ですが、近年は、口紅などの化粧品や、コピー用トナーとして利用され、また、「JAPANWAX」などとして海外に輸出されていますが、原料となる「ハゼ実」の生産量は年々減少しています。

・平成25年度は新たに2市の5組織が約3.8haの植栽を行いました。今後も植栽面積を拡大し、地域特産品の維持を図るとともに、中山間地域における農業生産活動を推進します。



(応援ファミリーが災害復興ボランティア活動を継続)

・平成24年7月の梅雨前線豪雨により、大きな農業被害が発生した八女市黒木町笠原地区において、昨年度に引き続き、「応援ファミリー」による復興支援ボランティアを5回実施し、延べ72人が参加しました。

・1日でも早く被災地域の農業が元の元気な姿に戻るよう、棚田の修復、除石作業等を行いました。

・県では、今後も復興支援ボランティアなど、被災地への支援を継続していきます。

◎九州グリーン・ツーリズムシンポジウム 2013in 福岡を開催

・平成25年12月4、5日に福岡で初めて、九州のグリーン・ツーリズム実践者が一同に集まる「九州グリーン・ツーリズムシンポジウム」を開催しました。

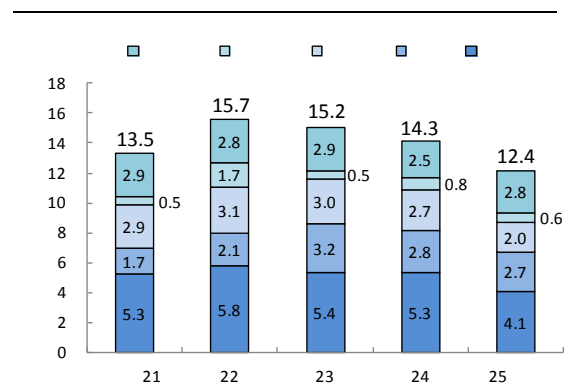
・1日目は、グリーン・ツーリズム先進地である朝倉、京築、筑後の3地域と宗像市において、和蝋燭づくり、久留米餅のコースターづくりなど地域資源を活かした体験や農家での宿泊を通じて、交流を深めました。

・2日目は、ムラを応援する都市部の若者たちの活動報告の後、岡垣町の「ぶどうの樹」にて、地産地消のおもてなし料理のほか、九州各県の郷土料理を囲んで、スローフード交流会を開催しました。

・2日間で延べ600人以上の参加があり、ムラの魅力を発信しました。

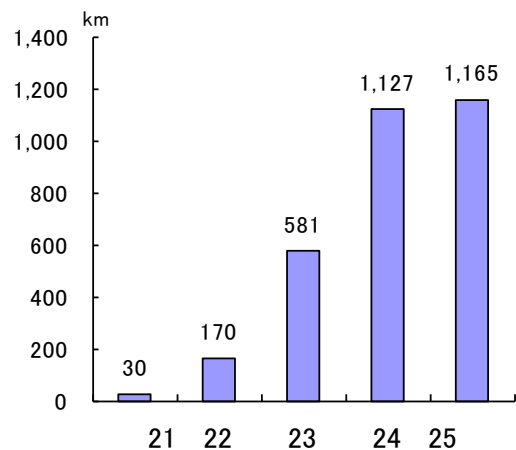
(4) 鳥獣被害の防止と獣肉の有効活用に向けて
(鳥獣被害額は減少)

・野生鳥獣による農林水産物の被害額は12億4千万円で、前年度に比べ約1億9千万円減少しました。これは、集落ぐるみで侵入防止や捕獲などの総合的な鳥獣被害防止対策を推進したことにより、イノシシ等の被害が減少したためです。



(被害防止計画に基づく地域の取組を推進)

・鳥獣被害を防止するためには、侵入防止柵を設置し、農地への侵入を防止するとともに、捕獲により個体数を減少させる必要があります。
 ・福岡市ほか37市町村が、箱わな等の捕獲機材の導入や侵入防止柵の整備に取り組み、1,156地区が地域ぐるみで対策を実施しています。
 ・また、県鳥獣被害対策協議会が助成する捕獲活動経費を活用し、50市町村が捕獲対策を強化しました。
 ・さらに、地域ぐるみの取組を推進するため、現地研修会を県内7か所で開催し、630人が参加しました。



(獣肉処理加工施設の衛生管理と解体技能の向上)

・県では、獣肉の衛生的な取扱指針として策定した野生鳥獣食肉衛生管理ガイドラインに基づき、衛生管理・解体技術講習研修会を開催し、獣肉の衛生管理の技能向上を図っています。
 ・平成25年度は、みやこ町の処理施設において、獣肉の処理加工・販売関係者などを参集し、「解体の実習及び意見交換会」を開催しました。

(ふくおかジビエの普及拡大が進む)

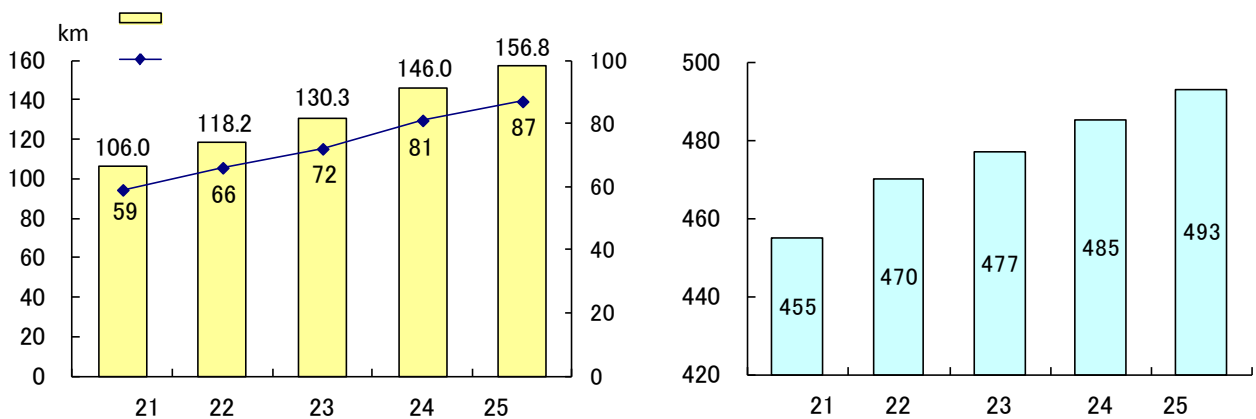
・県産獣肉(ジビエ)の普及拡大を目的として設立した「ふくおかジビエ研究会」の協力のもと、平成26年2月7日から17日間、県内20店舗で「ふくおかジビエフェア」を開催しました。
 ・期間中、約1,400人の来店があり、アンケートでは、約半数の人が初めて食べ、9割以上の方から美味しいとの意見をいただきました。

6 災害に強い安全・安心な農業・農村をつくる

県では、計画的な予防措置により、農村の防災機能を強化するとともに、気候変動に強い農業生産を推進しています。また、農業生産現場でのエネルギー自給率向上を図っています。

(1) 計画的な予防措置で農村の防災機能を強化 (156.8km のクリークと 493 か所のため池を整備)

- ・平成 25 年度は、10.8km のクリークを整備し、これまでの整備延長は 156.8km となりました。
- ・ため池の改修か所数は、前年度から 8 か所増加し、平成 25 年度までの改修か所数は 493 か所となりました。



(ため池防災連絡体制の整備率は 85%)

- ・県では、洪水や地震の発生時などに、迅速な対応ができるよう、市町村と連携し、市町村や集落・個人などにより管理されているため池の防災連絡体制の整備を進めています。
- ・平成 25 年度の整備率は、前年度と比べ 23 ポイント増加し、85%となりました。

Year	Number of Ponds	Preparation Rate (%)
21	5,270	53%
22	2,790	62%
23	24	62%
24	3,246	85%
25	4,504	85%

(災害から農村を守る体制づくりの整備)

- ・県が独自に作成した「ため池点検マニュアル」に基づき、ボランティアの技術者である「農地防災・災害アドバイザー」と協力し、ため池の管理者に対して、適正な管理方法や緊急時の対応方法などの普及に努めました。
- ・県では、今後も適正な管理手法の普及に努め、災害から農村を守る体制づくりを進めていきます。

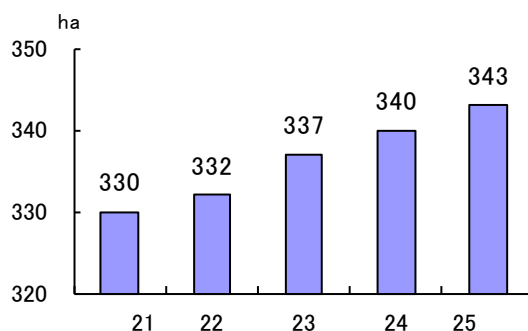
(2) 気象変動に強い農業生産の推進

(耐候性ハウスの導入面積は前年度比3ha増加)

・本県では、生産の安定を図るため、台風にも耐え、気候に左右されにくい耐候性ハウスの導入や、近年の温暖化に対応した品種や技術の開発・普及に取り組んでいます。

・平成25年度の耐候性ハウスの導入面積は343haで、前年度に比べ3ha増加しました。これは「活力ある高収益型園芸産地育成事業」を活用し、なす(68a)やトマト(33a)などで導入が進んだためです。

・県はこれまでに、温暖化に対応した新品種として、水稲「元気つくし」や輪ギク「夏^{なつ}日^{びより}和」、小ねぎ「夏元気」などを開発しました。また、「高温時における小ねぎの種子発芽促進技術」などを開発し、普及を図っています。



(耐候性ハウス導入で電照ギクの周年安定生産が進む)

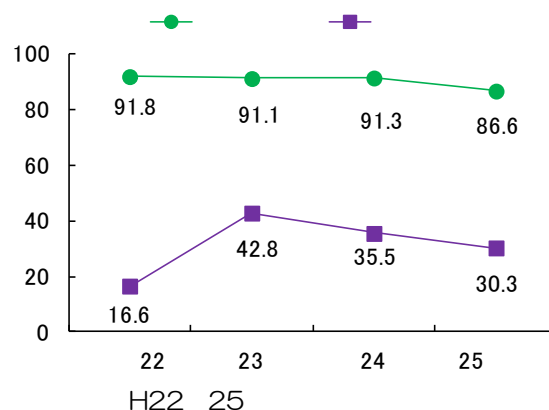
・県では、電照ギクを、年間を通し安定して栽培できる耐候性ハウスの導入を支援しています。

・平成25年度は、JAふくおか八女電照ギク部会で、53aの耐候性ハウスが新たに導入され、周年安定生産による所得向上が期待されます。

(「元気つくし」は安定した品質を維持)

・平成25年産は、猛暑の影響等で、うるち玄米の1等米比率が30.3%（平成26年3月末現在）と、前年産に比べ5.2ポイント減少しました。

・このような中、高温耐性を持つ「元気つくし」の1等米比率は86.6%（平成26年3月末現在）と、近年の高温傾向の中でも安定した品質を維持しています。



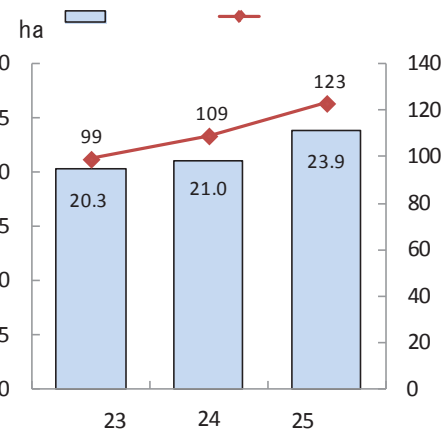
(3) 農業生産現場でのエネルギー自給力向上

(園芸部門では燃油使用量削減の取組が拡大)

・園芸部門では、ハウスの重油ボイラーの補助施設としてヒートポンプ*が、バラ 51 戸、洋ラン 29 戸などの花き農家を主体に延べ 123 戸、ハウス面積 23.9ha で導入され、燃油使用量の削減が図られています。

・平成 25 年度は、主に J A にじ、J A 糸島管内のバラ農家 7 戸が、1.8ha のハウスに導入しました。

※ヒートポンプ：空気中から熱を取り込んで、エネルギーとして利用する暖房補助設備で、既存の燃油暖房機と組み合わせて運転することで、燃油使用量を削減できます。



(畜産現場で—

○ 平成 24 年 7 月梅雨前線豪雨災害からの復旧
(被害が甚大な地域を除いて、復旧はほぼ完了)

・平成 24 年 7 月 3 日と、13 日から 14 日の豪雨による農業関係の被害は、県南地域を中心に甚大な被害が発生し、162 億円となりました。

・県では、被災直後から、緊急対策の相談窓口を普及指導センター等に設置するとともに、県ホームページを通じ、復旧支援策に関する情報提供を行いました。また、国の対策に加え、無利子資金の創設、園芸施設の復旧及び果樹、茶園等の改植経費の助成、農地の復旧とその際の農家負担の軽減など、県においても特別対策を実施しました。さらに、被害の大きかった市町村へ職員を派遣し、早期復旧に努めてきたところです。

・平成 26 年 5 月末時点で、被災した農地、農業用施設 1,221 か所のうち 96%の 1,168 か所が、完成または工事中（着手済）となっています。このうち、被害が甚大であったうきは市、八女市を除く市町村では、ほぼ復旧が完了しました。

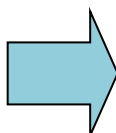
・うきは市では、完成率が 58%となっていますが、被災箇所全てで、早期復旧に向けて工事に着手されています。

・また、八女市では、被災箇所 476 か所のうち、11%の 53 か所が未着手となっていますが、今後、順次、工事に着手する計画です。

・県では、平成 26 年度も、引き続き、市町村が行う復旧工事に係る現地調査に同行し、工法検討の技術的な指導を行うとともに、うきは市、八女市への職員派遣などを通じて、被災者が一日も早く元の生活に戻れるよう、着実に復旧工事を進めていきます。

						6	
	6	178	541	6	9	33	574
	411	6	6	6	9		6
	774	394	6	6	96	53	

						6	
		313			9	53	6
	111		191				191
	553	1	554	99			554
	774	394	6	6	96	53	

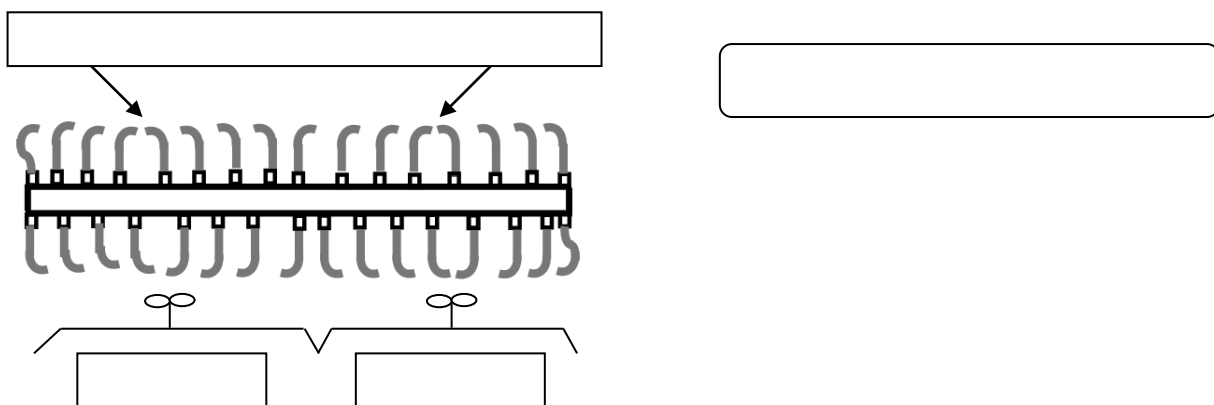


ha

～現場の知恵を収集した「地域で実践できるコスト低減技術350の提案」を作成～

- ・県では、日ごろから農家に接している普及指導センター職員が、コスト低減に役立つ農業現場のアイデアや技術を収集し、試験場が開発した技術などと合わせて「地域で実践できるコスト低減技術350の提案」を作成しました。
- ・米・麦・大豆、野菜、果実など部門ごとに、コスト低減技術の内容、具体的効果、実践農家の声を紹介しています。
- ・ちょっとした工夫で実践できる技術やヒントが多数含まれており、また、生産性向上、作業の省力化だけでなく、農薬の削減で環境にやさしい生産につながるヒントなども多く含まれています。
- ・県下全域の農業者が活用できるよう、認定農業者や農協など関係者へ配布するとともに、県ホームページでも公表しています。

【ホームページアドレス：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/cost.html>】



()

()

()

○平成 25 年度に表彰行事で受賞された方々

全国・県域 の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	第62回全国農業コンクール	複合部門 農林水産大臣賞	朝倉市	株式会社 綾部農園
全国	農業委員会及び農業委員表彰	農林水産大臣表彰	糸島市	糸島市農業委員会
全国	農業委員会及び農業委員表彰	農林水産大臣表彰	糸島市	藤井 重登
全国	第97回農事功績表彰	野菜部門 緑白綬有功章	北九州市	藤堂 孝雄
全国	平成25年度農山漁村女性・シニア活動表彰	女性起業・経営参画部門 農林水産大臣賞	大木町	(株)ビストロくるるん
全国	平成25年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰	次世代を担う若手地域リーダー部門（地域参画部門） 農林水産大臣賞	筑紫野市	三宅 静恵
全国	第67回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省生産局長賞	八女市	堀川 祐助
全国	第67回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省生産局長賞	八女市	栗原 昭夫
全国	平成25年度全国優良経営体表彰	集落営農部門 全国担い手育成総合支援協議会長賞	大牟田市	農事組合法人 宮崎
全国	平成25年度全国麦作共励会	集団の部 全国農業協同組合中央会会長賞	久留米市	下田芦塚営農組合
全国	平成25年度全国豆類経営改善共励会	集団の部 全国農業協同組合連合会会長賞	上毛町	農事組合法人 唐原北営農組合
全国	J A 青年組織活動実績発表全国大会	千石興太郎記念賞	粕屋町	J A 粕屋青年部(発表者：秋山隆哉)
全国	第17回全国手もみ製茶技術競技会	最優秀賞	八女市	福岡県八女茶手もみ技術研究会 (栗原陽平、栗原昭夫、栗原秀治)
県域	第49回福岡県肉畜共進会	和牛の部 農林水産大臣賞	みやま市	大木 翔平
県域	第49回福岡県肉畜共進会	肉豚の部 農林水産大臣賞	糸島市	古川 日出三
県域	平成25年度福岡県花き品評会	産物の部 農林水産大臣賞	久留米市	坂本 和盛
県域	平成25年度福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 農林水産大臣賞	八女市	牛嶋 勝彦
県域	平成25年度福岡県果樹苗ほ品評会	農林水産大臣賞	久留米市	藤原 陽一、菜穂子
県域	平成25年度福岡県茶業共進会	玉露の部 農林水産大臣賞	八女市	城 昌史
県域	平成25年度福岡県茶業共進会	煎茶の部 農林水産大臣賞	八女市	今福製茶協同組合
県域	平成25年度福岡県茶業共進会	煎茶園の部 農林水産大臣賞	八女市	住吉 高男
県域	福岡県農業指導功労者表彰	福岡県知事賞	古賀市	安武 昇
県域	福岡県農業指導功労者表彰	福岡県知事賞	八女市	古川 明俊
県域	平成25年度福岡県青年農業者会議	プロジェクト発表の部 福岡県知事賞	糸田町	佐々木 仁
県域	平成25年度福岡県青年農業者会議	意見発表の部 福岡県知事賞	朝倉市	本園 拓也
県域	第49回福岡県肉畜共進会	交雑種の部 福岡県知事賞	田川市	武田 英文
県域	第49回福岡県肉畜共進会	乳用種の部 福岡県知事賞	朝倉市	大田 繁実
県域	平成25年度福岡県麦作共励会	農家の部 最優秀賞	中間市	大八木 純生
県域	平成25年度福岡県大豆作経営改善共進会	農家の部 最優秀賞	大牟田市	角 一正

第3章 主要品目などの動向

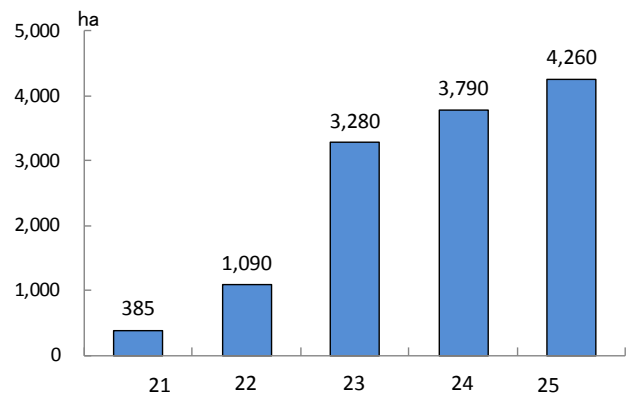
1 水田農業

(1) 米

(作況指数は 96 で前年産比 2 ポイント減)

- ・作付面積は 38,700ha で前年産比 200ha 増。収穫量は 185,400 t で前年産比 3,300 t 減。
- ・品種別の作付割合は、県育成品種の「夢つくし」と「元気つくし」でうるち米全体の約 5 割を占める。
- ・10a 当たり収量は 479kg で前年産比 11 kg 減。作況指数は 96 で前年産比 2 ポイント減。
- ・登熟期間中の高温障害、トビイロウンカによる被害により減収。
- ・うるち玄米の 1 等米比率は 30.3% (26 年 3 月末現在) で前年産比 5.2 ポイント減となったが、高温耐性品種「元気つくし」は 86.6% と高品質を維持。

(「元気つくし」が 3 年連続で「



(2) 麦、大豆

(麦の作柄はやや回復)

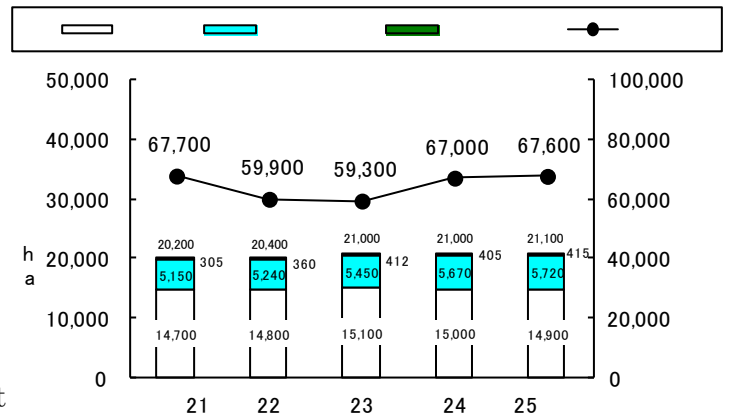
・作付面積は 21,100ha で前年産比 100ha 増。

・生産量は、小麦が 50,200 t で前年産比 200 t 増、二条大麦が 16,200 t で前年産比 400 t 増。生育期の低温・多雨の影響により穂数が少なかったが、登熟が良好であったため、作柄は前年産を上回る。

・福岡県産麦に対する需要が多く、平成 26 年産小麦の販売予定数量と実需者の購入希望数量との差（ミスマッチ）は、5,201 t と 5 年連続の供給不足。大麦・はだか麦も 1,622 t の供給不足。

・麦の作付面積拡大のため、平成 24 年度から関係機関で生産拡大対策プロジェクトチームを立ち上げ、暗渠排水の整備による排水対策の徹底や、重点指導地区における課題解決を通して作付拡大の推進を図っている。

・全国初のラーメン用小麦「ラー麦」は、6 産地 800ha で小麦の作付面積の 5% を占め、生産量は 2,720 t。「ラー麦」を使った県内ラーメン店は前年度から 14 店舗増え 122 店舗。利用する製麺・製粉会社は前年度から 9 社増の 55 社に利用が拡大。



トピック

◎ 「ラー麦」、生産者と実需者との研修会を開催

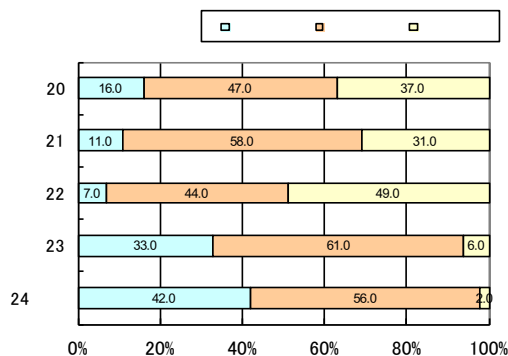
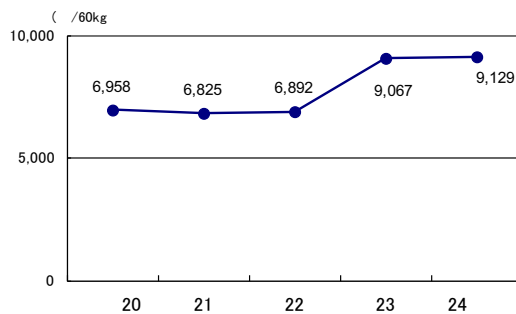
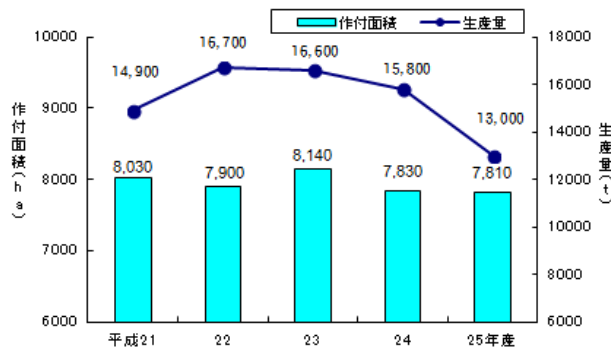
・平成 26 年 2 月 28 日、筑後市にある九州芸文館において、麦生産者、麦生産 J A、実需者、関係機関約 300 人の参加のもと、「つくろう、ラー麦！ひろげよう、ラー麦の輪！～生産者と実需者との人材育成研修会～」を開催しました。

・研修会では、タンパク質含有率の異なるラーメンの食べ比べ体験、「ラー麦」を使用したラーメン店や商品の紹介、実需者が求める「ラー麦」の品質や評価等についてのパネルディスカッションを行いました。

・今後も、実需者が求める高品質な「ラー麦」の安定供給のために、作付面積拡大をはじめとした生産振興に取り組みます。

(大豆の収量は 166kg/10a で前年より減少)

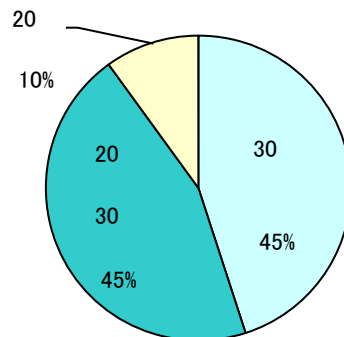
- ・作付面積は7,810ha で前年産比 20ha 減少。生産量は 13,000 t で前年産比 2,800 t 減少。
- ・大豆の収量向上のため、平成 24 年度から関係機関で生産拡大対策プロジェクトチームを立ち上げ、適期播種、排水対策を重点的に推進。平成 25 年産では、適期播種は進んだものの、登熟期の乾燥害により粒が小さくなり、収量が減少。10a 当たり収量は 166kg と平年 (198kg) を下回る。
- ・上位等級 (1 等・2 等) の割合は 82.8% (26 年 3 月末現在) で品質は平年並み。
- ・平成 24 年産の販売価格は、9,129 円/60kg と前年産よりも高い水準で推移。震災以降、九州産の需要が伸びており、取引形態は、入札取引の割合が増加。



(3) 生産体制

(カントリーエレベーターは再編が課題)

- ・県内のカントリーエレベーター数は 56 基で、設置から 30 年以上経過した施設が 45%と、施設の老朽化が進行。
- ・また、水稻の作付面積の減少に伴い、施設利用計画の策定当時に比べ、利用率が低下している施設もあるため、カントリーエレベーターの再編により、利用率を向上させ、農家の経費を抑えることが必要。



2 園芸、特産

(1) 野菜

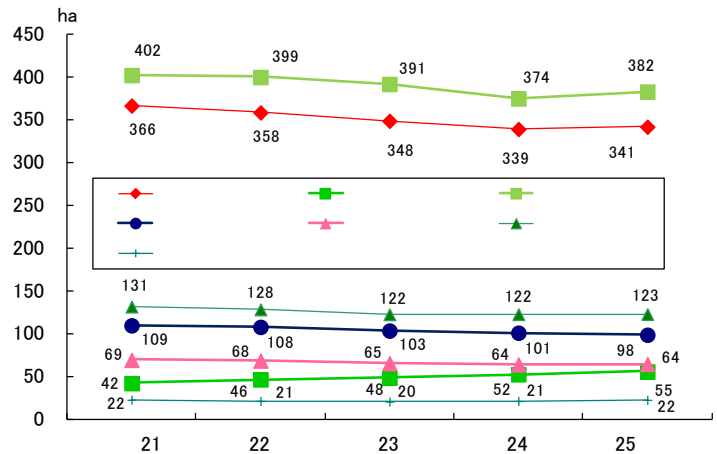
(いちご、アスパラガスの作付面積は増加)

・いちごの栽培面積は 341ha で、前年度比 2ha 増。これは豪雨災害の復旧による作付再開と新規作付の増加によるもの。販売量は 12,060 t で前年度比 144 t 増。

・アスパラガスの栽培面積は 55ha で、前年度比 3ha 増。販売量は 1,047 t で、前年度比 117 t 増。単価が高く推移しているため、作付が順調に増加。平成 25 年度は、共同販売取扱数量が初めて 1,000 t を突破。

・ブロッコリーの栽培面積は 382ha で、前年度比 8ha 増。近年、高単価で推移しているため、作付が増加。

・集落営農組織による野菜の作付は、野菜導入による複合経営を推進していることから、平成 25 年度は 91ha と前年度比 8ha 増。



トピック

◎ J A 福岡大城のアスパラガス作付面積は、10 年で 2 倍以上に増加

・J A 福岡大城では、新規作付や規模拡大により、アスパラガスの栽培面積が順調に伸びています。

・平成 25 年度には、10 戸の農家が県単独の「活力ある高収益型園芸産地育成事業」を活用し、61 棟 2ha のハウスを整備しました。

・また、出荷量が年々増加し、今後も拡大を計画していることから、国庫事業を活用し、予冷库や自動受入選別機、自動計量結束機などの集出荷貯蔵施設を整備しました。

・販売数量の増加や販売規格の多様化等により、契約取引数量が増加しました。

・今後、更なる作付面積の拡大と出荷量の増加により、生産者の経営安定が期待されます。

(2) 果樹

(消費者ニーズに応じた果実生産を拡大)

・うんしゅうみかんの栽培面積は1,550haで前年比120ha減。消費者ニーズに応じた高糖度みかんの生産拡大に向け、「北原早生」などの優良品種への改植を実施。高糖度みかんの販売数量は2,423tで、全体に占める割合は15%。

また、県が開発し、平成24年2月に出願公表された極早生品種「早味かん」は、平成25年春から苗木の供給を開始。

・かきの栽培面積は1,900haで前年比70ha減。世界初の種なし甘がき「秋王」は、早期普及に向け、苗木の大量増殖技術を開発し、平成25年春から苗木の供給を本格的に開始。

・ぶどうの栽培面積は890haで前年比26ha減。種なし大粒品種である「種なし巨峰」や「ピオーネ」「シャインマスカット」への栽培転換が進む。

・なしの栽培面積は477haと前年並。早期に成園化できるジョイント整枝等の導入面積は18ha。

・いちじくは、県育成品種「とよみつひめ」の栽培面積が52haと前年並。うち施設化割合は16haと全体の31%に拡大。

・キウイフルーツの栽培面積は304haと前年並。高糖度の果実を「博多甘熟娘^{はかたうれっこ}」、「博多甘香^{はかたあまか}」の名称で出荷。これらの出荷量は3,789tで、全体に占める割合は90%。

○ 知事が福岡市中央卸売市場でトップセールス

・福岡みかん「北原早生」の認知度を更に向上させるため、地元市場である福岡市中央卸売市場青果市場で知事がトップセールスを行いました。

・知事は、「『北原早生』は、着色が良く、糖度が高いことが特長で、高品質なものだけを『北原早生』として出荷しています。一人でも多くの消費者に手にとっていただけるようお願いいたします」とPRしました。

(3) 花き・花木

(白ギク「雪姫」の生産拡大)

・白ギク「雪姫」の栽培面積は76haで前年度比1ha減少。これは、燃油価格高騰のため低温期の作付が減少したことによるもの。県内の秋輪ギク（白）に占める「雪姫」の割合は75%。

・主要市場の平均単価は約65円で、従来品種に比べ約1割高く、白ギク品種に占める割合は約2割。

(/)	75	64	63	65
()	64	58	58	61
()	9	26	43	24

25 10 26 3

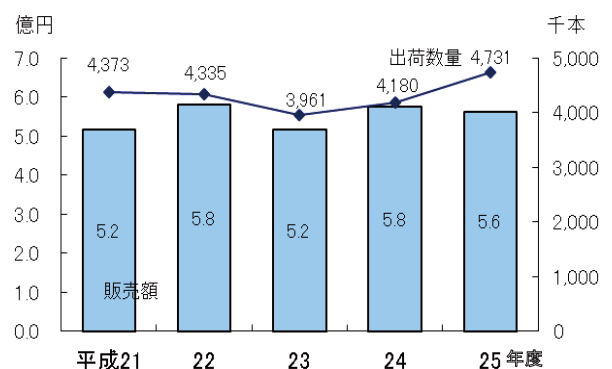
(トルコギキョウの周年安定栽培が進む)

・トルコギキョウの販売量[※]は4,731千本で前年度比551千本増加。

・販売額は、5.6億円で前年度比0.2億円減少。これは、秋季の全国的な出荷数量増加に伴う価格低迷によるもの。

・周年供給を促進するため、冬春作の電照栽培技術の導入を推進。電照導入面積は4.3haで前年度に比べ1.8ha増加。

※ J Aを通じて販売された量



トピック

○ フラワーバレンタインをPRし、消費拡大を推進

・県産花きの消費拡大に向け、2月14日のバレンタインデーに男性から女性へ花を贈る取組みを推進しています。

・福岡県花き園芸連合会が海老井副知事を表敬訪問し、バラとカーネーションの花束を贈呈しました。多くのテレビ局の取材があり、県民に広くPRしました。また、県庁ロビーで、県産花きを使用したフラワーアレンジや花束を飾り、来庁者にPRしました。

(4) 茶

(一番茶(荒茶)価格は主産16県で1位)

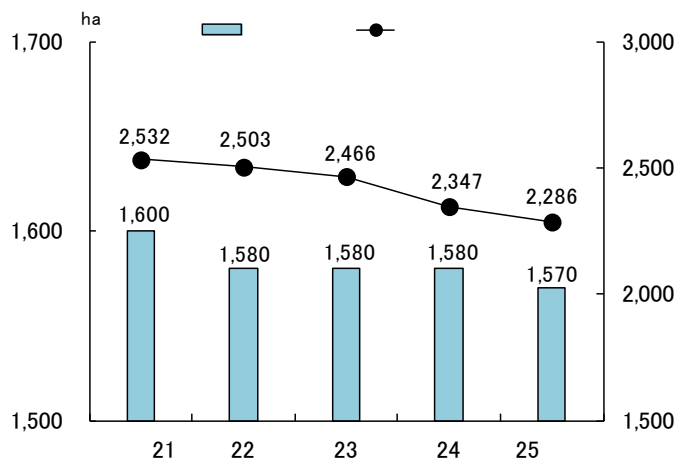
・茶の栽培面積は1,570haで前年度比10ha減。

・樹齢31年生以上の老齢樹面積は、278haで前年度比5ha減。これは老齢樹の改植が進んだため。平成25年度の改植面積は22ha。

・荒茶生産量は2,290tで前年度比140t減。これは、春先の収穫直前の急な冷え込みの影響によるもの。このうち、普通煎茶は1,850tで前年度比70t減。おおい茶(玉露、てん茶、かぶせ茶)は372tで前年度比75t減。

・農家戸数は2,286戸と減少傾向。うち5ha以上を栽培する農家の栽培面積は全体の21%。

・一番茶(荒茶)価格は3,513円/kgで前年度比103%。主産16県における順位は1位。

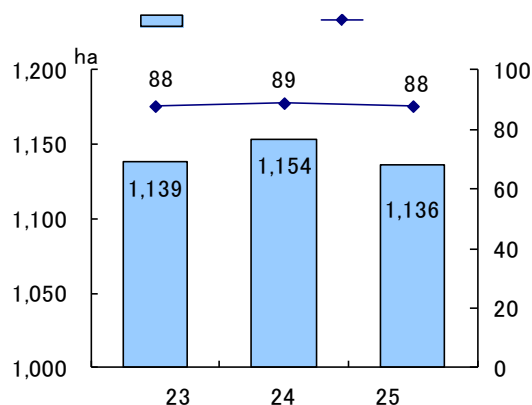


(低コストで高品質な茶生産を推進)

・乗用型摘採機は、前年度に比べ6台増の218台で、茶栽培面積に対するカバー率は56%。

・点滴かん水施肥施設の導入面積は26haで前年度比3.1ha減。

・凍霜害対策としての防霜ファン設置面積は1,136haで前年度比18ha減。対策必要面積に対する設置率は88%。

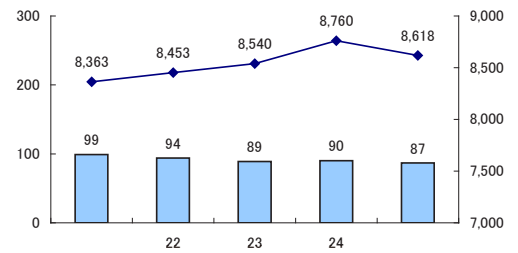


3 畜産

(1) 乳用牛、肉用牛

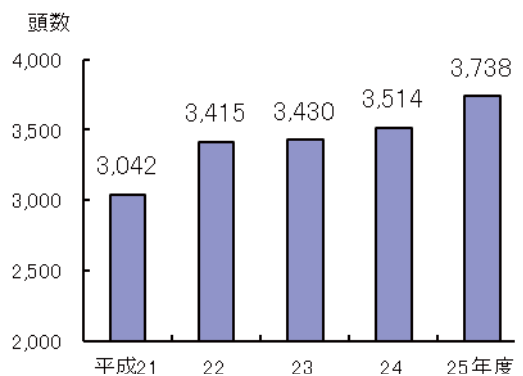
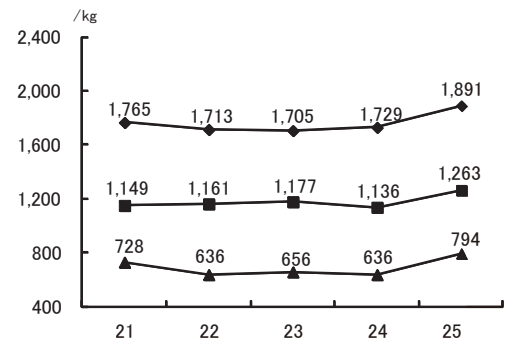
(生乳生産量は87,000 tで前年比3,000 t減)

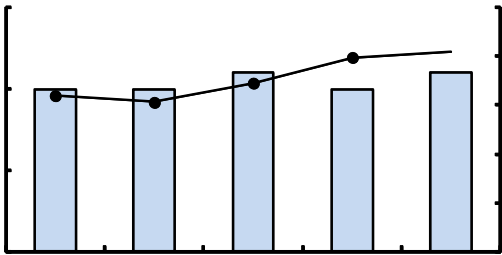
- ・乳用牛飼養頭数は15,800頭で前年比200頭減。
- ・1戸当たりの飼養頭数は57.7頭で、前年比1.4頭増。
- ・飼養頭数100頭以上の大規模経営は、酪農家の6.6%。
- ・生乳生産量は87,000 tで、前年を大きく下回り、経産牛1頭当たりの産乳量は8,618kgで、前年比142kg減。
- ・平成24年度の高能力牛（年間産乳量が12,000kg以上）は282頭で、前年度比37頭、15%増。搾乳牛全体に占める割合は5.5%



(「博多和牛」の出荷頭数は3,738頭と増加)

- ・肉用牛飼養戸数は220戸で、前年比5戸減。飼養頭数は24,600頭で、前年比200頭増。1戸当たりの平均飼養頭数は111.8頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は3,738頭で、前年度比224頭、6%の増。取り扱い店舗数は、前年度から6店舗増え120店舗。
- ・全国的な肉用牛出荷頭数の減少等により、すべての品種で、枝肉価格が上昇。景気低迷と東日本大震災の影響を受けた前年と比較して、福岡の枝肉価格は、和牛で9%、交雑種で11%、乳用種で25%上昇。





(3) 飼料作物、畜産環境

(稲発酵粗飼料^{※1}の作付が増加)

- ・稲発酵粗飼料の作付面積は 1,050ha で、前年比 103ha 増。経営所得安定対策の戦略作物として定着し、作付が拡大。飼料用米^{※2}の作付面積は 811ha で、前年比 53ha 減。備蓄米等への転換で減少。
- ・飼料作付の草種別内訳は牧草 43%、稲発酵粗飼料 25%、飼料用米 23%、青刈りソルガム 5%、その他 4%。
- ・酪農、肉用牛を含めて飼料自給率^{※3}は 24%で、前年比 1 ポイント増。

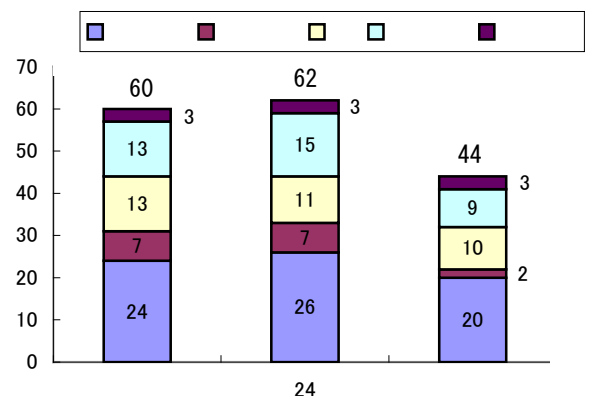
※1 稲発酵粗飼料：稲の子実が完熟する前に子実と茎葉を一緒に密封し、発酵させた貯蔵飼料。

※2 飼料用米：家畜の飼料として利用する米。

※3 飼料自給率 = $\frac{\text{飼料作物} + \text{稲わらの生産} \cdot \text{収集養分量}}{\text{乳牛} \cdot \text{肉用牛用の年間必要養分量}}$

(畜産環境に係る「苦情」件数は減少)

- ・畜産環境に係る苦情の発生件数は 44 件で前年比 18 件減。発生率^{※4}は 6.3%で前年比 3.5 ポイント減。
- ・苦情の畜種別割合は乳用牛 45%、採卵鶏 20%、豚 23%、肉用牛 5%、ブロイラー 7%。
- ・苦情の原因別では、悪臭関連が 34 件で延べ発生件数の 77%を占め、次いで水質汚濁関連 10 件 (23%)、害虫発生関連 5 件 (11%)、その他 5 件 (11%) の順。



※4 苦情の発生率 = $\frac{\text{苦情の発生経営体数}}{\text{調査対象の畜産経営体数}}$

トピック

○ 農林水産業燃油・飼料価格高騰緊急支援対策（畜産業対策）を実施

・円安の進行等による燃油・飼料価格高騰の影響を受けている畜産経営の安定を図るために、これまでの県の取組に加え、平成 25 年度 9 月補正予算で、自給飼料の利用促進に必要な機械等の導入を促進し、生産コスト低減等の緊急対策を実施しました。

飼料費削減に効果がある自給飼料の導入に必要な飼料運搬機械や飼料運搬機等の機械整備に対する助成

種雄豚にかかる飼料費と導入経費削減を図るための人工授精用精液の購入に対する助成

第4章 地域の動向

1 福岡農林事務所管内

□ 主な動き

- ・管内の9協議会が、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策の取組を開始し、イノシシ、シカ等有害鳥獣の捕獲を積極的に実施。侵入防止柵の整備と合わせ、今後の被害軽減効果に期待。
- ・糸島市では、強い農業づくり交付金を活用して、カントリーエレベーターの乾燥施設の機能向上を実施。これを契機に、「ラー麦」をはじめとする需要に応じた麦の生産拡大、品質向上及び地産地消を進め、目指すは、日本一の麦づくり。
- ・博多和牛生産者自らが経営するレストラン「炭火焼肉堀ちゃん牧場」が、平成25年10月、福岡市西区にオープン。自ら生産した牛肉のおいしさをアピールするとともに、「博多和牛」の知名度アップを期待。
- ・JAむなかたブロッコリー部会（部会員21名）は、パッケージセンターによる雇用を活用した共同選別体制の確立に向け、農協の空きスペースを活用し、JAの農作業ヘルパーによる選別・箱詰め作業を試験的に実施。
- ・管内におけるため池防災連絡体制整備率は、平成22年度の56%から、平成25年度は92%まで増加。平成26年度100%を目標に体制整備を推進。

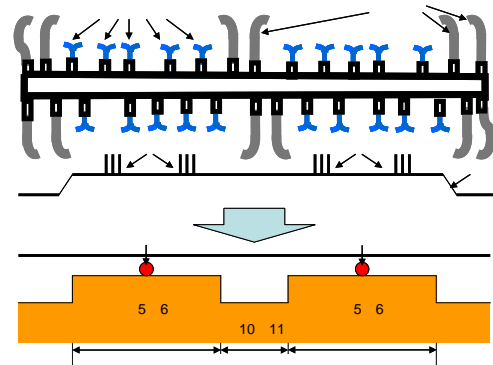
地域のトピックス

◎ 大豆栽培における先進技術導入による適期播種

- ・宗像市において、大豆の生産安定を図るため、先進技術である部分浅耕播種法の導入による適期播種の取組を実施。

・部分浅耕播種法の導入により、多湿条件下でも作業が可能となり、更に播種に係る作業時間が短縮することで、作業効率が向上し、適期播種が可能となった。また、降雨による湿害の軽減だけでなく、少雨による干害の軽減効果もあることが明らかとなった。平成25年度は47.9ha（管内面積の17%）で導入。

※平成25年度より環境保全型農業直接支援対策の特認制度として認定
（現在5経営体で29.4ha取組）



2 朝倉農林事務所管内

主な動き

・ J A筑前あさくらは、いちじく「とよみつひめ」の生産拡大に伴い、活力ある高収益型園芸産地育成事業を活用して、パッケージセンターの処理能力を向上。

「とよみつひめ」を使ったジャム、アイスクリーム、甘露煮の商品化など、6次産業化の取組も進展。

・ 管内の集落営農組織は、農業経営アドバイザー派遣事業を活用し、税理士や司法書士などの支援を受けるとともに、J A、普及指導センターなどの指導を受け、法人化に向けた取組を加速。平成 25 年度は新たに 6 組織が法人化するなど、地域農業の担い手が着実に増加。

・ うきは市「都市と山村交流」プロジェクト協議会は、協定で育む「農山村との絆」モデル事業を活用し、九州大学など 8 組織・団体と、農林作業の支援や、地域農林産物の定期購入、活動内容の情報発信などの共助活動を内容とする協定を締結。

・ 久留米市田主丸町の「竹野地区」112ha、同市山本町の「山本豊田地区」37ha のほ場整備工事が完了。

・ 両筑平野における農業水利施設の計画的な更新を図るため、関係首長（朝倉市、小郡市、筑前町、大刀洗町）と両筑土地改良区理事長等を委員とする「県営両筑平野かんがい排水二期事業推進協議会」が設立。

○ 全国農業コンクールで株

3 八幡農林事務所管内

□ 主な動き

- ・遠賀町の「芳香の会」が、6次産業化推進事業を活用し、地元特産の赤しそを用いたジュースを開発。地元での販売に加え、商談会等へ積極的に参加し、販路を開拓中。
- ・学校給食へ地域の農産物を安定的に供給するため、「北九州農協タマネギ・バレイショ部会」が設立。
- ・設置2年目のJA北九吉木集荷場のパッケージセンターは、イチゴでの運用を前年より3週間早い1月上旬より開始。平成26年度は、ビワ、イチジクでの活用も検討中。
- ・水田農業の担い手として、集落営農組織2組織（農事組合法人きもり（平成25年4月設立、構成員12名）、農事組合法人やはぎ（平成26年2月設立、構成員25名））及び大規模農家1戸が法人化。今後は、農地や農作業の更なる集約による経営の安定を目指す。
- ・北九州市は、平成25年4月、鳥獣被害対策の専任部署として鳥獣被害対策課を新たに設置。有害鳥獣による生活環境や農林水産物の被害対策を一元化し、地域ぐるみでの被害対策の取組を強化。小倉南区での野生ザルの生息状況を調査した結果、自然の群れとしては九州最大と考えられる野生ザルの群れの出没が判明。

地域のトピックス

○ 商標を取得し、「若松潮風®キャベツ」としてブランド力を強化

- ・JA北九若松そさい部会キャベツ班では、農家と関係機関で作成した「若松キャベツ産地戦略」に沿った取組を推進中。「赤土の畑で育ち、玄界灘からの潮風にさらされることから、巻きが強く、重く、甘みが強い」という特徴を活かし「若松潮風キャベツ」とネーミングし、ブランド化を展開。
- ・平成25年11月に「若松潮風」で商標を取得。出荷段ボールのデザインを変更し、若松潮風®キャベツとしてPRに力を入れたところ、テレビや新聞等で産地や料理方法が紹介され、県内外から多数の問い合わせを受ける等、認知度が大きく向上。
- ・さらに、加工品の開発を進めるギョウザプロジェクトを立ち上げ、関係者で種々検討を実施。この結果、若松潮風®キャベツをたっぷり使ったギョウザを開発し、JAの直売所や市内スーパー等で販売。

®

4 飯塚農林事務所管内

■ 主な動き

- ・新規就農者の育成・定着に向けた青年就農給付金の給付を受けた研修者9名のうち、1名が平成25年10月に就農、2名は平成26年4月に就農予定。新たに就農し、経営開始型の給付を受けている者は37名。
- ・水田農業経営力強化事業を活用し、水田農業の担い手として大模農家1経営体、複合経営農家2経営体が新たに法人化。また、経営規模拡大助成を活用し、43haで新たに利用権が設定されるなど、担い手への集積が着実に進展。
- ・筑豊花き生産者連絡協議会では、筑豊で生産される花きの知名度を高めるため、花業界関係者を招待した産地見学会・意見交換会を開催、県内外の展示商談会へも積極的に参加。高品質な花きへの評価が高まり、継続的な取引に発展。
- ・酪農からの転向等により和牛繁殖経営が増加。繁殖用黒毛和牛飼養頭数は、平成20年度305頭から、平成25年度は562頭と5年間で1.8倍に増加。
- ・県営事業で造成した基幹的水利施設について、長寿命化対策等の取組を計画的に推進するため、用水及び防災対策に係る施設の機能保全計画を策定（ダム3カ所、揚水機場1カ所）。
- ・農作物への鳥獣被害対策のため、8地域協議会等（13市町）が、国の鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業に取り組み、イノシシ1,511頭、シカ1,000頭を捕獲。

地域のトピックス

- 地元の大学や企業等と一体となった生態系の保全活動が進む
 - ・田川市の「上伊加利環境保全活動組織」では、民間企業のボランティアグループや県立大学など幅広い団体等との連携により、地元の水田に設置した3か所のビオトープを活用し、小中学生への環境教育を実施。
 - ・県立大学生が、地域の小中学生と水中生物の観察や生物調査を実施し、絶滅危惧種のカスミサンショウウオを発見する等、農業が育む自然環境への意識が向上。
 - ・近隣の里山保全にも取り組むとともに、広報誌に掲載して地域への普及、啓発を図ったことから、平成25年度の活動参加者は平成19年の活動当初から約2倍に増加。

5 筑後農林事務所管内

■ 主な動き

- ・大木町の(株)ビストロくるるんが平成25年度農山漁村女性・シニア活動表彰の女性起業・経営参画部門において最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞。女性3名が共同で、「食と農」をテーマに地域の旬の食材にこだわるレストランを経営。また、食べ残し食材は町のリサイクル施設で液肥化し資源の地域循環を確立。起業・経営確立を目指す女性のモデル。
- ・みやま市、八女市の5か所のため池本体の耐震診断を実施。さらに下流域等周辺状況の現地調査を行い、災害に備えるハザードマップを作成。
- ・高品質麦生産に向けて、JA福岡大城麦出荷者部会が平成25年11月7日に、JAみなみ筑後麦大豆部会が平成26年2月24日に、それぞれ設立。需要に即した品種構成を図り、生産性・収益性向上による産地強化を目指す。
- ・八女茶手もみ技術研究会の会員である八女市矢部村の栗原陽平氏、栗原昭夫氏、栗原秀治氏の3人が第17回全国手もみ製茶競技大会で最優秀賞を受賞。大会は、手もみの技術錬磨奨励と後継者育成を図るもので、本県若手生産者の技術の高さを証明。

地域のトピックス

○ 都市の企業や団体と農山村地域の共助活動が進む

- ・棚田や森林の保全活動に取り組む八女市のNPO法人「山村塾」とKDDI(株)九州総支社、(株)高崎総合コンサルタント、(株)乗富鉄工所、(有)うなぎの大東の4社が、農林業の維持や地域活性化に協同で取り組むため、県の協定で育む「農山村との絆」モデル事業を活用し、協定を締結。
- ・八女市笠原地域において、広葉樹の植樹や下草刈り、一昨年夏の豪雨で田畑に流入した土砂の撤去などの支援活動を実施。
- ・企業では、笠原地域で生産された農産物や加工品の社内利用が進む。
- ・今後も、企業が社会貢献の一環で農山村地域を応援する取り組みが広がることに期待。

6 行橋農林事務所管内

□ 主な動き

- ・水田農業の担い手として、法人化した集落営農組織が2増加し41法人、個別の法人経営が2増加し6法人。また、新規就農者が米麦等の農作業受託を主な事業とする合同会社（LLC）を設立。初年度は、田植や稲刈り等約30haを受託。
- ・稲発酵粗飼料の作付面積は約98haと年々拡大。（有）豊津町営農生産組合、（株）苅田町農業公社が生産した稲発酵粗飼料（ロール）は、町外の畜産農家に販売されるなど広域流通の取組へ発展。
- ・豊前市・築上郡で栽培が盛んなブロッコリーは、4月のJA合併に伴い行橋市・京都郡にも作付けが広がり28haに拡大。
- ・いちじく蓬莱柿の産地である行橋市・京都郡で、株枯病・老齡樹の対策として株枯病抵抗性で連作障害に強いキバル台木苗による改植を進めており、約180本（90a）導入。
- ・吉富町では、地域ブランド野菜として赤大根「美（うつくし）だいこん」を栽培。栽培面積は14aとまだ少ないものの、産地拡大へ向け、レシピ集及び赤大根を利用した加工品や飲食店を紹介したグルメマップを作成。

地域のトピックス

○ 農産物直売所の連携による京築地域の活性化

- ・京都地区と豊築地区の農産物直売所及び道の駅（16店：以下直売所）では、東九州自動車道開通やJA合併などをきっかけに、「京築はひとつ」の機運が向上。
- ・情報交換と合同会議を重ねた結果、主に北九州地区の消費者の集客を目的に、直売所の合同イベント（スタンプラリーと連携商品の販売）を実施することを決定。（スタンプラリーは15店舗が参加し、抽選で商品詰め合わせを贈呈）
- ・直売所連携商品として、各直売所の人気商品やおすすめ商品7～17商品を相互に販売。また、各店のイベント等の情報もあわせて発信。
- ・このような取組の結果、集客数が増加するとともに、連携商品も好評で、今後にはずみをつけるイベントに発展。

付属統計・資料

目 次

I 福岡県農業の構造		
1 農家数、農業就業人口		
農家数（主副業別農家数）	1	
農業就業人口等	1	
農家人口	1	
農業経営組織別農家数	1	
販売金額規模別及び農業経営組織別農家数	2	
経営耕地面積規模別面積	2	
2 耕地面積		
耕地面積の推移	3	
農業振興地域の土地利用状況	3	
3 農業産出額等		
農業産出額の推移	3	
農業生産指数	4	
農作物作付延べ面積	4	
主要農産物の生産流通	5	
II 主要品目の生産動向		
1 土地利用型（米・麦・大豆）		
（1）米		
水稻品種別作付面積の推移	6	
主食用旧主流通米の販売実績	6	
カントリーエレベーターの設置状況	7	
（2）麦・大豆		
麦種別・品種別作付面積の推移	8	
大豆の作付面積・収穫量の推移	8	
2 園芸・特産		
（1）野菜		
野菜の作付面積・生産量・産出額の推移	9	
（2）果樹		
果樹の栽培面積・生産量・産出額の推移	10	
（3）花き・花木		
花き・花木の作付面積・出荷数量・産出額の推移	11	
（4）茶・い草		
茶の栽培面積・生産量の推移	12	
い草の作付面積・生産量の推移	12	
3 家畜		
（1）大家畜		
肉用牛の飼養戸数等の推移	13	
乳用牛の飼養戸数等の推移	13	
飼料作物の作付面積の推移	13	
（2）中小家畜		
豚の飼養戸数等の推移	13	
採卵鶏の飼養戸数等の推移	14	
肉用鶏の飼養戸数等の推移	14	
（3）畜産環境・家畜衛生		
畜産環境汚染問題（苦情）の発生状況	14	
家畜の監視伝染病の発生状況	14	
III 農業・農村の基盤づくり		
1 意欲ある人づくり		
新規就農者の推移	15	
姪青年農業者等の推移	15	
姪認定農業者の推移	15	
姪女性の農業就業人口の推移	16	
姪農業委員における女性農業者の推移	16	
姪農協理事における女性理事の推移	16	
姪女性起業数の推移	16	
姪農業法人数の推移	17	
姪農家経済の推移	17	
姪農業物価指数（全国）の推移	17	
姪農業制度資金の融資状況	18	
姪農業共済制度の引受実績の推移	18	
姪農地転用面積の推移	19	
姪農地流動化面積の推移	19	
姪農業経営基盤強化促進事業の実施状況	20	
2 農村づくり、環境にやさしい農業の展開		
姪生活環境の整備状況	22	
姪中山間地域農業の概要	22	
姪中山間地域等直接支払制度の実施状況	23	
姪減農薬、減化学肥料栽培に取り組む面積の推移	24	
姪エコファーマーの認定者数の推移	24	
姪農薬の種類別流通量の推移	24	
姪肥料の流通量の推移	24	
姪バイオマスの発生量と活用状況	24	
姪野生鳥獣による農林水産物被害額の推移	25	
姪狩猟者登録数の推移	25	
姪侵入防止柵の設置状況	25	
姪県内の公設獣肉加工処理施設の設置状況	25	
IV 都市と農村の共生		
姪農産物直売所の設置数の推移	26	
姪米飯給食の実施状況	26	
V 地域の動向		
姪地域別の主要農業指標	27	
姪地域別の農業構造指標	27	
姪地域別の耕地面積の推移	27	
姪地域別の生産動向	28	
VI その他		
姪農産物の自給率	30	
姪過去の主な農作物被害	32	
姪気象経過図	33	
姪農協管轄図	34	
姪農林事務所管轄図	35	
姪用語の説明	36	
福岡県農業・農村振興条例	37	

I 福岡県農業の構造

1 農家数、農業就業人口

① 農家数（主副業別農家数）

※

3.2	6-) / 3.4	5.) 51.6	41) 64.3	3.) 65.	0.30) / 0 /	/) 2 / 4) 61.5
	4 /) 0 - 6	31) - 0.4	21) 2.2	1.) 4 / 4	/ 0.4) 5.6.6	.) 30.) / - 3
3.2	. 6) / 5.3	. 1) 53.6	. /) 6 / .	. -) 1.3	3.6) 30 -	0.2.6) 4 / -
	. 3) - 5.2	. /) 60.3	. .) / - 5	6) . . 4	3 /) 2.5.1	0 - 5) 3.2.4
3.2	. 4) - 2.6	. 1) 10.6	. -) 2.6 -	6) - - 1	1.4) / . 6	0.5.5) 5.5.0
	. 2) / 4 -	. 1) 24.0	0) . 1.0	0) / 3.1	. 5) 1 - 6	. 0.4) 0.4 .
3.2	0.2) 6.3.1	0.1) 4 / 6	0.) - - 1	//) 0 - 4	. / .) - 2 -	5.5 /) 3 - 0
	. 4) 6.2.5	. 4) 5. /	/ -) 1.3 .	/ -) / 2.1	. / 2) 0.0.0	5.6.3) 4.1 /

- 2 -

② 農業就業人口等（販

[Redacted]						
[Redacted]						

[Redacted]						
[Redacted]						

[Redacted]						
[Redacted]						

⑤ 販売金額規模別及び農業経営組織別農家数（販売農家のうち農産物販売のあった農家）

		%																
	//	043613	/53236	.435--	.02	.00	212	.)234	/)242	0300/	.202	.4	//-	01	0/	.42	.6	03544
	.4	15)-04	0.)435	/-)//6	/26	1-2	40.	.)0.-	/)310	035/.	.410	/02	0/4	6.	1-	.5	.3	.33)36
2--	//	.03573	.)0/4	.).11	/6	-/	-/	0.5	.1	14.	.5	.2	.	/				.3166
	.4	.1)/5/	0360/	/306.	.4	034	.6	//6	/6	161	.5	/5	4	.	/			/302-
2-- ---	//	43..73	230.2	13.42	0	//	-/	/65	16	204	.4	6	/					.35..
	.4	6313-	3).64	23)..2	2/	/6	-/2	.63	12	20.	5.	.3	/			0		03/30
--- /--	//	1)64/	/)651	.3343	.	5	35	/65	-//	316	.11	.-				1	1	.3655
	.4	4)06.	031/0	.366/	/6	6	.13	//.	.-1	435	.24	.0	/	/		1	2	03655
/-- 0--	//	/316.	.3006	1-6			1/	.21	.44	1.5	.2	4	3	/		2	/	.32/
	.4	03-/.	.30-5	043	-/		20	.1-	.01	134	.4	.0	0	0	/	4		.34-0
0-- 2--	//	/)2.4	.3062	//6			24	.22	010	1-1	.46	-/	5	.	/	1	.	.3-//
	.4	03.61	.)213	//	-		5.	.4.	0/3	2.6	.52	/0	1	1	.	5	/	.3315
2-- 4--	//	.)23-	603	5.			/4	5-	0/3	/31	.06	3	0	1	/	/	/	3/1
	.4	/3-46	.3.42	4/	2		/4	6/	04/	035	.36	.5	4	1	/	3		6/5
4--)---	//	.3456	.3.0.	1-	.		01	61	16/	/30	.34	.-	2	-/	1	3	0	325
	.4	/)-.1	.3//3	05	.		05	50	2.-	0.2	.54	/2	.2	0	/	4	/	455
)---)2--	//	.3341	.3.43	/4	.		02	4-	3.-	/-/	.54	3	/-	3	.	6	/	165
	.4	/3//.	.305-	.5	6		25	.66	33/	/6/	//2	/.	12	6	2	6		406
)2-- /---	//	5/-	232	3			02	04	/0-	46	//	5	0/	2	3	2		/22
	.4	6.6	25-	5			00	13	.63	63	.11	-/	0-	3	.	5		006
/)- 0)---	//	314	142	6			/-	14	.03	03	.03	.-	25	.0	.	2	1	.4/
	.4	5//	265	2			/5	02	3-	24	.53	/-	5-	-	4	6		//1
0)--- 2)---	//	026	/41	1			5	.0	3.-	4	.0-	.2/	.3	2	.2			32
	.4	164	1-6	/			.1	.1	43	.0	-/3	/1	6-	.6	6	/.		55
2)--- .	//	.76	.4				0	.	.1	/	/2	.-	0.	.0	3	-/		-/
	.4	.46	.3.				2		/0	.	02	.2	01	/.	4	/-		.5
. 0	//	.02	.01				/	/	.	.	.2	/	1	4	1	4		.
	.4	3.	25				/	.	2	.	-/	4	4	4	0	.1		0
0 2	//	.	.				/
	.4	0	0				/
2	//	.	.				/
	.4	.	.				/
2--	//	4)-.1	134-6	.34	/	-	.31	011	.)54-	520	53/	31	/-2	44	/6	3.	.-	/)0-2
	.4	6)356	2323/	.10	6	-	/-4	030	/3--2	.35/	.1-2	.1/	0-6	5-	03	61	4	03-/4
)---	//	03332	/321/	.13	.		.-0	.4-	.3-2/	0/3	223	12	.64	3.	/0	20	3	.3-/0
	.4	133-/	03.6.	00	0	-	.1-	.55	.)/0	066	4/6	66	/54	40	0/	5.	1	.31..

⑥ 経営耕地面積規模別面積（農業経営体）

		%						
		- 0	- 0 - 2	- 2 . -	. - . 2	. 2 / -	/ - 0 -	
//	3)445)6.0	.2)33.	0-4)-/.	.)-43)56/	6-3)2.3	325).01	465)26.	
.4	4)-.3)6//	.)/)31	1-0)034	.)101)040	.)/06)365	564)2.3	.)-1.)-0/	
		0 - 2 -	2 - . - -	. - - / - -	/ - - 0 - -	0 - - 2 - -	2 - - . - -	
//	454)3-5	4.6)041	2-3)1/1	/4.)1.6	/33)6-4	/36)-51	.62)/5/	
.4	6.-2)-41	301)523	/61)4-2	5-3)-16	2/1)-3	.)/365/		

2 耕地面積

⑦ 耕地面積の推移

		.. /	. 4	//	/ 0	/ 1	/ 2
	6 6) 6 - -	6 1) 1 - -	5 6) 6 - -	5 3) 2 - -	5 3) - - -	5 2) 1 - -	5 2) / - -
	4 3) 0 - -	4 /) 2 - -	3 6) 5 - -	3 4) 6 - -	3 4) 4 - -	3 4) 1 - -	3 4) 0 - -
	6) - / -	5) 4 5 -	5) 1 0 -	4) 6 2 -	4) 5 6 -	4) 5 6 -	4) 6 4 -
	. 1) . 3 -	. /) 4 - -	. .) 1 - -	. -) 1 - -	. -) / - -	6) 6 - -	6) 4 0 -
	0 5 1	0 1 5	/ 3 1	/ 0 2	/ 0 .	/ 0 .	/ 0 .

⑧ 農業振興地域の土地利用状況

		.. /	. 4	//	/ 0	/ 1	/ 2
	/ 1 /) - 4 /	/ 1 .) 0 6 1	/ 1 -) 1 2 2	/ 0 6) 6 / .	/ 0 6) 5 . 5	/ 0 6) 4 0 2	/ 0 6) 2 - 6
	. - /) 0 - 3	6 6) 3 1 4	6 5) 0 - 4	6 4) 0 3 2	6 3) 6 4 3	6 2) - / -	6 1) 4 4 .
	4 -) 6 2 -	4 -) 2 - -	4 .) - 4 .	4 .) 7 0 1	4 .) 0 4 1	4 0) - 5 1	4 0) 0 / -
	3 5) 5 - 6	4 .) / 0 4	4 .) - 4 4	4 .) 0 / /	4 .) 1 3 5	4 .) 2 0 .	4 .) 1 . 4
	5 6) 1 4 1	5 .) 4 - -	4 6) 3 4 5	4 4) 6 1 1	4 4) 4 5 5	4 4) 3 2 6	4 4) 3 - 4
	5 .) 5 5 /	4 5) - 3 1	4 3) 5 2 2	4 2) - 2 3	4 1) 4 4 -	4 0) 4 / -	4 0) 3 - 6
	5 - -	4 5 0	4 5 /	4 4 .	4 4 .	4 4 3	4 4 4

3 農業産出額等

⑨ 農業産出額の推移

		□x												
/ *	5	5) / 1 3 0	2 3) 0 6 1	. 5) 1 6 4	0 4 -	3 1 -	/) - 1 2	/ .) 0 1 0	4 3) 1 0 -	0) 0 4 4	. 3 6 5 0	4 - 6	/ 2) 2 - 6	1 3) 2
/ 1	5	5 2) / 2 .	2 3) 4 6 -	/ -) 5 3	1 1 -	4 / 0	. 3 5 1 /	/ .) 5 6 3	4 3) 1 4 .	0) 1 2 .	. 3 6 3 /	4 . 6	/ 2) 5 5 -	2) - 0 0
/ 1		5 3) . - 1	2 3) 6 6 /	/ -) 0 2 .	1 2 3	4 0 6	. 3 5 2 -	/ .) 5 6 3	4 3) 1 4 .	0) 1 2 .	. 3 6 3 /	5 . 2	/ 3) 2 0 .	2) . 6 4
/ 1		. 3) 3 - .	6) 6 . 1	/) . 5 3	5 -	2 5	2 - 3	1) 0 3 6	. 3) / 6	3 2 2	3 - 2	/ / 4	3) 1 5 5	/) - 2 2
2 6		/) 6 4 .	/) / 5 4	6 4 4	/ . /	. 6	. 6	1 2 .	0 - 2	5 0	4 5	. 1 /	3 2 1	3 1
□ . /		/) 3 5 3	/) / 4 0	4 4 /	5 1	. 0	. 0	3 5 0	0 . 6	/ . 2	2 6	. 3	0 5 5	1 6
□ . 4		/) 0 5 5	. 3 6 4 0	2 - /	. 6	0 0	. 0	3 3 0	/ 4 /	/ . 5	1 6	. 3	0 6 1	2 6
□ / -		/) / 0 3	. 3 5 0 2	1 2 6	. . /	0 3	. 6	3 0 5	/ . /	/ . .	1 0	. 1	0 4 6	2 /
□ / .		/) . 4 6	. 3 4 3 2	1 0 3	3 .	/ 3	. .	3 2 5	/ / 1	/ - -	0 6	. . .	0 6 1	1 6
□ / /		/) - 6 5	. 3 4 - 5	1 / 1	3 -	/ .	. -	3 1 0	/ / /	. 5 3	0 3	. - 1	0 4 .	1 6
□ / 0		/) . 3 5	. 3 4 3 /	0 4 1	2 -	/ 1	. 0	4 2 -	/ / 4	. 6 .	0 6	. 6 6	0 5 4	2 2
□ / 1		/) . 4 4	. 3 4 4 5	1 1 1	/ 5	/ /	. -	4 1 0	/ / 2	. 5 /	0 /	. 6 /	0 5 .	2 0
□ / 1		/) / 3 2	. 3 5 3 3	1 4 .	0 1	/ /	. 6	4 1 0	/ / 5	. 5 1	0 4	. 5 3	0 1 5	2 -

		□x												
/ *	5	4) 2 - 3	3) 2 4 6	2) 0 2 6	4) 2 0 -	/ 2 - 2		1 5 6	2 3 -		/ 4) 5 - -			
/ 1	5	4) 4 1 3	3) 5 4 1	2) 0 3 4	4) / 0 6	/) / - 1		1 6 3	2 5 .		/ 6) 2 1 .			
/ 1		4) 4 3 9	3) 5 6 3	2) 3 - 6	4) 3 3 3	/ 0 - 6		1 6 3	2 5 .		/ 6) 4 4 .			
/ 1		4 0 .	3 3 2	. 3) 2 3 0	/) - 6 6	3 0 1		1 -	. 6 5		2) . 4 4			
2 6		. 3 /	. 0 /	6 3	0 / 4	/ - 1		2	0 -		. 3) / - 1	6 4 5	. - 5	. 3) / 1 .
□ . /		. 0 6	. / 1	1 3	. 1 6	. . 2		1	/ 2		. 3) - 1 3	. 3 . 2 6	. - 2	. 3) 2 5 2
□ . 4		. 0 5	. / /	0 5	. 2 4	. / 6		0	/ /		5 6 4	. 3 - 6 4	6 2	. 3) - /
□ / -		. / /	. - 5	1 5	. 2 /	. / .		2	/ /		5 0 /	. 3 . . -	6 0	. 3) 3 -
□ / .		. - 1	6 1	2 .	. 5 1	. 0 4		2	/ .		5 - 2	. 3 - 4 1	6 /	. 3) 0 . 3
□ / /		. - 3	6 3	1 1	. 3 5	. / 4		1	. 6		5 - 1			
□ / 0		. - .	6 -	2 -	. 4 3	. 0 .		2	. -		5 6 -			
□ / 1		6 4	5 1	2 -	. 4 3	. 0 -		2	. 6		4 4 3			
□ / 1		. - .	6 .	2 0	. 4 -	. / 5		1	/ .		5 2 .			

⑩ 農業生産指数(平成12年=100)

	.4	62.0	61.3	62.4	. / - /	6.2	64.0	6.6	62.1	64. /	64.4	6 / 0	63.5	64.2
	. /	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -	. / - -
	.0	64. /	64. -	62.6	52.4	65.2	66.1	62. /	. / .3	65. /	61.4	6 / -	. / 5 -	. / - 3
	.1	62. /	61.4	60.4	42.5	62. -	56. /	-0.0	66. /	64. /	60.4	61. /	. / 5 6	63.2
	.2	6. /	56.5	55.0	50.0	6. /	54.0	62.3	- / .	64.0	6 / 1	55. /	. / 2 5	66.6
	.3	56.2	56. -	5. /	. / 4 0	56.3	41.0	- / 1	- / .	6 / 2	6. 0	53.1	. / 5 5	6. 0
	.4	6 / 0	60. -	6. 4	. / 6 3	54.6	51.4	6 / 2	- / 4	55.3	6. 0	5 / /	. / 5 -	50.4
		0. /	1.2	. / 0	. / .	. / 6	. / -	4.6	. / 2	1. /	. / .	1.6	- / 4	5.0

⑪ 農作物作付延べ面積

		. /	. 4	. /	. /	. / 0	. / 1	% / 1	. / 1		
%		2030. - -	1 / 3. - -	1.33. - -	0631. - -	0631. - -	0534. - -	0532. - -	.5030. - -	.325.) - - -	
	□.	.431. - -	.43. - - -	.636. - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	2231. - -	. / 3634. - -	
		0 / /	. / 34	. / .	. / 5.	. / 4.	. / 25	. / 23	.63 / - -	0535. - -	
	□ /	1.2	3. /	5.4	3.6	2.4	3 /	4 /	03. - - -	3 / 33. - -	
		. / 3 / 5. -	3302. -	4355. -	53. - -	4364. -	53 / . -	4356. -	. / 35. - -	. / 53 / - -	
	□ 0	.033. - -	. / 35. - -	. / 3 / - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	. / 3. - - -	4333. - -	2063. - -	
		. / 3. - - -	6313. -	53 / 0. -	4322. -	4306. -	43 / 0. -	3364. -	1.33. - - -	. / 1330. - -	
		. / 3.0. - -	. / 3 / - -	. / 342. -	. / 341. -	. / 341. -	. / 340. -	. / 341. -	003. - - -	. / 223. - -	
	□ 1	1360. -	53 / 0. -	2341. -	1342. -	1356. -	23 / . -	23 / 2. -	. / 130. - -	. / 33 / 63. - -	
	□ 2	1323. -	1315. -	0365. -	0355. -	0367. -	0351. -	0342. -	. / 30. - -	5233. - -	
		.63. - - -	.03. - - -	. / 33. - -	6330. - -	4330. - -	6331. - -	6233. - -	23636. - -	13.53.) - - -	
	6636. - -	6131. - -	5636. - -	543. - - -	4332. - -	533. - - -	6231. - -	22130. - -	132163. - - -		
□ □ 3	. / 6 /	. / 6. /	. / . / 6	. / . / 3	. / . / 0	. / . / .	. / . / 6	. / . / 5	6. / 6		
□ □ 4	. / 1.5	. / 1.4	. / 1.2	. / . / 3	. / . / 4	. / . / 4	. / . / 3	. / 6.2	62.5		

⑫ 主要農産物の生産流通(平成24年)

	. 55) 4 - -	. - 2) 2 / 3	5 0) . 4 1						
	2 -) - - -	1 5) 3 . 2							
	. 2) 5 - -	. 2) / 1 /	2 2 5						
	. 6) 6 - -	. 3) 3 - -	0) 0 - -	0 1) / 1 3	5) 1 3 4	/ 1 4	/ 2) 4 4 6	4 2 0	
	1) . - -	0) 2 0 -	2 4 -	.) - 4 /	.) - 1 /	6 4 /	0 -	/ 5	
	/) 5 / -	/) / 3 -	2 3 -	. 5) 3 2 .	// .	. /	. 5) 1 0 .	6 5 5	
	4) 6 . -	3) / 1 -	.) 3 4 -	2 -) 1 / 0	.) 2 / 1	0 -	1 5) 5 6 6	6 4 -	
	/ 5) 1 - -	/ 2) 3 - -	/) 5 - -	1 4) . . 0	. .) 0 . 1	/ 1 -	0 2) 4 6 6	4 3 -	
	6) 5 . -	5) 5 0 -	6 5 -	/) . 4 1	.) 0 4 5	3 0 1	4 6 3	0 3 3	
	4) 3 2 -	3) 6 0 -	4 / -	3) 6 5 3	.) / - -	. 4 /	2) 4 5 2	5 / 5	
	1) 6 0 -	/) 5 / -	/) . . -	1 4) - 0 5	0 5 .	- 5	1 3) 3 2 5	6 6 /	
	/ -) 3 - -	. 5) 6 - -	.) 4 - -	4) 0 / 6	0) 4 2 1	2 . /	0) 2 4 1	1 5 5	
	/ -) - - -	. 5) 1 - -	.) 3 - -	. .) 6 0 3	0) 1 2 -	/ 5 6	5) 1 5 3	4 . .	
	. -) 5 - -	6) 3 5 -	.) . / -	. /) 3 6 1	1) - . -	0 . 3	5) 3 5 2	3 5 1	
	. 5) 0 - -	. 4) / - -	.) . - -	/ 0) - - -	0) 2 2 -	. 2 1	. 6) 1 2 -	5 1 3	
	2) . 5 -	1) 4 . -	1 4 -	0) 1 4 1	.) 1 3 2	1 / /	/) - - 6	2 4 5	
	. 5) - - -	. 4) . - -	6 - -	0) 1 1 4	/) . 4 5	3 0 /	.) / 3 6	0 3 5	
		/ 3) 3 - -	/ 1) 6 - -	.) 4 - -	. /) . 1 5	1) 1 1 .	0 3 3	4) 4 - 4	3 0 1
/ -) / - -		. 6) / - -	.) - - -	1) 1 2 5	/) / 0 .	2 - -	/) // 4	2 - -	
3) / 5 -		2) 4 4 -	2 . -	/) 2 5 6	5 6 3	0 1 3	.) 3 6 0	3 2 1	
6) . / -		5) 1 0 -	3 6 -	/) 1 2 1	.) . 6 .	1 5 2	.) / 3 0	2 . 2	
. -) . - -		6) 3 / -	1 5 -	1) 3 3 -	.) 1 5 -	0 . 5	0) . 5 -	3 5 /	
/ 2) - - -		//) 6 - -	/) . - -	0) 6 / -	0) 0 . 3	5 1 3	3 - 1	. 2 1	
4 1 3		3 4 5	3 5	/ 4 5	. 1 .	2 - 5	. 0 4	1 6 /	
	. 0) 4 - -	. 0) 4 - -	-	2 1) / 6 -					
	. 1 1) 5 - -	. 1 1) 5 - -	-	/ . 1) 0 / 5					
	3) 0 / 2	3) 0 / 2	-	6 3 .	3 4 6	4 - 4	/ 5 /	/ 6 0	
	2 4) 3 2 /	2 3) / 0 -	.) 1 / /	. 1 -) 4 6 5	0 6) 6 . 5	/ 5 1	. - -) 5 5 -	4 . 3	
	6 -) / / 3	6 -) / / 3	-	. 4 .) 2 2 -	2 6) 4 4 3	0 1 5	. . .) 4 4 1	3 2 /	

Ⅱ 主要品目の生産動向
 1 土地利用型(米・麦・大豆)
 (1)米
 ⑬ 水稻品種別作付面積の推移

								/ 2			
								%			
			/ /	. 4	//	/ 0	/ 1	/ 2			
		0) / 4 -	.) 0 0 -	.) - / -	2 5 -	1 6 -	1 3 -	1 5 -	. /	. 0	
		2) 2 4 -	.) 6 - -	. 1) / - -	. 2) 3 - -	. 2) . - -	. 2) / - -	. 2) . - -	0 6 -	1 - .	
			.) - 4 -	// -							
			.) 6 - -	-							
				.) 4 . -	4 / -	0 / -	/ 3 -	/ 3 -	- 4	- 4	
					.) - 6 -	0) / 5 -	0) 4 6 -	1) / 3 -	. . -	. . 0	
			. 6) / 2 -	/ -) / - -	/ -) / - -	. 5) 0 - -	. 3) 6 - -	. 2) 6 - -	. 2) 4 - -	1 - 3	1 . 4
					0 3 -	. 6 -	. 0 -	1 -	. -	- -	- -
			/) 5 1 -	/) 4 0 -	.) / 2 -	. 4 -	1 -	/ -	. -	- -	- -
			2) 0 3 -	1 - -	/ . -	/ . -	. 1 -	. 3 -	. 6 -	- 2	- 2
		6 4 -	/ 2 -	. . -							
				1 -	6 -	. . -	. . -	6 2	- /	- 0	
		/ 4 -	0 0 -	/ 0 -	/ - -	. 5 -	/ - -	/ 0 -	- 3	- 3	
		. 0) 6 - -	5 6 -	2 4 -	3 - -	3 - -	6 4 -	.) - 4 2	/ 5	/ 6	
	□	2 .) 1 0 -	1 .) - - -	1 -) . / -	0 5) - 2 -	0 4) 2 0 -	0 4) 0 4 -	0 4) 3 2 -	6 4 0	. - - -	
			/ -								
			/ 2 -	. 5 -							
		.) 0 2 -	.) . 5 -	.) / 1 -	.) / 4 -	.) - 5 -	.) . - -	6 1 -	/ 1	5 6 2	
		2 / -	. 2 -	3 -	5 -	6 -	. / -	. . -	- 0	. - 2	
	□	.) 5 4 -	.) 3 - -	.) 1 5 -	.) 0 2 -	.) . 4 -	.) . 0 -	.) - 2 -	/ 4	. - - -	
		2 0) 0 - -	1 /) 3 - -	1 .) 3 - -	0 6) 1 - -	0 5) 4 - -	0 5) 2 - -	0 5) 4 - -	. - - -		

⑭ 主食用旧自主流通米の販売実績

	/ 0	/ 1	/ 0	/ 1	/ 0	/ 1
	/ 1 6	/ 0 0	- /		/ 2 .	/ 0 0
	- .	- .	- -	- -	- .	- .
	. - 4	. - 3	- 4	- 3	. . 1	. . /
	/ 0 -	/ . -	4 6	5 5	0 . -	/ 6 5
	. 0	. /			. 0	. /
	- 4	- .			- 4	- .
	. 5	/ 4	- 3	- 3	/ 1	0 0
	3 / 4	2 6 -	6 1	. - -	4 / -	3 6 -

□

. 3 0

⑮ カントリーエレベーターの設置状況

1 /			/) 4 2 -	/) - - -	6 - -		
1.1			/) 2 - -	/) - - -	3 - -		
1.2			/) - - -	/) - - -	2 - -		
1.3			/) - - -	/) - - -	2 - -		
1.4			/) - - -	/) - - -	.) 2 - -	/ 2 -	2 - -
2 -			/) 2 - -	/) - - -	3 - -		
2 -			0) - - -	/) - - -	.) / - -	2 - -	
2.0			0) 2 - -	/) 2 - -	.) / - -	2 - -	
2.1			/) - - -	/) - - -			
			/) 2 - -	.) - - -	.) / - -		
2.2			/) - - -	.) - - -	.) / - -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	/) 1 - -	.) 1 1 -		
2.3			/) 2 - -	.) 2 - -	.) - - -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			1) 5 - -	0) 3 - -	.) 1 1 -		
			0) - - -	/) - - -	.) - - -		
2.4			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
2.5			1) / - -	0) - - -	.) 1 1 -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
2.6			/) 2 - -	.) 2 - -	.) / - -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	/) 4 - -	.) - 5 -		
3 -			0) - - -	/) / 2 -	6 - -		
			0) - - -	/) / 2 -	6 - -		
			/) 2 - -	.) 4 2 -	6 - -		
3 -			0) - - -	/) / 2 -	6 - -		
			1) / - -	0) - - -	4 / -	3 - -	
3 -			/) 6 - -	/) - - -	4 2 -	. 2 -	2 - -
			0) - - -	0) - - -	4 / -		
			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
3 /			0) 3 - -	0) - - -	4 / -		
			0) - - -	/) . - -	.) - 5 -		
			0) - - -	/) / 2 -	6 - -		
			0) - - -	/) . - -	.) - 5 -		
3.0			/) 2 - -	.) 4 2 -	3 - -	/ 2 -	
			1) 5 - -	1) / - -	0 3 -	0 - -	
/			0) 0 - -	0) - - -	0 3 -		
			0) 3 - -	/) 4 - -	.) - 5 -		
			1) / - -	0) - - -	.) 1 1 -		
/			/) 1 - -	□□ 6 0 2	.) - 2 /		
			0) 3 - -	/) 1 - -	4 / -	3 - -	
			0) - - -	/) 1 - -	4 / -		
0			/) - - -	.) - - -	3 - -	2 - -	
			0) - - -	/) 2 - -	2 - -		
			/) / 2 -	.) 4 2 -	3 - -		
			0) - - -	/) 2 - -	3 - -		
1			/) . - -	.) 5 - -	0 3 -		
3			0) - - -	/) 1 - -	0 3 -	0 - -	
			/) 2 - -	/) / 2 -	/ 2 -		
4			/) - - -	/) - - -			
			/) - - -	/) - - -			
5			1) / - -	0) 0 - -	4 / -	0 - -	
...			.) 2 - -	.) 2 - -	3 - -	5	

(2) 麦・大豆

⑩ 麦種別・品種別作付面積の推移

			./	.4	//	/0	/1	/2
		1) 50-	.) 15-	.) 44-	0/-			
		2) -.-	1) 00-	3) 4/-	3) 0/-	3) 14-	3) 00-	3) .3-
		.) 3.-						
			3) 62-	2) 55-	1) 66-	2) /4-	2) ./-	2) 1.-
			50-	.) 04-	.) -0-	52-	54-	53-
				6-				
		32-		/4-	.) 24-	.) 41-	.) 5--	.) 33-
					233	434	55-	5--
				. /) .--	. 0) 3--	. 3) .--	. 1) 5--	. 2) .--
		1-						
		/) 6--	/.-					
		.) ---	.) 0.-	2/-				
			2--	/2-				
			.4-	6--	.) /4-	.) /2-	.) -2-	.) -/-
				0-	2/-	34-	55-	50-
			60-	46-	.) /2-			
			4-	25-	.) /3-	.) /0-	.) /2-	.) /4-
					/) .6-	/) 0--	/) 11-	/) 16-
			/1-				2-	.-.
	2) .-.	0) -2-	0) 20-	2) /1-	2) 12-	2) 34-	2) 4/-	
			/55	/34	03-	1./	1-2	1.2
	43							
		43	/55	/34	03-	1./	1-2	1.2
		.4) /--	.3) 6--	.6) 6--	/-) 1--	/.) ---	/.) ---	/.) ---
		3.) 3--	41) /--	46) 3--	26) 6--	26) 0--	34) ---	34) 3--

⑪ 大豆の作付面積・収穫量の推移

			./	.4	//	/0	/1	/2
		/) .0-	3) // -	4) 46-	4) 6--	5) .1-	4) 50-	4) 5.-
		1) 66-	.1) /--	.2) /--	.3) 4--	.3) 3--	.2) 5--	.0) ---

2 園芸・特産

(1) 野菜

⑩ 野菜の作付面積・生産量・産出額の推移

		/1			/4			/1			/0			/1		
		/31	.2)9--	/5	/1	.0)---	/0	.50	-.3)1--	/4	.55	-.3)5--	/3	.50	-.3)5--	/3
		/67	//)1--	12	/2	.5)3--	10	/04	.6)0--	31	/01	.6)6--	25	/01	/.3)---	44
		05	00)1--	4	0/1	/5)5--	25	/44	/0)7--	46	/43	/.3)5--	4	/35	/.3)3--	33
		17	324	-	0	143	-	0/	15/	/	0/	142	-	0/	14	-
		244	//)1--	/-6	2.3	.5)3--	.45	151	.5)1--	.41	14	.5)6--	.60	131	.5)1--	.61
			1)10-	1	.10	0)14-	1	.70	/)41-	1	-.7-	/)6-	1	..5	0)1-	1
			543	0	5/	1-2	/	52	123	2	53	111	/		14-	0
		.4-	.)/5-	2	.1-	5/1	1	-.7-	360	1	-.7-	332	1	..2	356	0
		-.3-4-	1/)5--	/0	526	00)4--	/2	44-	/5)3--	/1	436	/6)---	.4	435	/5)1--	/.
		013	.0)---	1	/21	-.3)---	2	//4	5)11-	2	//1	5)7-	2	/6	4)6-	1
		365	..3)1--	/6	3/	-.3)3--	0-	311	-.3)7--	06	3/2	5)55-	00	304	6)5-	05
		400	..3)7--	21	4-2	6)3--	22	303	5)11-	34	3/.	4)54-	3-	3-2	4)32-	21
		/23	4)55-	1	.54	2)40-	1	.5/	2)24-	2	.5/	2)26-	5	.45	1)60-	3
		611	-.5)4--	0/	64-	.5)7--	00	614	-.4)1--	1-	636	-.4)7--	15	653	-.5)0--	2-
		2/	0)57-	2	2/	0)0--	3	21	0)27-	6	22	0)37-	5	20	0)12-	-
		60	//)2-	/	36	-.3)4-	0	25	-.3)5-	/	3	-.3)0--	/	25	-.3)2-	/
		025	0)65-	4	033	1)00-	..	2/0	2)2-	0	2/5	2)0-	..1	20-	2)5-	..1
		301	0)7--	.1	12-	/0)1--	.0	062	.6)5--	.2	061	/.3)1--	.2	051	.6)6--	.1
		.20	2)35-	0	-.7-	1)30-	0	..0	1)7-	0	..5	1)3-	0	..4	1)1--	1
		.00	0)5-	0	56	/)1--	/	..3	/)54-	1	..7-	/)43-	2	..7-	/)57-	1
		061	0)3-	1	0/4	/)22-	0	/32	/)3-	1	/31	-.3)6-	0	/25	-.3)6-	/
		1)4-	21)2--	..0	1)1--	21)1--	..0/	0)2.5	3)30-	..3-	0)12/	23)4--	..32	0)3-	2)34--	440
		./)0--	0.0)2--	330	..3)5--	/34)3--	305	..3)---	/21)---	42-	6)6--	/15)1--	410	6)60-	/2)31--	440
		163	3)6-	3	1-3	2)44-	3	04-	2)7-	..-	026	1)56-	4	034	1)60-	2
		/34	1)7-	2	/.-	/)7-	0	.4-		/	.25	/)7-	0	.23	/)32-	1
		430	..3)---	..	3.3	4)6--	6	21-	2)7--	..7-	2.4	4)1--	..	2/0	4)3--	6
		0)1--	0/1)2--	341	..3)1--	/42)2--	314	..3)2--	/26)7--	43/	..3)1--	/22)7--	420	..3)2--	/3)3--	45/

..4

..6

..4

(2) 果樹

⑱ 果樹の栽培面積・生産量・産出額の推移

	／	4	／	0	1
	□	□	□	□	□
	／) 41 - 15) 1 - - 21	／) / 0 - 1 -) 0 - - 1 -	.) 54 - / 5) 0 - - 2 -	.) 44 - 0 -) 4 - - 25	.) 34 - / 3) 3 - - 22
	／) 0 - - / 6) 6 - - 16	／) . 6 - / 2) 1 - - 0 -	／) - 0 . 1) 6 - - 05	／) - 0 - 2) 0 - - 03	.) 64 - / 2) - - - 2 -
	.) / . - . / 6 - - 41	.) - 1 - . -) 5 - - 3 -	630 6) . 2 - 30	613 4) 60 - 23	6 . 3 6) . / - 31
	3 / 0 . 2) / - - 05	215 . 0) - - - / 6	160 6) / 0 - / 5	156 6) 52 - / 6	150 . -) . - - 0 -
	0 / 5 4) . - - . 4	0 - - 3) 31 - . 5	0 - . 1) 35 - . 6	0 - . 1) . 0 - . 4	0 - . 2) 1 . - / -
	. 40 .) 51 - 4	. 51 . -) 63 - 5	. 03 .) / 5 - 4	. 04 . -) 03 - 6	. 00 . -) 05 - . -
	. 21 . -) 52 - 5	. 00 . -) 15 - 3	. / . 60 / 2	. . 6 623 3	. . 0 65 . 3
	. / 3 . -) - 2 - 1 55 - 0	6 . 355 1	64 5 / / 1	6 - 413 1
	2 / 3 /) 2 - - 3	141 . -) 43 - 2	1 / 0 . -) 33 - 2	1 . 4 . -) 12 - 1	051 . -) / 3 - 1
	35 . / . 4 /	24 . / . / /	2 . . / - .	2 - 41 .	14 4 . .
	063 1 - 0 .	006 / 53 .	/ 54 / 5 .	/ 45 . - 63 .	/ 40 . - 04 .
	5 . 3 5) 5 - 0 . 0	3 . 4 2) 563 . -	3 . 0 /) 0 . - 2	263 /) / 2 - 1	26 - /) - 6 - 0
	6) 13 - 0 -) . 30 / 4 /	5) / 0 - - 5) 3 - - / . /	4) 06 40) 2 - - / / 4	4) / 0 - 42) - - - / / 2	3) 64 - 5) / 6 - - / 15

□ □

- 6

. 6

／

□

(3) 花き・花木

⑳ 花き・花木の作付面積・出荷数量・産出額の推移

		〃			〃			〃			〃			〃		
		763---	1-6331-	/	7236--	6634--	/	7233--	6-3----	/	7237--	5432--	/	7335--	5434--	/
		136--	4323-		1353-	4321-		1322-	2343-		1311-	331--		1355-	4316-	
		637--	1737--		6315-	1733--		6315-	1735--		6319-	1735--		6315-	1733--	
		6131--	17631--	33016	6136--	17635--	3315-	6130--	17432--	233--	6136--	17231--	231--	6135--	17332--	230--
		630--	663---	13456	631--	753---	13461	7374-	1634--	131--	7374-	1630--	130--	7377-	1534--	131--
		136--	123---	227	137-	1732--	27-	131-	1735--	2--	131-	1736--	2--	1315-	1731--	2--
		136--	631--	616	1330-	6336-	66-	1342-	6320-	6--	1334-	6300-	6--	1330-	6315-	6--
		136--	7734--	154	1336-	6135--	40-	1324-	7637--	5--	1326-	7434--	4--	1315-	7330--	4--
		734--	530--	143	736--	5366-	44-	6345-	6314-	5--	6346-	430--	5--	6350-	6375-	4--
		631--	6347-	666	7351-	4345-	65-	6372-	4316-	131--	6315-	4316-	6--	6372-	4301-	131--
		134--	3328-	115	2314-	3347-	11-	2327-	3312-	1--	2313-	2332-	1--	2310-	2321-	1--
		1232--	36328-	6311-	16375-	26377-	7328-	17317-	21353-	731--	11357-	21360-	737--	11341-	21341-	737--
	2637--	7673--	11320	2738--	74130--	11311-	2731--	74637--	1736--	2134--	71131--	1731--	2634--	76634--	1734--	
		662	57-	10-	66-	60-	11-	540	673	1--	532	675	1--	520	554	0--
		136--	7315-	41-	567	1340-	1--	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		630--	7351-	637-	7336-	731--	6312-	7324-	1352-	732--	7322-	136--	731--	731--	1335-	732--
		6376-	7311-	463	6311-	7367-	31-	6314-	7311-	3--	6316-	7312-	2--	6313-	7317-	3--
		73142	6317-	13613	73135	63616	51-	73344	13673	137--	73252	13477	130--	73114	13320	131--
		1134--	1131--	63710	6337-	1136--	2311-	6316-	635--	134--	6316-	632--	133--	5347-	6311-	132--
	1316-	6130--	131--	2311-	6235--	1316-	1350-	6531--	131--	1351-	6537--	131--	1340-	6330--	131--	
	56316-	66634--	73413	44326-	67133--	7314-	43377-	76431--	1631--	41326-	76335--	1577--	46312-	752311-	1534--	
	73467			7335-			13266			13265			13250			
	52357			51771-			44325			43375			41340			
	13734-2	57634-2 □	5713332 □	67352-	5111-42 □	513621 □	163465	5	5	11266-	5	5	113713	5	5	
	7153454	623762	63034	71631-3	63477	43011	615347-	73341-		615347-	73341-		615347-	73341-		

(4) 茶・い草

②1 茶の栽培面積・生産量の推移

			／	4	0	1	2
			24-	22-	25-	25-	24-
			6) - -	-) / - -	-) - -	-) 1 - -	-) 5 - -
			46-	-) - 6-	/) / 3-	/) . 4-	/) 1 0-
			/ - -) 0 . -) 1 / -) / 6 -) 0 3 -
			23 .	32 -	34 -	344	4 / 1
			0 /	. . 5	. . 4	. . -	. 46
			.	5	15	62	. 35
) 0 5 -) 2 3 -) 3 5 -) 3 . -) 6 / -
			. 1 6	6 2	5 /		
			. 6 .	1 . 4	1 3 1	2 - 4	1 1 4
			/ -			.	.
			2 /	/ -	0 4	1 6	0 2

②2 い草の作付面積・生産量の推移

			／	4	0	1	2
			223	. 0 1	32	. 0	. 1
			3) 41 -	-) 1 2 -	560	. 20	. 43
			312	. 1 /	36	/ -	. 6
□□			2) 63 -	/) 56 -	-) 4 - -	505	521
			35) / - -	0 .) - - -	/ .) 5 - -	6) 31 -	-) 3 - -
			6	2	1	/	/
			. -	2	1	/	/

3 畜産 (1) 大家畜

⑳ 肉用牛の飼養戸数等の推移

		／	4	0	1	2
	05-	0--	/0/	/00	//2	//-
	56	--2	/-	--5	--5	--/
%	00)6--	01)1--	/4)5--	/2)/--	/1)1--	/1)3--
	/)4--	2)4--	2)/--	4)1--	3)/--	2)1--
	2)0--	3)6--	5)10-	2)0-	2)5--	3)0--
	2)6--	3)5--	1)3-	/)33-	/)1--	0)0-
	/5) /.	/2)644	6)21-			
% . h)/ /2)/ /4-)/ 23 /)/ /2-)/ /30	

/ 0

/ 2

㉑ 乳用牛の飼養戸数等の推移

		／	4	0	1	2
	33-	2.-	1.4	/61	/51	/41
	1 /	15	21	23	23	25
	/4)6--	/1)3--	//)3--	3)3--	3)0--	2)5--
	5)3--	3)3--	1)4--	0)3--	0)0--	0)0--
	6)0--	5)0--	4)6--	3)0--	2)4-	2)2-
%	0-)310	02)/-2	//)/. /0	56)/12	6-) / /3	
% h .	4) - /1	5) . 12	5) 0 - 4	5) 1 . 6	5) 4 2 6	
% h	61) - /3	41) / 0 /	41) 6 0 0	62) 6 2 0	65) 2 3 0	

/ 2

㉒ 飼料作物の作付面積の推移

		／	4	0	1	2
	0)25-	/)66-	/)21-	0)4/-	0)50-	0)51-
	//)6-	/)-/-)40-	0) / -	0) / 6-	0) 0 -
) / 6-	64-	5 -	26-	214	20.
	/)0 -	/) . -)44-)4 / -)33-)31-
	-	-	65	513	616) - 2-
	400	3--	012	/ . 1	60	35
	1 - /	/ . 1	0 -	40	34	34
	02	43	64	534	566	521

(2) 中小家畜

㉓ 豚の飼養戸数等の推移

		／	4	0	1	2
	3-	.-	5 /	33	3-	3-
	56) ---	4.) ---	44)203	5-)2--	45)0--	46) / --
	223	313	613) / / -) 0 - 2) 0 / -
	3-)5--	0.)5--	1 /) 0 4 .			
% . h	102	061	12-	12 /	1.6	

//

/ 0

/ 2

27 採卵鶏の飼養戸数等の推移

	／ 4 -	／ 5 -	／ 4	／ 0	／ 1	／ 2
	／ 4 -	／ 5 -	／ 3 6	／ - 0	／ - 1	6 2
1) 2 - 5	1) / 1 .	0) 1 - 1	0) - 2 4	/) 6 6 6	/) 5 1 0	
3 4) 0 4 /	4 .) 2 2 .	2 6) 5 5 2	3 .) 4 3 3	2 3) / 0 -		
	／ 3 /	／ 4 6	／ 6 -	／ 6 -	／ 3 5	／ 6 1

28 肉用鶏の飼養戸数等の推移

	／ 6 -	／ 2 6	／ 1 5	／ 0	／ 1	／ 2
	／ 6 2 0	／ 2 0 .	／ 1 1 -	／ 0 - .	／ 0 4 6	／ 1 1 5
4) 5 0 1	3) / 1 2	2) 6 5 0	3) 5 - 6	3) 0 / 2		
	／ 3 2	／ 4 2	／ / 6	／ 1 3	／ 6 4	／ 3 2

(3) 畜産環境・家畜衛生

29 畜産環境汚染

--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--

Ⅲ 農業・農村の基盤づくり

1 意欲ある人づくり

③① 新規就農者の推移

		／	4	0	1	2
	21	3-	20	/5	/5	/5
	00	5-	50	4.	.3	.1
	0	6	./	/2	3-	33
	6-	.16	.15	./1	/-1	/-5
	5.	.-2	.0.	6/	.2.	.3/
	6-	4-	56	41	41	45
			..	5-	.-1	40

.0 0- .1 06

③② 青年農業者等の推移

青年農業者数（39歳以下）・農業青年クラブ員数

		／	4	0	1	2
	15	24	.22	.24	.3/	.36
	5-4	3.1	.)2//	.)133	.)2-/	.)2-4
	.-5	51	.1.	./5	.4	./.
	55	2-	./3	..5	./.	..4
	.)-2.	5-2	.)611	.)536	.)6-/	.)6.1
	20-	2-5	145	000	0/2	01-

.0 0- .1 06

農業士等

		／	4	0	1	2
	45	43	46	46	45	45
	..	.23	.2/	./3	./3	./3
	3/	44	44	4.	4.	4.

③③ 認定農業者の推移（経営類型別）

	／	4	//	0	1	2
	.)-22	/) .56	/) .6-	/) -3.	.) 616	.61
	.) - - /	.) .4/	.) 114	.) /6-	.) 0/0	.) .62
	22.	521	446	460	454	3--
	116	263	31/	264	233	114
	/53	/65	04-	026	004	0.-
	/40	/0-	/55	0//	0-1	//5
	241	220	364	406	423	/) 636
	1) .6-	2) 56/	3) 1.0	3) .3.	3) -//	2) 610

5-

3- 5-

3-

/1

③④ 女性の農業就業人口の推移

			./	.4	//
	.05) - 4.	. . 2) / 20	. . -) 3 - 4	6 2) - / 0	3 5) - 6 .
	5 /) . / 3	3 2) 5 5 4	3 .) - 2 5	2 -) 1 1 /	0 0) 6 1 1
	2 6 2	2 4 /	2 2 /	2 0 .	1 6 6

③⑤ 農業委員における女性農業者の推移

	./	.4	//	/0	/1	/2
	.) 4 5 4	.) 3 0 4	.) / 1 4	.) / 0 0	.) / 0 1	.) // 5
	0 -	3 3	2 /	3 2	3 5	4 1
	. 4	1 -	1 /	2 0	2 2	3 -

③⑥ 農協理事における女性理事の推移

	./	.4	//	/0	/1	/2
	2 5 1	2 1 /	2 / 0	2 . -	2 - -	1 6 /
	. 6	2 -	1 6	1 2	1 1	1 2
	0 0	6 /	6 1	5 5	5 5	6 .

③⑦ 女性起業数の推移

	./	.4	//	/0	/1	/2
	. 6 6	/ - 3	/ 0 /	/ - 6	// .	/ 2 .

③⑧ 農業法人数の推移

. /	0 / 3	4 0	0 2	. 4	.	/ .	0 4	. 3	1 3	. -	. 4	4 6
□□. 4	1 2 /	. 0 .	5 .	0 5	/	2 -	3 /	. 4	2 2	1 -	. 6	- 6
□□ / /	2 2 6	. 5 -	6 /	5 .	3	/ 4	4 5	. 5	1 6	2 5	/ -	- 6
□□ / 0	2 4 -	. 5 2	5 -	6 6	3	. 0 6	5 0	. 4	1 4	2 .	/ .	. /
□□ / 1	2 6 5	/ - .	4 1	. . 3	4	. 2 4	5 4	. 6	1 4	2 .	/ -	. 4
□□ / 2	3 2 /	/ . 3	4 /	. 2 .	. 0	. 5 2	6 0	/ 0	1 4	2 -	/ 1	0 -

③⑨ 農家経済の推移

		. /	. 4	/ /	/ 0	/ 1	/ 1	/ 1
	5) 25.) 0 --	5) 463) 2 --	1) 666) ---	2) / 51) ---	1) 3 / /) ---	1) 522) ---	1) 1 / 0) ---	1) 43 /) ---
	3) 163) 5 --	2) 4 . .) 4 --	0) 355) ---	0) 6 . 4) ---	0) - 52) ---	0) - 54) ---	/) 561) ---	/) 6 --) ---
	.) 151) 5 --	.) - 6 -) ---	.) - 0 /) ---	.) 332) ---	.) 103) ---	.) 366) ---	.) 210) ---	.) 014) ---
	2) - . /) ---	1) 3 / .) 4 --	/) 323) ---	/) / 2 /) ---	.) 316) ---	.) 055) ---	.) 02 .) ---	.) 220) ---
	/) - 51) 2 --	0) - 51) 5 --	.) 0 . .) ---	.) 020) ---	.) 202) ---	.) 44 .) ---	.) 2 / 3) ---	.) 520) ---

. 3

④⑩ 農作物価指数(全国)の推移(平成17年=100)

	. 4	. 5	. 6	/ -	/ .	/ /	/ 0	/ 1
	. - - -	. - / 6	6 4 3	6 4 4	6 2 4	. - . 6	6 6 2	. - 0 4
	. - - -	. - / /	. - 2 3	. . 0 3	. . . 0	. - 6 6	. . / 1	. . 0 .

. 4

④① 農業制度資金の融資状況

		4	/	.4	//	/0	/1	/2
		.) 5 6 .	4 4 6	/ . 0	5 6	4 2	5 /	2 1
		4) - 5 3	0) 1 / 6	.) 0 1 3	1 5 6	0 5 /	0 2 .	/ 3 .
		. 2 4	1 -	.	-			
		5 / 3	0 / 5	. -	-			
		1 2 /	0 . -	// .	. 6 -	/ 0 .	/ 6 5	/ 5 -
		4) 1 5 2	3) / 1 3	0) 4 6 4	0) 2 . -	0) 1 / 1	2) 3 1 1	0) 6 0 4
		6 6	0 4	4 .	. //	. 1 /	. 5 4	/ . 2
		.) 5 0 .	.) 1 - /	.) - 2 1	/) . 3	.) 4 0 3	/) 3 - 5	/) 5 1 2
					. 1	0 2	0 /	0
					. 3 5	3 2 0	0 1 -	1 1
		/) 2 - -	.) . / 6	1 0 2	/ 4 6	0 - 3	0 5 -	0 0 1
		. 2) 0 6 4	. -) - - 0	2) . 2 0	0) 6 6 6	0) 5 - 3	2) 6 6 2	1) . 6 5

// . -

④② 農業共済制度の引受実績の推移

								/1	/1
		4	/	.4	//	/0	/1		%
	%	1 4) 2 2 0	0 3) 1 1 -	0 2) 2 - .	0 3) 2 . 3	0 3) / 2 3	0 3) 0 6 /	6 1 2	. 2 3) 2 . 4
	%	. 0) - 6 .	. 1) . / 1	. 3) 6 0 4	/ -) 3 6 3	/ -) 5 2 6	/ -) 5 0 -	6 5 4	.) - - 1) 0 / 3
%	%	3 / 3	/) 3 / 3	2) 6 4 3	4) 2 6 6	4) 5 2 4	4) 3 1 1	6 4 3	. / 4) 1 6 -
	%	/ .) 3 / 4	/ -) 5 6 1	/ 4) . 4 0	/ 1) 2 1 -	/ 1) 2 6 1	/ 2) 0 4 /	5 / 0	1 5 0) 0 / 2
	%	. 3) . - /	. 2) 5 - 1	/ -) 1 6 2	/ -) 4 2 6	. 6) 2 . .	. 4) 1 0 3	4 1 -	4 1) 4 6 /
	%	. 4) 2 . 4	5) 6 2 .	4) 4 0 0	. -) - / 6	. 1) - / -	. 0) 3 3 2	. 5 4	4) / 4 2
	%	5 0 5	1 3 1	0 3 0	4 6 4	6 1 .	3 6 6	5 6	-
	%	/ 2 3	. 1 /	. 2 4	. 3 3	. 3 /	. 3 2	0 3 .	1) 2 - 2
	%	- / -	- - 2	- 2 3	/ 3 6	/ 4 5	/ 2 1	- 0 3	1) / 0
	%	/ 3	0 /	0 /	0 0	0 1	0 /	. - 6	2) - 6 1
	%		. .	. 6	2 1	2 0	2 0	3 -	/) 5 / .
	%				0 2	0 3	. 2	. .	/) . . 1
	%	4 2 /	5 3 1	.) - - 0	6 0 2	6 / 6	6 / .	0 6 .	5 3) / . -
									.) 6 2 5) 3 6 /

④③ 農地転用面積の推移

			. /	. 4	//	/ 0	/ 1
		/ 4 0	. 3 .	. 0 3	. - 3	5 5	. - 3
		6 3	. /	. -	1	0	2
		6 5	. . /	. . 0	2 4	3 2	2 3
		/ . -	/ 0 4	// 6	. 3 2	. 0 .	. 4 1
		1 .	. 5	/ -	/ 4	/ .	/ -
		4 . 5	2 1 -	2 - 5	0 2 6	0 - 5	0 3 .

④④ 農地流動化面積の推移

			. /	. 4	//	/ 0	/ 1
		0) - 2 2	0) 6 . 5	1) 3 2 -	3) - . 0	3) / 2 3	3) - 1 /
		5 0	6 0	. 1 -	5 1	6 5	. - 3
		/) / 2 /	0) / 0 6	0) 6 - 3	2) 2 . 4	2) 4 1 .	2) 1 5 2
		3 4 4	2 0 -	2 4 2	0 6 0	1 - 3	1 0 0
		1 0	2 3	/ 6	. 6	. .	. 5
		6) 3 1 .	. 1) 0 3 /	. 5) - 6 /	/ .) 4 3 5	//) 3 2 .	/ 1) 3 6 .
		. -	. 3	/ -	/ 2	/ 3	/ 6

④5 農業経営基盤強化促進事業の実施状況

		/) - -	/ - 4 5	. / 4 2		0 0 2 0	. 3 5					/ 0 .
		6 0 6	/ 6 5 -	. 0 6 -		1 0 4 -	1 3 2					1 4
		/ 5										
		3 5										
		/) / 0 -	4 1 . 4	/ 2 6 /		.) - - 6	1 1 6					6 .
		. 3 3										
		2 2 1	. - 1 -	1 5 3		. 2 / 3	/ 4 2					1 1
		.) / 3 -	0 0 6 -	. 3 3 -		2 - 2 -	1 - .					5 /
		1) 0 5 -	.) 0 / 4 4	5 - 3 3		/) . 0 1 0	1 5 4	/	. 3 6	2	4 4 5	0 5 1
		0 6 1	0 . 1	. 6 5		2 . /	. 0 -					. /
		. . -	. . -	5 -		. 6 -	. 4 0					/
		/ 0 4	. 2 -	/ . -		0 3 -	. 2 /					/
		4 /										.
		. 4 /	. 6 5	. / /		0 / -	. 5 3					2
		/ . /	/ 4	. . -		0 5	. 5					/ 6
		/ 1 1	/ . 1	/ . /		1 / 3	. 4 2					6
		/ 5 2	4 3	/ . /		/ 5 4	. - .					
	. 1	. 0) 0 2 .	0) . / 4 -	.) 3 2 . 1		1) 4 4 5 1	0 2 5	/	. 3 6	2	4 4 5	6 0 6

		5) 4 5 -	/) . 2 . -	0 - 0 -		/) 1 2 1 -	/ 4 6					5 . 0
		/) . . -	3 1 / 4	. 4 5 2		5 / . /	1 - 6					. . 5
		/) 5 6 -	3 4 0 -	. 4 3 -		5 1 6 -	/ 6 1					/ 2 1
		2) 1 2 -	.) 1 0 3 -	6 4 / -		/) 1 - 5 -	1 1 /	.	0 6	.	0 0 -	1 / 2
		/) 2 - -	5 6 5 -	1 - - -		.) / 6 5 -	2 . 6					. / 1
		0 - 4	. - 3	5 -		. 5 3	3 .					2
		.) 0 5 -	0 1 1 -	. 0 5 -		1 5 / -	0 1 6					6 2
	4	/ 0) 0 . 1	3) . 2 2 0	/) . 4 2 2		5) 0 0 - 5	0 2 4	.	0 6	.	0 0 -	.) 5 0 1

		/) 1 2 -	/ 1 4 4	3 6 -		0 . 3 4	. / 6					. 3 2
		/ 5 /	. - 2 -			. - 2 -	0 4 /					/ 3
		. - -	. 2 .			. 2 .	. 2 .					. 0
		. / -	1 . 6	- 6		1 / 5	0 2 4					1
		3 6 0	. 5 5 -	/ 1 0		/ . / 0	0 - 3					1 5
		4 - 2	/ 2 1 /	1 0 3		/ 6 4 5	1 / /					1 6
	3	1) 0 2 -	5 2 . 6	. 0 4 5		6 5 6 5	// 5					0 - 2

④5 農業経営基盤強化促進事業の実施状況

											%	
		404	.3 / /	5 -		.4 - /	/0 .					0 /
		/) 35 -	30 - -	62 -		4 / 2 -	/ 4 .					4.5
		4 - 4	.24 .	/ 6	.1 6	.41 6	/ 1 4					0.4
		.) 5 - -	/ 62 2	16 0		011 5	.6 /	.	2 .	.	21 -	1.0
		/) - - -	3.3 -	. - 2 2		4 / . 3	03 .					5.0
		. 20	. - - 4			. - - 4	32 5					. -
		52 .	006 -	- 2		006 2	06 6					2.0
		15 -	/ - 3 /	/ 4		/ - 5 6	10 2					. 6
		166	35 -			35 -	.0 3					3
		23 /	4 . .	0 4		41 5	.0 0	/	// -	/ 3	20 .	/ -
		. 3 -	43 -			43 -	14 2					6
		144	20 -			20 - 1
		0 . .	33 -	. -		34 -	/ . 2					5
		1 - /	21 .			21 .	.0 2	2	.5 .	2	60 4	/ -
		50 /	52 2	/ -		54 2	. - 2					1.5
	1	.) 5 . 6	/) 5 6 1 6	/ 35 3	. 1 6	0) . 45 1	/ 3 6	5	12 /	0 /	/ - - 5	1.5 -

		.) - 6 -	/ 3 / 3	65 -		03 - 3	00 .					2.1
		1) - 3 -	.) . / . -	54 -		.) / - 5 -	/ 6 5					/ 2.5
		3) 45 -	213 -	/ 25 -		5 - 1 -	. . 6	.3	203	.5	05 / 0	55.0
		/) - 0 -	.) . 3 . -	/ 23 -		.) 1 . 4 -	36 5	.	. /	.	. - - 3	. 5.5
		.) 01 -	/ 60 -	3 - -		020 -	/ 3 0	.	. - -	1	2 / -	. . 3
		1) / 4 -	/ . 0 -	42 -		/ 55 -	3 4	.4	.) 015	05 .	.) - 32 .	0.44
		654	/ 15 -	3 . -		0 - 6 -	0 . 0	.	24	0	16 -	6.1
		5 / 6	. / 0 6	. / 5		. 03 4	. 3 2					. 3 .
	5	/ .) 053	0) 635 2	6 - 4 5		1) 543 0	// 5	03	/) - 20	31	.) 225 6	/) . 0 .

		/) . . -	. 55 3	3 1		. 62 -	6 /					1 .
		.) 53 -	0 / 4 1	65 3		1 / 3 -	// 6					1.2
		24 -	41 3	1 2		46 .	.0 6					2
		/) 22 -	132 -	20 0		2 . 5 0	/ - 0	0	54	0	43 5	3 -
		/ - 0	02 -	3 . -		63 -	14 0					3
		.) - 1 -	06 / -	02 -		1 / 4 -	1 1	.	. 0 2	1.0
		/) - 1 -	226 4	. 15 4		4 - 5 1	01 4	.	1 /	.	. 0 -	2.1
	4	. -) 040	/) - 1 / 0	1 - 4 2		/) 116 4	/ 0 3	2	. 12	2	. - 0 0	/ 2.1

	23	51) 263	. 6) - 06 6	2) 215 3	. 1 6	/ 1) 3 - 0 1	/ 6 .	2 /	/) 525	. 4	.) 640 5	2) 610
--	----	----------	--------------	-----------	-------	---------------	-------	-----	---------	-----	-----------	---------

2 農村づくり、環境にやさしい農業の展開

④⑥ 生活環境の整備状況

		26 .		2 / /	06 1	0 - 2	1 - .	21 -	
	. /	3 / 2	16 4	24 1	1 . 4	03 /	1 / 1	24 3	
	. 4	32 0	20 3	3 . 3	16 2	1 . .	2 - 1	3 . 1	
		51 6		36 3	3 / 1	12 /	30 4	44 3	
	. /	54 1	36 0	41 /	31 0	2 / -	32 6	5 - 2	
	. 4	55 .	40 3	44 .	4 . 5	26 -	40 .	50 /	
		61 5		22 5	24 6	3 . 5	24 5	56 2	
	. /	60 6	15 0	20 /	1 . .	12 /	1 - 4	54 5	
	//	62 4	35 2	46 4	26 0	61 0	24 3	60 .	
		66 5		51 3	50 2	33 .	50 5	65 1	
	. /	. - - -	6 . 1	6 . 1	6 . 1	61 2	6 . /	66 /	
	. 4	. - - -	63 .	63 6	62 2	6 / 5	62 3	66 3	
		41 -	. 2 1	. 5 3	. . -	1 .	. . 3	32 6	
	. /	5 - 5	/ 5 1	0 - 4	/ 2 /	. 6 1	/ 2 4	40 4	
	/ 1	56 6	31 /	34 3	2 . 3	31 /	/ 6 1	56 -	

④⑦ 中山間地域農業の概要

		. 4		//		
%		2) - 16) 6 - 5	00 -) 6 - 1	3 3	2) - 4 -) 6 3 5 / 40) 2 6 4	2 1
%		41) 6 4 3	/ -) - 1 -	/ 3 4	3 .) 6 5 . . 3) 6 4 3	/ 4 1
%		62) - / 0	/ 5) 5 . 6	0 - 0	35) - 6 . . 5) 4 . /	/ 4 2
3.2	%	21 1	23 6		25 / 3 . 2	
□ □ □ □ □	%	4 /) 0 1 /	. 4) / 2 6	/ 0 6	3 -) 0 1 5 . 3) . 3 .	/ 3 5
	%	6 3	5 3	5 6 3	6 4 6 2	6 4 6
	%	4) - 0 -	/) 3 1 /	0 4 3	4) . 5 6 /) 5 / 3	0 6 0

④ 中山間地域等直接支払制度の実施状況（平成25年度）

	協定数		協定参加者数	交付金額（千円）		合計	協定農用地面積（ha）								
	うち個別協定数	左記のうち共同取組活動充当割合（%）		小計	田			畑			草地				
					急傾斜		小区画不整形	緩傾斜	小計	急傾斜	緩傾斜	小計	緩傾斜		
福岡市	19	0	286	17,568	50.8	99.6	99.3	87.0	0.0	12.3	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0
筑紫野市	6	0	120	14,731	50.0	70.7	69.9	69.9	0.0	0.0	0.7	0.3	0.4	0.0	0.0
宗像市	13	0	156	11,773	45.7	83.2	82.8	39.5	0.0	43.3	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0
糸島市	17	0	357	32,987	53.6	204.9	169.3	129.9	0.0	39.4	35.2	16.5	18.8	0.4	0.4
久留米市	6	0	328	12,224	47.2	156.1	145.4	0.0	0.0	145.4	10.7	2.8	8.0	0.0	0.0
うきは市	38	4	1,089	71,726	47.6	600.4	157.1	153.9	0.0	3.2	443.3	305.4	138.0	0.0	0.0
朝倉市	63	0	1,111	62,665	55.5	636.7	182.3	86.6	0.0	95.7	454.4	345.0	109.4	0.0	0.0
筑前町	3	0	39	5,916	50.0	28.2	28.2	28.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東峰村	26	0	491	24,734	64.0	127.0	122.2	113.8	6.9	1.6	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0
北九州市	11	0	181	17,681	45.5	92.0	92.0	82.1	0.0	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡垣町	5	0	72	11,513	50.0	61.4	57.7	49.9	0.0	7.8	3.8	3.5	0.2	0.0	0.0
直方市	5	0	35	3,432	50.0	17.8	17.8	16.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飯塚市	15	0	135	12,631	57.5	68.7	68.6	68.6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
田川市	3	0	26	1,867	100	9.9	9.9	8.3	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
宮若市	10	0	99	8,661	14.5	48.8	41.1	41.1	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
嘉麻市	19	0	415	59,639	53.2	284.0	284.0	284.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
香春町	3	0	63	7,499	15.4	35.1	35.1	35.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
添田町	11	0	115	8,579	57.0	50.6	50.3	39.9	0.0	10.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
川崎町	6	0	83	6,746	29.3	32.1	32.1	32.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福智町	6	0	73	10,913	35.0	52.2	51.6	51.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
大牟田市	8	0	99	4,710	53.4	36.9	14.4	12.2	0.0	2.2	22.5	22.5	0.0	0.0	0.0
八女市	243	2	3,984	285,785	53.1	2,486.3	671.2	582.3	0.0	88.9	1,815.2	1,217.0	598.1	0.0	0.0
みやま市	37	0	578	56,747	50.0	504.0	107.5	37.6	0.0	69.9	396.6	388.6	8.0	0.0	0.0
広川町	3	0	23	1,570	48.3	18.1	1.6	1.6	0.0	0.0	16.5	11.5	5.0	0.0	0.0
行橋市	5	0	102	16,469	41.1	106.6	106.6	61.1	0.0	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
豊前市	16	1	362	31,779	51.5	174.5	174.0	138.2	0.0	35.7	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
荏田町	1	0	10	667	55.3	3.4	3.1	3.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0
みやこ町	23	0	432	30,611	55.6	194.2	191.8	115.3	0.0	76.5	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0
上毛町	9	0	125	8,451	55.8	52.8	52.8	32.5	0.0	20.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
築上町	11	0	282	23,858	53.4	118.2	116.7	116.7	0.0	0.0	1.5	0.2	1.3	0.0	0.0
	641	7	11,271	864,132		6,454.4	3,236.1	2,518.4	6.9	710.8	3,217.9	2,324.9	893.0	0.4	0.4

資料：農山漁村振興課調べ（平成26年3月末現在）

④9 減農薬、減化学肥料栽培に取り組む面積の推移

(単位：ha)

	平成12年度	17年度	22年度	23年度	24年度	25年度
水稲	641	3,490	7,072	5,676	5,558	5,872
野菜	69	978	1,295	1,299	1,301	1,301
果樹	14	1,346	1,482	1,508	1,456	1,405
茶	21	154	105	104	103	90
その他	1	63	119	145	57	3,301
合計	745	6,031	10,073	8,732	8,475	11,969

資料：食の安全・地産地消課調べ

注：減農薬、減化学肥料栽培に取り組む面積とは、化学合成農薬または化学肥料の使用量が、県基準の半分以下で栽培される面積である

⑤0 エコファーマーの認定者数の推移

(単位：人)

	平成19年度	20年度	22年度	23年度	24年度	25年度
水稲	279	373	524	646	562	543
野菜	2,129	1,858	1,819	1,649	1,506	755
果樹	726	938	819	711	724	476
その他	292	370	384	189	116	32
合計	3,426	3,539	3,546	3,195	2,908	1,806

資料：食の安全・地産地消課調べ

⑤1 農薬の種類別流通量の推移

(単位：t)

	平成12年度	17年度	21年度	22年度	23年度	24年度
除草剤	2,001	2,306	2,626	2,492	2,699	2,495
殺虫剤	2,977	2,817	2,291	2,126	2,164	2,074
殺虫殺菌剤	1,547	906	785	843	889	864
殺菌剤	1,640	1,489	1,039	907	905	924
その他	215	126	118	120	138	131
合計	8,380	7,644	6,859	6,488	6,795	6,488

資料：日本植物防疫協会調べ、年度は、農業年度（前年10月～当年9月）

⑤2 肥料の流通量の推移

(単位：t)

		平成12年度	17年度	21年度	22年度	23年度	24年度
普通肥料	窒素質肥料	9,299	9,193	7,129	7,815	6,743	7,094
	リン酸質肥料	7,509	7,450	5,634	6,187	5,359	5,624
	加里質肥料	8,277	8,386	6,161	6,723	5,834	6,162
	計	25,085	25,029	18,974	20,725	17,936	18,880
主な有機質肥料	油かす	7,166	5,525	4,354	5,284	5,576	4,206
	骨粉	773	0	106	5	19	11
	魚かす	246	200	127	49	57	64

資料：経営技術支援課調べ、年度は肥料年度（当年7月～翌年6月）

注：普通肥料は流通量のうち成分量、有機質肥料は流通量

⑤3 バイオマスの発生量と活用状況

	23年		24年		25年		
	発生割合 (%)	利用率 (%)	発生割合 (%)	利用率 (%)	発生割合 (%)	利用率 (%)	
県内発生量	275万トン	—	266万トン	—	264万トン	—	
全体	100	62	100	63	100	62	
	家畜排せつ物	29	95	30	95	29	94
	食品廃棄物	24	18	25	18	25	17
	木質系	23	39	22	44	22	46
	汚泥	13	92	13	92	13	91
	農作物非食用部	11	83	10	82	11	79

資料：林業振興課調べ

IV 都市と農村の共生

⑤8 農産物直売所の設置数の推移

(単位：か所)

農林事務所	平成7年度	12年度	17年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
福岡	68	86	76	56	55	56	54	52	49
朝倉	17	39	51	51	50	49	48	47	48
八幡	23	23	21	24	19	20	19	16	16
飯塚	31	40	33	31	32	31	30	29	29
筑後	13	34	36	44	45	43	44	41	36
行橋	12	15	18	16	16	16	16	16	16
計	164	237	235	222	217	215	211	201	194

資料：普及指導センター調べ（3月末現在）、平成24年度は食の安全・地産地消課調べ

⑤9 米飯給食の実施状況

(平成25年5月現在)

区分	学校総数 (国公立校のみ)	完全給食 実施校数	実施回数						週当たり
			週2回	週2.5回	週3回	週3.5回	週4回	週5回	平均回数
小学校	754	751	11	6	535	68	123	8	3.21
		割合 (100%)	1.5%	0.8%	71.2%	9.1%	16.4%	1.1%	(3.20)
中学校	344	294	0	11	143	13	109	18	3.50
		割合 (100%)	0.0%	3.7%	48.6%	4.4%	37.1%	6.1%	(3.46)
計	1,098	1,045	11	17	678	81	232	26	3.29
		割合 (100%)	1.1%	1.6%	64.9%	7.8%	22.2%	2.5%	(3.27)

資料：食の安全・地産地消課調べ

注：「完全給食」とは、パンまたは米飯、ミルク、おかずからなる給食をいう。

注：（ ）内は前年5月現在の回数

V 地域の動向

⑥0 地域別の主要農業指標

農林事務所	(1) 総農家数	(2) 販売農家	(3)			(4) 農業従事者 (販売農家)	(5) 農業就業人口 (販売農家)	(6) 基幹的農業従事者 (販売農家)
			主業 農家	準主業 農家	副業的 農家			
福岡	10,821	7,002	1,681	1,642	3,679	3,819	11,883	9,172
朝倉	14,870	10,425	3,321	2,311	4,793	4,445	18,444	15,171
八幡	4,130	2,403	460	568	1,375	1,727	3,714	2,809
飯塚	9,178	6,690	903	1,666	4,121	2,488	8,778	5,918
筑後	14,467	9,557	3,533	1,739	4,285	4,910	17,910	14,605
行橋	8,515	5,650	518	1,078	4,054	2,865	7,362	3,657
県計	61,981	41,727	10,416	9,004	22,307	20,254	68,091	51,332

⑥1 地域別の農業構造指標

		556			
				95	

⑥2 地域別の耕地面積の推移

(単位：ha)

	年	耕地面積	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地	
福岡	12年	15,200	11,700	3,530	2,150	1,280	91
	17年	14,100	11,100	2,970	2,000	883	91
	22年	13,600	10,800	2,770	—	—	—
朝倉	12年	24,992	19,433	5,539	2,367	3,132	33
	17年	24,200	18,900	5,250	2,270	2,983	3
	22年	23,500	18,600	4,910	—	—	—
八幡	12年	4,780	3,900	876	494	378	4
	17年	4,580	3,720	855	492	362	1
	22年	4,400	3,580	800	—	—	—
飯塚	12年	13,300	11,400	1,890	1,070	751	70
	17年	13,000	11,200	1,780	1,040	704	33
	22年	12,700	11,100	1,690	—	—	—
筑後	12年	24,708	16,107	8,551	1,833	6,698	7
	17年	23,300	15,400	7,910	1,870	6,040	2
	22年	21,800	14,700	7,110	—	—	—
行橋	12年	11,400	9,920	1,470	861	465	143
	17年	10,800	9,460	1,340	761	443	134
	22年	10,500	9,230	1,260	—	—	—
県計	12年	94,400	72,500	21,800	8,780	12,720	348
	17年	89,900	69,800	20,100	8,430	11,400	264
	22年	86,500	67,900	18,600	7,950	10,400	235

資料：農林水産省「耕地面積調査」（8月1日現在、平成14年以降は7月15日現在）

注：ラウンドの関係により、計が一致しない場合がある。

63 地域別の生産動向

福岡農林事務所管内の作付面積(飼養頭羽数)及び生産量

(単位：ha, 頭, t, 千本, 千羽)

	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量
米	8,940	42,000	7,000	34,700	6,848	32,348	6,360	29,781	6,268	30,048	6,280	29,112
麦	1,130	4,200	1,140	5,170	1,491	5,093	1,714	4,763	1,747	4,872	1,781	5,303
大豆	215	415	458	788	543	988	552	839	495	663	470	682
キャベツ	433	16,489	345	13,600	264	10,800	149	5,711	142	5,902	147	5,611
だいこん	213	11,689	197	11,700	139	9,470	66	6,206	89	6,397	91	6,625
ブロッコリー	205	2,240	218	2,290	215	2,320	222	2,040	215	1,937	233	2,053
いちご	178	3,969	150	4,510	120	3,460	68	2,158	57	2,232	53	2,153
うんしゅうみかん	425	8,609	374	5,070	237	3,550	111	840	115	941	107	936
なつみかん	186	2,580	138	2,590	85	1,610	31	612	27	587	22	544
ばら	20	19,300	20	20,200	19	17,700	11	6,178	9	5,585	10	5,627
乳用牛	6,016	-	5,714	-	5,569	-	4,489	-	4,541	-	4,682	-
肉用牛	11,036	-	9,976	-	8,982	-	9,135	-	7,810	-	7,072	-
豚	38,032	-	23,866	-	24,954	-	26,284	-	22,734	-	24,387	-
採卵鶏	1,323	-	1,114	-	1,051	-	1,159	-	1,074	-	1,218	-
肉用鶏	396	-	578	-	686	-	522	-	468	-	512	-

注：平成17年以後のだいこんは春だいこん、秋冬だいこんの合計のみ

朝倉農林事務所管内の作付面積(飼養頭羽数)

飯塚農林事務所管内の作付面積(飼養頭羽数)及び生産量

(単位: ha, 頭, t, 千本, 千羽)

年 作物名	平成7年 (1995)		12年 (2000)		17年 (2005)		22年 (2010)		23年 (2011)		24年 (2012)	
	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量
米	8,560	42,100	7,250	36,300	7,134	34,249	6,854	32,344	6,677	32,476	6,716	31,303
麦	554	2,100	628	2,400	1,173	4,150	1,330	3,935	1,347	2,900	1,408	3,297
大豆	218	334	764	1,390	1,056	1,415	886	1,276	880	1,091	811	1,016
キャベツ	87	2,710	86	3,210	71	2,190	38	1,316	38	1,525	36	1,400
はくさい	84	3,024	72	2,470	49	1,878	36	1,426	36	1,398	31	1,304
ぶどう	217	1,736	200	1,790	188	1,740	118	1,308	118	1,239	118	1,301
なし	92	1,557	84	1,270	82	1,340	44	620	45	663	45	670
かき	102	606	95	690	98	837	47	482	47	525	35	502
きく	35	12,500	34	11,700	32	10,700	29	6,664	29	6,735	30	6,538
トコギキョウ	5	1,840	12	3,280	13	3,070	21	3,258	13	3,008	13	3,301
乳用牛	5,037	-	4,037	-	3,283	-	2,165	-	2,111	-	2,023	-
肉用牛	7,687	-	8,394	-	6,485	-	5,979	-	6,042	-	5,299	-
豚	17,813	-	16,248	-	17,341	-	17,853	-	17,707	-	18,136	-
採卵鶏	1,530	-	1,562	-	1,080	-	794	-	699	-	575	-
肉用鶏	646	-	314	-	309	-	352	-	350	-	338	-

資料: 農林水産省「耕地及び普通作物市町村別データ」、「野菜・果樹・工芸作物・花き市町村別データ」、
畜産及び平成19年以降の野菜・果樹・花きは福岡県調べ

注: 平成17年以後のはくさいは春はくさい、秋冬はくさいの合計のみ

筑後農林事務所管内の作付面積(飼養頭羽数)及び生産量

(単位: ha, 頭, t, 千本, 千羽)

年 作物名	平成7年 (1995)		12年 (2000)		17年 (2005)		22年 (2010)		23年 (2011)		24年 (2012)	
	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量
米	13,060	69,400	10,200	54,300	8,959	43,835	8,329	40,710	8,084	42,490	8,070	41,160
麦	7,180	26,700	7,390	33,400	7,408	32,370	7,325	22,380	7,575	21,206	7,538	25,864
大豆	790	2,011	2,240	5,620	2,489	5,424	2,738	6,963	2,906	7,056	2,814	6,550
いちご	270	11,708	276	12,730	239	10,100	204	8,896	198	8,805	196	9,266
レタス	167	3,552	159	3,250	124	2,600	105	1,762	105	1,720	104	1,667
なす	203	26,439	194	24,410	181	22,900	118	16,267	111	15,388	109	15,275
うんしゅうみかん	2,620	60,346	2,260	41,800	1,910	35,500	915	17,682	898	20,300	884	19,055
ぶどう	579	6,577	510	5,640	411	4,580	244	2,872	249	2,714	232	2,793
キウイフルーツ	341	5,925	272	6,364	254	6,220	232	3,465	232	3,546	234	4,659
なし	220	4,647	217	5,555	192	4,850	145	3,284	138	3,300	117	3,008
きく	188	71,960	223	84,100	200	71,900	195	66,523	192	66,921	199	70,870
い草	556	6,740	134	1,450	63	867	16	197	12	154	14	182
茶	1,425	8,347	1,419	9,640	1,460	10,600	1,452	11,026	1,454	9,500	1,452	11,508
乳用牛	4,439	-	4,224	-	3,438	-	1,986	-	1,908	-	1,898	-
肉用牛	3,541	-	3,404	-	2,745	-	2,511	-	2,566	-	2,510	-
豚	17,914	-	19,019	-	23,566	-	32,373	-	28,721	-	28,484	-
採卵鶏	1,284	-	1,124	-	839	-	426	-	434	-	385	-
肉用鶏	374	-	406	-	303	-	232	-	202	-	233	-

資料: 農林水産省「耕地及び普通作物市町村別データ」、「野菜・果樹・工芸作物・花き市町村別データ」、
畜産及び平成19年以降の野菜・果樹・花き・い草・茶は福岡県調べ

注: 平成16年以前は旧筑後農林管轄区域(旧城島町、三潴町を含む)

行橋農林事務所管内の作付面積(飼養頭羽数)及び生産量

(単位: ha, 頭, t, 千羽)

年 作物名	平成7年 (1995)		12年 (2000)		17年 (2005)		22年 (2010)		23年 (2011)		24年 (2012)	
	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量	面積等	生産量
米	7,330	36,680	6,120	27,400	5,835	27,279	5,422	26,237	5,369	26,237	5,286	25,365
麦	841	3,215	976	3,546	1,210	3,348	1,387	3,361	1,486	3,868	1,535	3,178
大豆	221	404	611	1,100	815	939	936	1,165	942	1,006	848	1,156
レタス	121	2,131	114	1,780	72	1,614	48	1,355	44	1,272	45	1,375
キャベツ	43	1,364	47	1,360	38	1,129	25	743	25	835	30	958
いちご	28	670	26	634	21	484	14	370	13	348	12	335
いちじく	82	-	81	745	77	713	58	652	57	681	53	588
もも	-	-	24	337	25	337	14	176	14	170	14	177
茶	65	207	55	184	49	110	51	129	48	112	48	114
乳用牛	1,853	-	1,539	-	1,490	-	1,103	-	1,014	-	859	-
肉用牛	1,235	-	1,121	-	629	-	600	-	781	-	641	-
採卵鶏	719	-	413	-	399	-	296	-	239	-	229	-
肉用鶏	95	-	95	-	111	-	109	-	103	-	91	-

資料: 農林水産省「耕地及び普通作物市町村別データ」、「野菜・果樹・工芸作物・花き市町村別データ」、
畜産及び平成19年以降の野菜・果樹・茶は福岡県調べ

VI その他

64 農産物の自給率

(ア)食料自給率の推移

													20		23	
95	110	107	100	104	95	95	94	94	95	95	97	96	96			
-	-	-	-	-	100	100	100	100	100	100	100	100	100			
28	4	14	15	7	11	14	13	14	14	11	9	11	12			
73	10	15	13	8	8	8	8	9	11	8	8	8	8			
100	99	96	93	87	83	81	80	81	81	78	76	75	75			
100	100	100	100	100	99	93	92	94	96	94	93	93	93			
100	99	95	90	83	78	77	76	77	76	73	71	70	71			
25	9	8	8	5	7	7	7	7	9	8	8	9	10			
11	4	5	5	2	5	5	5	5	6	6	6	7	8			
100	99	95	91	85	81	79	79	81	82	83	81	79	78			
90	84	77	63	49	44	41	38	40	41	42	38	38	38			
109	102	106	102	102	94	103	94	99	99	101	95	101	103			
102	100	97	84	62	59	52	52	49	54	58	58	52	55			
90	77	81	70	57	52	54	56	56	56	57	56	54	55			
95	81	72	51	39	34	43	43	43	44	43	42	40	42			
100	86	86	74	62	57	50	52	52	52	55	53	52	53			
97	97	92	82	69	64	67	69	69	70	70	68	66	66			
100	97	98	98	96	95	94	95	96	96	96	96	95	95			
86	81	85	78	72	68	68	67	66	70	71	67	65	65			
100	99	93	79	57	53	51	52	53	53	53	55	52	53			
110	100	86	72	59	53	57	60	62	62	62	62	58	58			
88	86	74	72	68	63	65	67	71	71	72	70	62	68			
31	15	33	32	31	29	34	32	33	38	33	26	26	28			
31	23	32	28	15	14	13	13	13	13	14	13	13	13			
115	110	102	92	78	74	79	81	83	86	87	86	87	87			
												28				
														59		
												26				
73	54	53	48	43	40	40	39	40	41	40	39	39	39			
-	-	-	-	-	22	22	19	22	23	22	21	22	-			
86	83	82	75	74	71	69	68	66	65	70	69	67	68			
-	-	-	-	-	43	41	39	40	39	42	44	42	-			

(イ) 諸外国の食料自給率（カロリーベース）の推移（試算）

	40	45	50	55	60	7	12	17	18	19	20	21	22	23	24	
	204	199	206	230	212	242	233	261	280	245	172	173	162	187		
	102	152	109	143	156	176	187	163	161	173	185	168	211	223		
	99	109	104	117	131	135	142	131	132	129	121	111	114	121		
	67	66	68	73	76	85	93	88	96	85	77	80	86	93		
	90	88	79	83	80	77	72	77	73	70	61	63	67	59		
			80		70		63	51	51	45	45	44	48	50	49	40
	67	69	65	72	72	73	78	72	70	62	78	75	77	65		
	93	96	93	98	102	95	96	73	96	73	81	82	83	80		
	90	90	81	99	94	98	113	79	89	81	79	78	74	79		
	51	48	46	53	55	60	62	59	59	57	53	54	55	56	53	57
	42	45	46	48	65	72	75	76	74	69	69	65	69	65		
	119	117	112	146	151	142	129	129	125	123	120	124	134	130		
	78	73	60	54	53	53	48	43	40	40	39	40	41	40	39	39

(資料) 農林水産省「食料需給表」、FAO “Food Balance Sheets” を基に農林水産省で試算した。

ただし、韓国については、韓国農林部「2009年度農漁業農漁村及び食品産業に関する年次報告書」等による。

(注) 1. 供給熱量総合食料自給率は、総熱供給量に占める国産供給熱量の割合である。

なお、畜産物については、飼料自給率を考慮している。また、アルコール類は含まない。

2. ドイツについては、統合前の東西ドイツを合わせた形で遡及している。

3. 日本及び上記諸外国以外は、データが不足しているため試算していない。

4. FAO “Food Balance Sheets” のデータは、過去に遡って修正されることがある。

(ウ) 諸外国の品目別自給率（2009）（試算）

	2009	241	386	411	147	82	183	88	88	160	98	168	32	103	117	
	2009	180	343	367	114	160	290	59	17	133	94	97	109	7	172	
	2009	174	191	194	157	124	80	72	62	100	93	116	35	173	79	
	2009	124	142	150	104	122	8	43	32	108	65	115	21	132	63	
	2009	68	62	54	73	63	28	128	107	76	101	67	26	28	32	
	2009	20	24	25	14	210	0	303	32	175	326	178	89	115	19	
	2009	57	50	47	60	62	8	152	153	120	117	74	49	54	68	
	2009	120	117	117	124	74	66	35	3	72	87	93	55	115	27	
	2009	51	46	50	61	87	30	47	57	80	48	115	2	62	26	
	2009	101	95	99	112	85	50	43	5	67	86	76	47	58	40	
	2009	125	183	189	118	96	175	92	72	112	103	101	66	69	100	
	2009	26	59	11	1	78	8	83	41	58	96	71	53	33	14	
	2010	27	59	9	1	75	8	81	38	56	96	67	55	26	13	
	2011	28	59	11	1	76	9	79	38	54	95	65	52	26	13	
	2012	27	60	12	1	75	10	78	38	55	95	65	53	28	13	

(資料) 農林水産省「食料需給表」、FAO “Food Balance Sheets” を基に農林水産省で試算した。

(注) 1. 穀類のうち、米については玄米に換算している。

2. 食用穀物とは、小麦、ライ麦、米及びその他の食用穀物（日本はそばを含む）の合計である。

3. 粗粒穀物とは、大麦、オート麦、とうもろこし、ソルガム、ミレット及びその他の雑穀（日本は裸麦を含む）の合計である。

4. 牛乳・乳製品については、生乳換算によるものであり、バターを含んでいる。

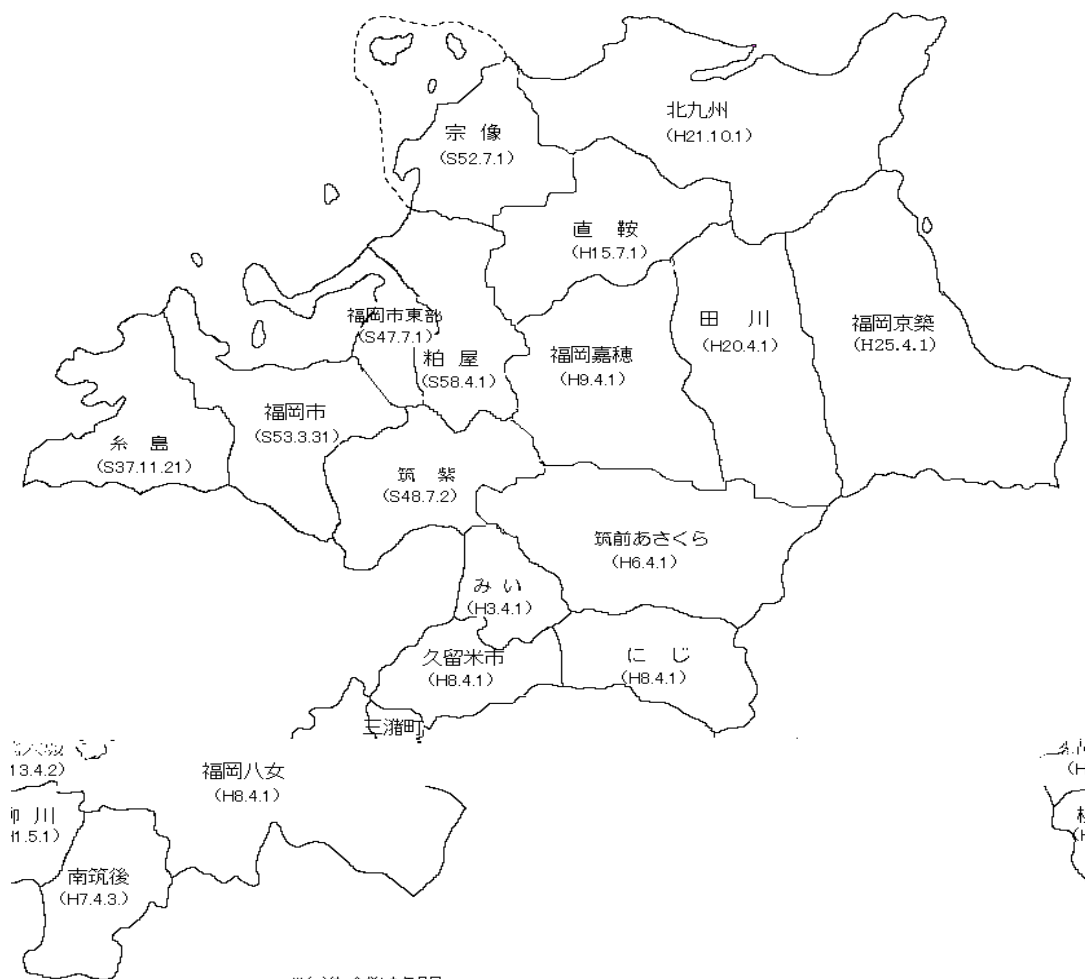
5. 魚介類については、飼肥料も含む魚介類全体についての自給率である。

⑥ 過去の主な農作物被害（農作物等被害額3億円以上）

(単位：百万円)

災害名	(51. 1. 23～24)	(51. 5. 中～6. 上)	(51. 9. 9～13)	(51. 12. 下～52. 2)	(53. 9～10)	(53. 9. 15)
区分	異常低温	長雨	台風17号	寒波	干害	台風18号
農作物等	669	2, 379	9, 698	6, 917	1, 891	7, 849
生産施設	-	-	79	1	-	1, 324
計	669	2, 379	9, 777	6, 918	1, 891	9, 173
災害名	(54. 6. 下～7. 中)	(55. 7～10)	(56. 2. 下)	(56. 6. 25～7. 3)	(57. 4. 10～11)	(57. 5. 29～6. 2)
区分	梅雨前線豪雨	冷夏等異常気象	異常寒波	梅雨前線豪雨	晩霜	降雨
農作物等	2, 286	25, 312	2, 238	333	646	2, 142
生産施設	178	301	-	695	-	-
計	2, 465	25, 613	2, 238	1, 028	646	2, 142
災害名	(57. 8. 26～27)	(58. 9. 27～28)	(59. 1. 18～31)	(60. 6. 下～7. 上)	(60. 8. 31～9. 1)	(62. 8. 30～31)
区分	台風13号	台風10号	雪害	梅雨前線豪雨	台風13号	台風12号
農作物等	422	501	518	774	4, 947	3, 731
生産施設	-	10	1, 326	68	609	255
計	422	511	1, 845	842	5, 556	3, 986
災害名	(63. 6～7)	(2. 6. 26～7. 2)	(2. 6～9)	(3. 2～7)	(3. 7. 29)	(3. 9. 13～14)
区分	梅雨前線豪雨	梅雨前線豪雨	干ばつ、暑熱	長雨、日照不足等	台風9号	台風17号
農作物等	587	962	533	10, 093	934	10, 463
生産施設	-	213	-	6	385	5, 281
計	587	1, 175	533	10, 100	1, 319	15, 743
災害名	(3. 9. 27)	(4. 8. 8～9)	(5. 6. 中～11. 下)	(5. 7. 29～30)	(5. 8. 9～10)	(5. 9. 3～4)
区分	台風19号	台風10号	冷夏、長雨	台風6号	台風7号	台風13号
農作物等	20, 486	1, 551	18, 575	1, 995	2, 225	599
生産施設	4, 821	130	-	244	124	5
計	25, 307	1, 680	18, 575	2, 239	2, 349	604
災害名	(6. 7～10)	(8. 5. 22)	(8. 8. 13～14)	(9. 10. 14)	(10. 1～6)	(11. 9. 24)
区分	干ばつ	降ひょう	台風12号	降ひょう	長雨、日照不足	台風18号
農作物等	3, 713	3, 193	872	592	4, 025	6, 979
生産施設	-	120	47	1	-	238
計	3, 713	3, 293	919	593	4, 025	7, 217
災害名	(15. 6. 19)	(16. 8. 30)	(16. 9. 7)	(17. 9. 6)	(18. 9. 17～18)	(21. 7. 24～26)
区分	台風6号	台風16号	台風18号	台風14号	台風13号	梅雨前線豪雨
農作物等	630	1, 510	11, 451	2, 169	7, 820	889
生産施設	124	104	1, 828	469	702	3, 742
計	754	1, 614	13, 279	2, 638	8, 522	4, 631
災害名	(24. 7. 3～14)	注) ラウンドの関係により、計が一致しない場合がある。				
区分	梅雨前線豪雨					
農作物等	2, 904					
生産施設	1, 187					
計	4, 091					

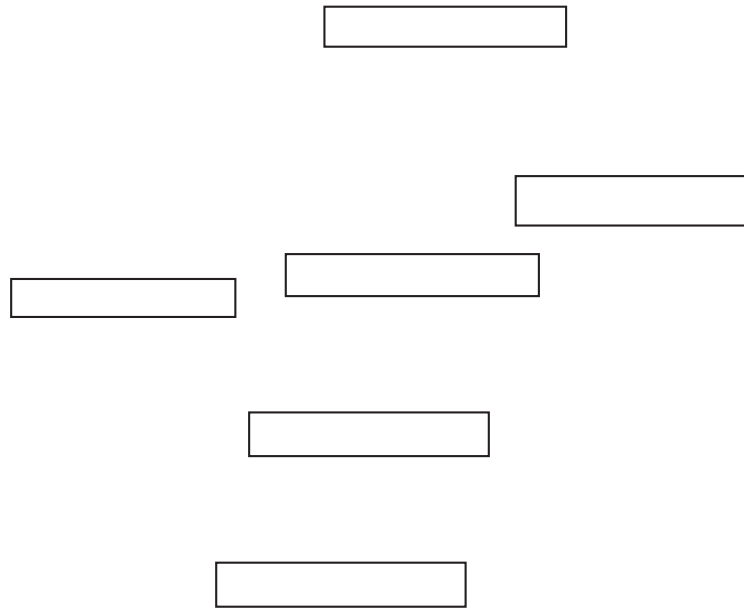
⑥⑥ 気象経過図（平成25年1月～12月）



※()は、合併した年月日

年度	年度末 農協数	合併による設立解散		年度	年度末 農協数	合併による設立解散	
		設立	解散			設立	解散
昭和29年	337	1	2	昭和57年	82	1	2
31年	336	1	2	58年	78	1	5
34年	334	1	3	60年	71	2	9
36年	294	10	50	63年	70	1	2
37年	172	31	153	平成元年	67	2	5
38年	133	14	53	3年	65	1	3
39年	127	2	8	6年	53	3	15
40年	117	6	16	7年	48	3	8
43年	114	2	5	8年	37	4	15
44年	113	1	2	9年	33	1	5
46年	112	1	2	10年	30	1	4
47年	105	3	10	11年	29	1	2
48年	99	3	9	13年	26	2	5
49年	96	1	4	15年	25	1	2
52年	90	3	9	20年	23	0	2
53年	85	1	6	21年	21	1	3
56年	83	1	3	25年	20	1	2

※設立、解散は左の年度中の数

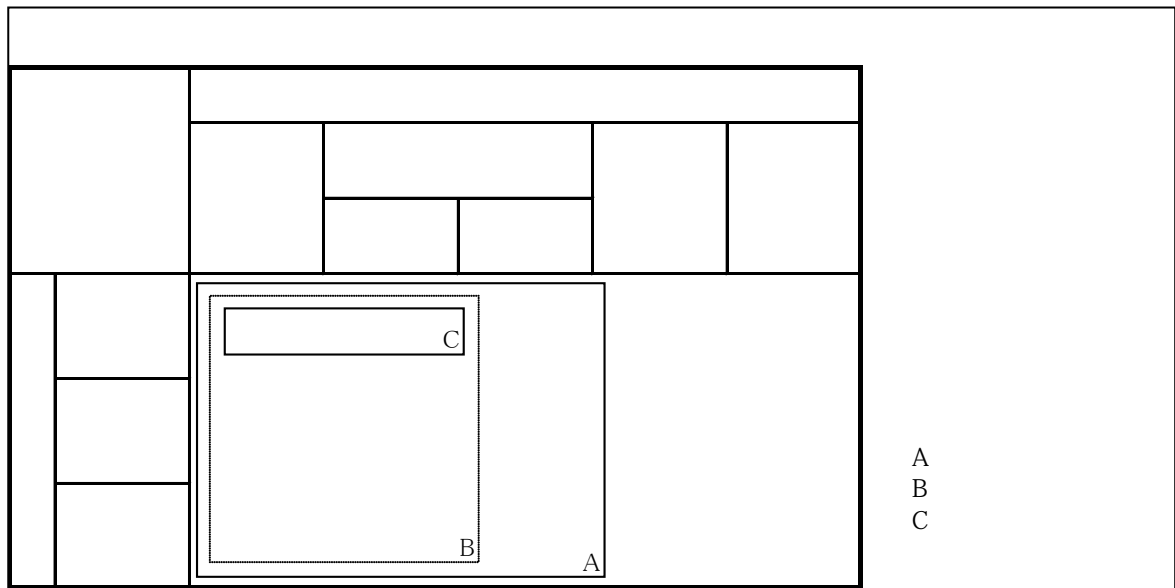


区分

注：[]内は農業振興地域の指定がない市町

69 用語の説明

- 農 家 : 調査期日現在で、経営耕地面積が10 a 以上の農業を営む世帯又は経営耕地面積が10 a 未満であっても、調査期日前1年間における農作物販売金額が15万円以上あった世帯。
- 販 売 農 家 : 経営耕地面積が30 a 以上又は調査期日前1年間における農作物販売金額が50万円以上の農家。
- 自 給 的 農 家 : 経営耕地面積が30 a 未満で、かつ、調査期日前1年間における農作物販売金額が50万円未満の農家。
- 主 業 農 家 : 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家。
- 準 主 業 農 家 : 農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家。
- 副 業 的 農 家 : 1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)。
- 農 業 従 事 者 : 15歳以上の世帯員のうち、調査期日前1年間に自営農業に従事した者。
- 農 業 就 業 人 口 : 自営農業に従事した世帯員(農業従事者)のうち、調査期日前1年間に自営農業のみに従事した者又は農業とそれ以外の仕事の両方に従事した者のうち、自営農業が主の者。
- 基 幹 的 農 業 従 事 者 : 農業に主として従事した世帯員(農業就業人口)のうち、ふだんの主な状態が、「主に仕事」に該当した者。したがって、ふだん仕事として主に農業に従事している人ということになる。



- 認 定 農 業 者 : 「農業経営基盤の強化のための関係法律の整備に関する法律」に基づき、自ら作成した農業経営改善計画が市町村から認定を受けた農業者。
- 単 一 経 営 経 営 体 : 農産物販売金額のうち、主位部門の販売金額が8割以上の経営体。
- 準 単 一 複 合 経 営 経 営 体 : 農産物販売金額のうち、主位部門の販売金額が6割以上8割未満の経営体。
- 複 合 経 営 経 営 体 : 農産物販売金額のうち、主位部門の販売金額が6割未満の経営体。

福岡県食料・農業・農村の動向
— 平成25年度 農業白書 —

/ 3

- 6 / 3 2

- 6 / 3 1 0 0 1 3 5



福岡県行政資料	
分類記号 P A	所属コード 4700103
登録年度 26	登録番号 0002